

来たとき
よりも
キレイに!

世界に示す、クリーンジャパン

KEEP EVERYTHING
MORE BEAUTIFUL
THAN IT WAS.

Show the world, CLEAN JAPAN!

令和元年度

JOCスポーツ環境専門部会 活動報告書

JOC SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION REPORT 2019



JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION

公益財団法人 日本オリンピック委員会
スポーツ環境専門部会



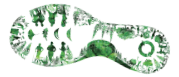
令和元年度
JOCスポーツ環境専門部会
活動報告書



JOC SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION REPORT



公益財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門部会



スポーツと環境についての啓発活動

Japanese Olympic Committee

環境基本理念

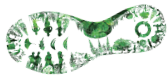
公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)は、オリンピック・ムーブメントを通じ、世界平和運動とスポーツ振興に寄与する目的に基づき、JOC事務所の環境への取り組みを実践し、環境マネジメントシステムの継続的改善を行うことにより地球環境の保全に貢献する。

行動指針

1. JOC事務所において、電力の節減、紙の有効利用などの省資源及び資源リサイクルを推進する。
2. 新たに物品を調達するにあたってはグリーン購入を優先する。
3. 環境に関する法的要求事項及び、その他の要求事項を遵守する。
4. 環境の教育啓発活動の推進によって、全ての職員が環境方針を理解し、その実現に努めるとともに、環境方針を外部にも公表する。

公益財団法人日本オリンピック委員会

会長 山下 泰裕



●第15回JOCスポーツと環境・地域セミナー

会期：2019年10月20日(日)／会場：幕張メッセ 国際会議場／参加人数：116名

【主催者・共催者挨拶】



野端啓夫 JOC理事/スポーツ環境専門部会長



高橋 俊之 オリンピック・パラリンピック推進局 局長

【第1部】



左から藤森涼子氏、大津克哉氏(コーディネーター)



左から荒田有紀氏、上田藍氏、千田健太氏

【第2部】



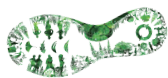
左から小高直子氏(コーディネーター)、大石祐介氏、千葉淳哉氏、門脇年宏氏、三橋一文氏、豊田耕太郎氏

【集合写真】



【会場風景】





●オリンピックデーラン

会期：2019年6月9日(日)～12月21日(土) 会場：全国9会場 参加人数：8,354名



士別大会



久留米大会



クリアファイルを配布(中津大会)

●オリンピックデー・フェスタ

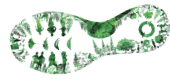
会期：2019年6月15日(土)～2020年2月16日(日) 会場：全国14会場 参加人数：1,485名



フェスタinやまだ



フェスタin大玉



(公財)日本陸上競技連盟

Japan Association of Athletics Federation

●ゴールデングランプリ陸上2019大阪

会期：2019年5月19日(日)

会場：大阪府・ヤンマースタジアム長居



環境バナーと記念撮影

●第103回日本陸上競技選手権大会

会期：2019年6月27日(木)～30日(日)

会場：福岡県・博多の森陸上競技場



環境バナーと記念撮影

●東京マラソン2020

会期：2020年3月1日(日) 会場：東京都



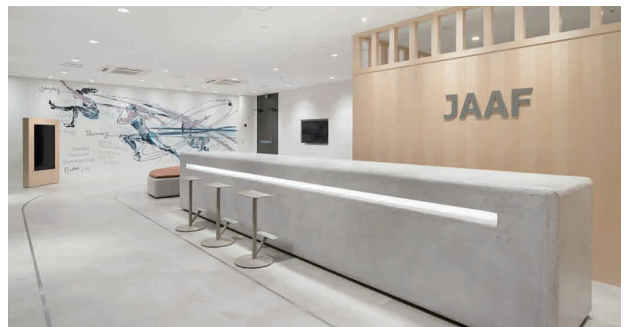
LIMEX素材の給水コップ活用



●日本陸上競技連盟 新オフィス 環境に配慮した空間設計



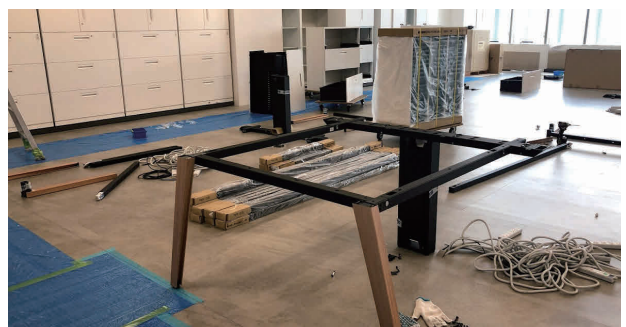
ワークスペース



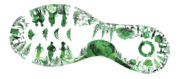
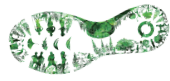
エントランススペース



オフィス緑化



組み立て式ワークデスク



(公財)日本水泳連盟

Japan Swimming Federation

●水泳の日2019

会期：2019年8月11日(日) 会場：愛知県・日本ガイシアリーナ



アスリートグループによるJOCポスターアピール



IOC環境賞受賞報告パネルと歴代オリンピック紹介パネル



アスリートと水球チャレンジ



県立高校吹奏楽部とコラボ

●第74回国民体育大会

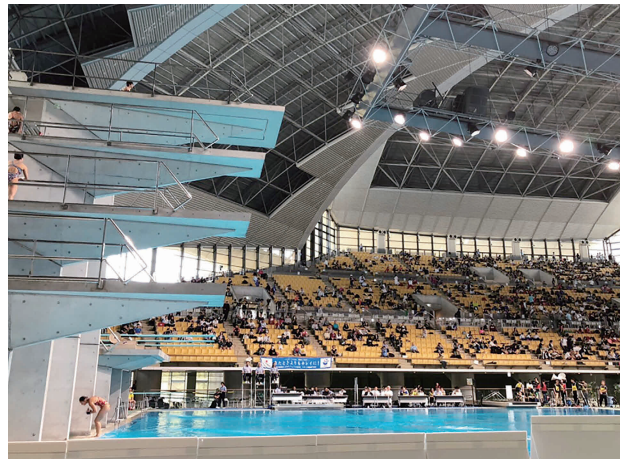
会期：2019年9月11日(水)～16日(月)
会場：茨城県・山新スイミングアリーナほか



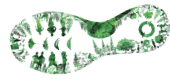
本番前の最終練習

●日本室内選手権飛込競技大会

会期：2019年4月17日(水)～21日(日)
会場：東京都・東京辰巳国際水泳場



女子高飛び込み 練習



(公財)日本サッカー協会

Japan Football Association

●浦和レッズ 秋のごみゼロ運動

会期：2019年11月10日(日) 会場：埼玉県さいたま市浦和区



地域清掃活動にクラブスタッフも参加

●栃木SC ホームゲームでのエコステーション設置

会期：通年 会場：栃木県宇都宮市・栃木県グリーンスタジアム



宇都宮市の「もったない運動」と連携し、ごみ分別活動を開催

●ツエーゲン金沢 ごみ不法投棄撲滅キャンペーン

会期：2019年5月30日(木) 会場：石川県金沢市香林坊



市内啓発活動に選手も参加

●ジュビロ磐田 植樹活動

会期：2019年11月2日(土) 会場：静岡県浜松市天竜区



エコステーションで回収した資源を換金し、苗木購入を実施

●アビスパ福岡 一人一花運動

会期：2018年度～2019年度
会場：福岡県福岡市・香椎浜小学校



スクール生、アカデミー生、トップ選手など参加

●福島ユナイテッドFC LEADS TO THE OCEAN活動

会期：2019年6月9日(日)ほか
会場：福島県福島市・とうほう・みんなのスタジアム周辺



11回開催し、570名で清掃活動を実施

●FC岐阜 クリーン・キャンペーンin海津

会期：2019年6月2日(日)
会場：岐阜県海津市・木曾三川公園センター



長良川清掃活動に難波宏明クラブアンバサダーが参加

●ヴィッセル神戸 ステンスワンプロジェクト

会期：2019年7月20日(土)ほか
会場：兵庫県神戸市・ノエビアスタジアム神戸



ごみのばい捨て禁止、路上喫煙禁止活動に協力
©VISSEL KOBE



(公財)日本テニス協会

JAPAN TENNIS ASSOCIATION

●JTAホームページで「JTA環境保全基本方針」を紹介



●第43回全日本都市対抗テニス大会(2020燃ゆる感動 かごしま国体 テニス競技会 リハーサル大会)

会期：2019年7月18日(木)～21日(日)
会場：鹿児島県・県立鴨池庭球場



(左から)鹿児島県テニス協会 会長 稲葉直寿、鹿児島県 観光交流局長 有村隆生



(左から)燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会鹿児島市実行委員会 事務局長 尾堂正人、鹿児島県テニス協会 会長 稲葉直寿、鹿児島県テニス協会 理事長 中村和行、公益財団法人日本オリンピック委員会 専務理事 福井烈(公益財団法人日本テニス協会 専務理事)



(向かって左から)公益財団法人日本オリンピック委員会 専務理事 福井烈(公益財団法人日本テニス協会 専務理事)、鹿児島県テニス協会 事務局長 小川康

●第37回第一生命全国小学生テニス選手権大会

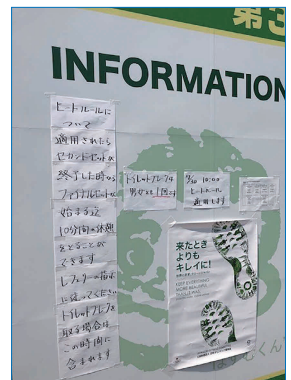
会期：2019年7月27日(土)～30日(火)
会場：東京都・第一生命保険株式会社 相模園グラウンドテニスコート



表彰式



大会プログラムに環境ポスター掲載



熱中症対策のヒートルール

●第46回全国中学生テニス選手権大会 大阪大会

会期：2019年8月18日(日)～24日(土)
会場：大阪府・マリテニスパーク・北村



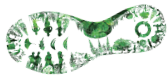
大会関係者と環境ポスター

●三菱 全日本テニス選手権94th

会期：2019年10月26日(土)～11月3日(日)
会場：東京都・有明コロシアムおよび有明テニスの森公園コート



表彰式



(公社)日本ボート協会

Japan Rowing Association

●海の森水上競技場完成記念レガッタ

会期：2019年6月16日(日)

会場：東京都・海の森水上競技場



リサイクルマークをあしらったごみ袋を受付にて配布

●2019世界ボートジュニア選手権大会

会期：2019年8月7日(水)～11日(日) 会場：東京都・海の森水上競技場



大会会場内 WWFジャパンブースにて、小学生環境大使へ水質環境についてのレクチャー(詳しい内容は本文中に記載)

●全日本大学選手権競漕大会

会期：2019年9月5日(木)～8日(日) 会場：埼玉県・戸田ボートコース



レース会場から最寄り駅までの清掃運動にオリンピックをふくむアスリートが参加



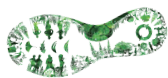
戸田公園駅に設置されたゴミ回収ブース

(公財)日本バスケットボール協会

JAPAN BASKETBALL ASSOCIATION

●日本バスケットボール協会事務局





(公社)日本ホッケー協会

Japan Hockey Association

●第38回全日本大学ホッケー王座決定戦・東西交流戦

会期：2019年7月4日(木)～7日(日) 会場：大阪府・立命館OICフィールド、京都府・グリーンランドみずほホッケー場



大会風景



試合風景

●第41回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会

会期：2019年7月27日(土)～29日(月) 会場：栃木県・日光市ホッケー場



試合風景



会場に横断幕を掲示

●第20回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会

会期：2019年11月9日(土)～10日(日) 会場：福井県・県立ホッケー場、越前町宮朝日総合運動場



試合風景



スタンドに横断幕・ポスターを掲示



(公財)日本バレーボール協会

Japan Volleyball Association

●第5回全日本9人制バレーボールトップリーグ女子ファイナルラウンド

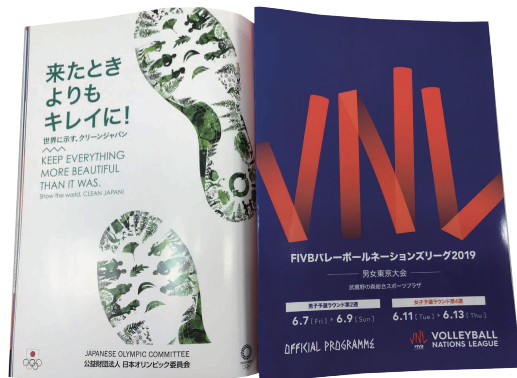
会期：2019年8月10日(土)～11日(日) 会場：東京都・墨田区総合体育館



協合作成のバナーを会場の一番目立つところに掲示

●FIVBバレーボールネーションズリーグ2019男女東京大会

会期：2019年6月7日(金)～13日(木)
会場：東京都・調布市武蔵野の森総合スポーツプラザ



大会パンフレットに環境ポスターを掲載

●FIVBバレーボールワールドカップジャパン2019

会期：2019年9月14日(土)～10月15日(日)
会場：神奈川県・横浜アリーナ、広島県・広島グリーンアリーナほか



大会パンフレットに環境ポスターを掲載

●スーパーカレッジ男女大学選手権大会

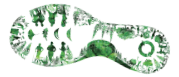
会期：2019年11月26日(火)～12月1日(日) 会場：東京都・大田区総合体育館、墨田区総合体育館ほか



決勝戦でのバナー掲示



大会パンフレットに環境ポスターを掲載



(公財)日本体操協会

Japan Gymnastics Association

●2019新体操日本代表選考会

会期：2019年4月20日(土)～21日(日)

会場：群馬県・高崎アリーナ



応援席への横断幕の掲出

●体操天皇杯第73回全日本体操個人総合選手権

会期：2019年4月26日(金)～28日(日)

会場：群馬県・高崎アリーナ



大型スクリーン上部への横断幕の掲出

●第17回全日本新体操ユースチャンピオンシップ

会期：2019年5月24日(金)～26日(日)

会場：群馬県・高崎アリーナ



会場内への横断幕の掲出

●第73回全日本体操種目別選手権

会期：2019年6月22日(土)～23日(日)

会場：群馬県・高崎アリーナ



大型スクリーン上部への横断幕の掲出

●第34回世界トランポリン競技選手権大会日本代表選考会

会期：2019年6月21日(金)～22日(土)

会場：群馬県・高崎アリーナ



大型スクリーン上部への横断幕の掲出

●第72回全日本新体操選手権大会

会期：2019年10月18日(金)～20日(日)

会場：千葉県・千葉ポートアリーナ



会場内への横断幕の掲出



(公財)日本スケート連盟

Japan Skating Federation

●ワールドカップスピードスケート 第4戦長野大会

会期：2019年12月13日(金)～15日(日) 会場：長野県長野市・エムウェーブ



チームラウンジ



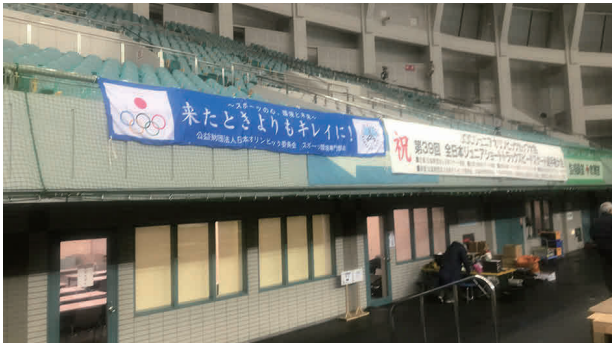
大会役員

●JOCジュニアオリンピックカップ大会

第39回全日本ジュニアショートトラック選手権大会

会期：2019年12月7日(土)～8日(日)

会場：大阪府大阪市・丸善インテック大阪プール



大会バナーの隣にバナーを設置

●第42回全日本ショートトラック選手権大会

会期：2019年12月22日(日)～23日(月)

会場：長野県南牧村・帝産アイススケートトレーニングセンター

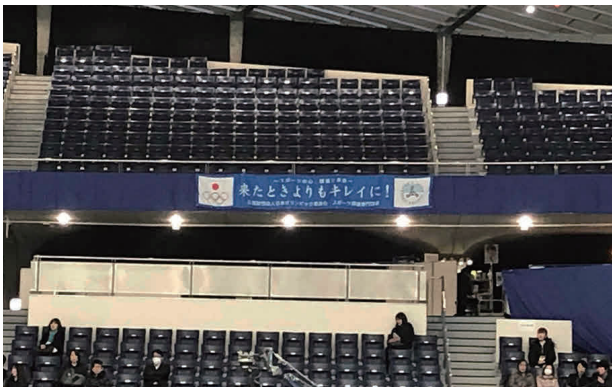


大会バナー横の目立つ位置にバナーを設置

●第88回全日本フィギュアスケート選手権大会

会期：2019年12月18日(火)～22日(日)

会場：東京都渋谷区・国立代々木競技場第一体育館



観客席にバナーを設置

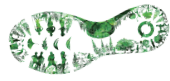
●第40回全国中学校スケート競技会(フィギュア)

会期：2020年2月1日(土)～4日(火)

会場：長野県長野市・ビッグハット



リンクサイドにもゴミ箱を設置



(公財)日本アイスホッケー連盟

Japan Ice Hockey Federation

●第87回全日本アイスホッケー選手権大会

会期：2019年12月6日(金) 会場：東京都・ダイドードリンコアイスアリーナ



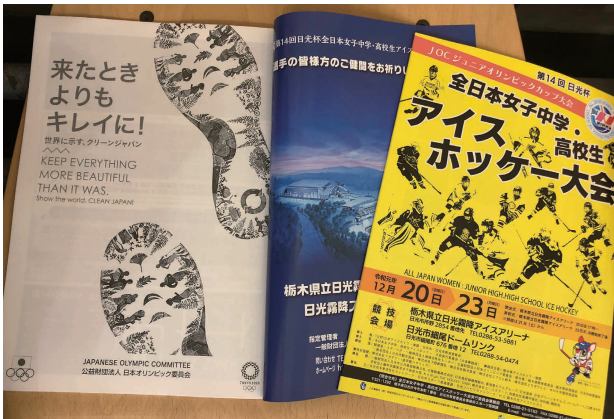
大会会場での環境バナー掲示



大会会場入口付近での環境ポスター掲示

●第14回日光杯全日本女子中学生・高校生アイスホッケー大会

会期：2019年12月20日(金) 会場：栃木県・県立日光霧降アイスアリーナ、日光市細尾ドームリンク



大会パンフレットへの掲示



開会式会場での環境バナーの掲示

●第24回全日本女子アイスホッケー選手権大会

会期：2020年2月22日(土) 会場：兵庫県・神戸市立ポートアイランドスポーツセンター、尼崎スポーツの森



表彰式時の環境啓発アナウンス



大会会場での環境バナー掲示



(公財)日本レスリング協会

Japan Wrestling Federation

●平成31年度・第33回ジュニアクイーンズカップ選手権大会

会期：2019年4月2日(火)～3日(水) 会場：東京都・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館 参加：219団体618名



試合風景



会場に環境ポスターを掲示

●2019年全国中学生選手権大会

会期：2019年6月8日(土)～9日(日)
会場：茨城県・アダストリアみとアリーナ



会場に環境ポスターを掲示

●2019年世界選手権代表選考プレーオフ

会期：2019年7月6日(土)
会場：埼玉県・和光市総合体育館



女子57kg級 伊調馨選手 vs 川井梨紗子選手

●第36回全国少年少女レスリング選手権大会

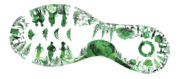
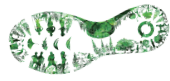
会期：2019年7月26日(金)～28日(日) 会場：和歌山県・和歌山ビッグホエール 参加：209クラブ1244名



湯元健一氏の北京オリンピックの銀メダルセレモニー



「マイボトルDAY」を実施。開会式で各々がマイボトルを掲げアピール



(公財)日本セーリング連盟

JAPAN SAILING FEDERATION

●全日本学生選手権大会

会期：2019年10月30日(水)～11月4日(月・祝) 会場：兵庫県・新西宮ヨットハーバー



競技風景



環境キャンペーン横断幕をかかげ大会を運営

●セーリングワールドカップ江の島大会

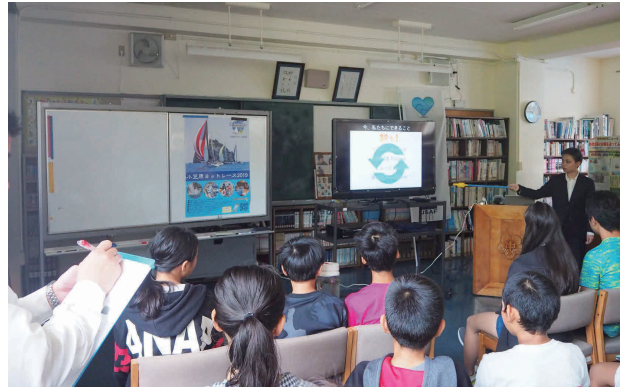
会期：2019年8月26日(月)～9月1日(日)
会場：神奈川県・江の島ヨットハーバー



シングルユースプラスチック(ペットボトル)削減のため、給水タンクに注ぎ口をつけ、海上でも給水できるよう工夫した

●小笠原レースでのヨット体験教室

会期：2019年4月25日(木)
会場：東京都・小笠原中学校



レースの際、海洋プラスチックの収集、調査ならびに現地の中学、高校にて海洋環境教室とヨット体験教室を実施

●第74回いきいき茨城ゆめ国民体育大会(セーリング競技)

会期：2019年9月29日(日)～10月2日(水) 会場：茨城県阿見町・霞ヶ浦セーリング特設会場



不要になったセルをリサイクルしてバッグをつくるワークショップを開催



ワークショップでは環境小冊子を使い環境啓蒙活動を実施



(公社)日本ウエイトリフティング協会

Japan Weightlifting Association

●第21回全国高等学校女子ウエイトリフティング競技選手権大会

会期：2019年7月19日(金)～21日(日)
会場：長野県・松本市総合体育館



環境バナーと記念撮影(団体優勝の飯田高校)

●第66回全国高等学校ウエイトリフティング競技選手権大会

会期：2019年7月30日(火)～8月3日(土)
会場：沖縄県・西崎総合体育館



環境バナーと記念撮影(団体優勝の飯田高校)

●第11回全日本女子選抜ウエイトリフティング選手権大会

会期：2019年11月22日(金)～23日(土) 会場：鹿児島県・入来総合運動場体育館



環境バナーと記念撮影(団体優勝の九州国際大学チーム)



環境バナーと記念撮影(ジュニア日本新記録樹立の山崎晴子選手)

●第56回全日本社会人ウエイトリフティング選手権大会

会期：2019年11月24日(日)～26日(火)
会場：鹿児島県・入来総合運動場体育館



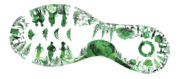
環境バナーと記念撮影(団体優勝の警視庁チーム)

●第40回全日本ジュニアウエイトリフティング選手権大会

会期：2020年3月6日(金)～8日(日)
会場：大阪府・はびきのコロセアム



競技会場に環境バナーを掲示(+109kg級優勝の福山草生選手)



(公財)日本ハンドボール協会

JAPAN HANDBALL ASSOCIATION

●日本ハンドボール協会内事務局



事務局入口に環境ポスターを掲示

●高松宮記念杯第9回全日本社会人選手権大会

会期：2019年5月8日(水)～12日(日)

会場：福井県・福井市、永平寺町



会場内に環境バナーを掲示

●第71回日本選手権大会

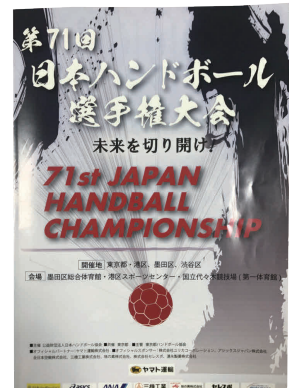
会期：2019年12月24日(火)～28日(土) 会場：広島県・広島市



日本選手権大会決勝の様子



大会プログラムに環境ポスター掲載



●第15回春の全国中学生選手権大会

会期：2020年3月25日(水)～29日(日) 会場：富山県・氷見市



大会プログラムに環境ポスター掲載

※大会の直前まで、大会プログラムにポスター掲載をして準備を行ってきたが新型コロナウイルスの感染拡大の状況を踏まえ、国民の安全・安心を優先し中止となった。



(公財)日本自転車競技連盟

JAPAN CYCLING FEDERATION

●第25回シクロクロス全日本選手権大会内子大会

会期：2019年12月7日(土)～8日(日) 会場：愛媛県・内子町特設コース



スタート地点に環境バナーを掲出



本大会の他、本連盟が主催する全日本選手権(ロード、トラック、MTB、BMX、シクロクロス、トライアル等)においても環境バナーを掲出した。

(公社)日本馬術連盟

Japan Equestrian Federation

●第40回全日本ヤング総合馬術大会2019

会期：2019年5月24日(金)～26日(日) 会場：山梨県馬術競技場



大会会場に環境バナーを掲出

●機関誌「馬術情報」への環境ポスター掲載



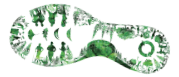
●大会パンフレットへの環境ポスター掲載



全日本ジュニア総合馬術大会2019



全日本総合馬術大会2019



(公財)日本ソフトテニス連盟

Japan Soft Tennis Association

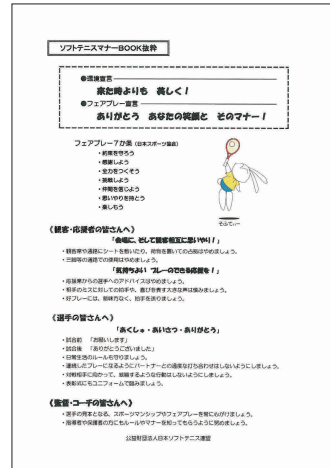
●令和元年度臨時評議員会

会期：2019年12月15日(日) 会場：京都府・ワタキューセイモア株式会社5階 会議室



加盟団体を代表する評議員により臨時評議員会が開催された。環境・教育プロジェクトより活動内容が報告され、マナーチェックシートを紹介し、活用を促した

●ソフトテニスマナー BOOK



(公財)全日本軟式野球連盟

JAPAN RUBBER BASEBALL ASSOCIATION

●スポニチ杯第3回全日本軟式野球大会

会期：2019年11月30日(土)

会場：沖縄県・コザしんきんスタジアム



会場での環境バナー掲出の様子

●高円宮賜杯第39回全日本学童軟式野球大会

マクドナルド・トーナメント

会期：2019年8月18日(日)～8月24日(土) 会場：東京都・明治神宮野球場

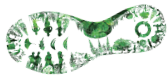


マクドナルド・トーナメント開催時のグラブ支援プロジェクトブースの様子

●海外用具寄贈



寄贈用具の現地の様子 寄贈先:スリランカ



(公財)日本卓球協会

Japan Table Tennis Association

●2019年度 日本卓球リーグプレーオフJTTLファイナル4

会期：2019年12月7日(土)～8日(日) 会場：徳島県・とくぎんトモニアリーナ(徳島市立体育館)



会場での環境ポスター掲示(中国電力・土田美佳選手)



会場での環境ポスター掲示(デンソー・阿部愛莉選手)

●2019年度 全日本実業団選手権大会

会期：2019年7月18日(木)～21日(日)

会場：和歌山県・和歌山ビッグホール

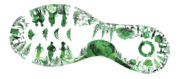
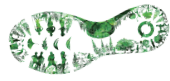


大会プログラムへの環境ポスター掲載

●関東学生卓球連盟



大会会場内での分別ゴミ収集を実施



(公社)日本フェンシング協会

FEDERATION JAPONAISE D'ESCRIME

●エイブルPresents第72回全日本フェンシング選手権大会

会期：2019年9月19日(木)～9月21日(土) 会場：東京都・駒沢オリンピック公園総合運動場 体育館



体育館正面入口



整備された会場内の様子



大会プログラムへの環境ポスター掲載



NF環境委員会メンバー



会場内に環境ポスターを掲示



2階観客席にも環境ポスター掲示



(公財)全日本柔道連盟

All Japan Judo Federation

●皇后盃全日本女子柔道選手権大会

会期：2019年4月21日(日) 会場：神奈川県・横浜文化体育館



競技会場への環境バナー掲出



ゴミ箱の近くにも環境ポスターを掲示

●講道館杯全日本柔道体重別選手権大会

会期：2019年11月2日(土)～3日(日) 会場：千葉県・千葉ポートアリーナ



会場の目につく場所に環境ポスターを掲示



競技会場への環境バナー掲出

●グランドスラム大阪2019

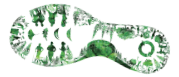
会期：2019年11月22(金)～24日(日) 会場：大阪府・丸善インテックアリーナ大阪



ゴミの分別収集を徹底



入り口受付に環境ポスターを掲示



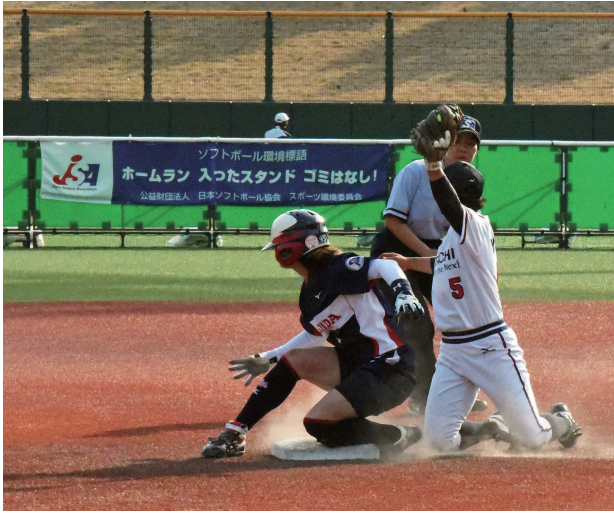
(公財)日本ソフトボール協会

Japan Softball Association

●第52回日本女子ソフトボールリーグ

会期：2019年4月13日(土)～11月17日(日)

会場：全国32会場(開幕節：愛知県名古屋市・ナゴヤドーム、決勝トーナメント：神奈川県横浜市・横浜スタジアム)



開幕節(パロマ瑞穂野球場)でライト側フェンスに設置した環境標語バナー



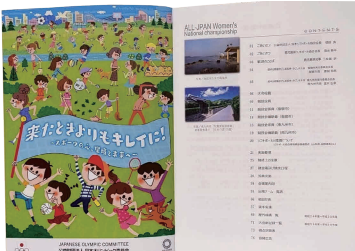
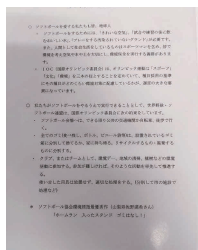
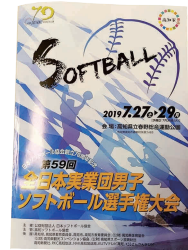
全国各地の会場に設置した環境標語バナー(上:豊田市運動公園野球場、下:はるか夢球場)

●各地で開催された全国大会



全国で開催した各大会会場の場内外にエコステーションを設置し、ゴミの分別収集を実施(左:第71回全日本高校女子選手権大会、右:第16回一般男子大会)

●大会プログラムへの環境ポスター・標語掲載

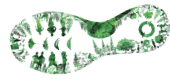


全国大会のプログラムに掲載した環境標語および環境ポスターの一例(上:全日本実業団男子選手権大会、下:全日本総合女子選手権大会)

●公益財団法人日本ソフトボール協会事務局



事務局でもクールビズ、ウォームビズ、紙の削減やごみの分別廃棄、エアコンのこまめな温度調整、ファイルの再利用を心掛けている



(公社)日本ライフル射撃協会

National Rifle Association of Japan

●2019年度全日本社会人ライフル射撃競技選手権大会 兼 第75回燃ゆる感動かごしま国体ライフル射撃競技リハーサル大会

会期：2019年10月25日(金)～10月27日(日)

会場：鹿児島県・鹿児島県ライフル射撃場、ハートピアかごしま



式典会場へのポスター掲示。右より日本ライフル射撃協会 松丸喜一郎会長、
鍵山博国体委員長



競技会場に設置されたポスター掲示

●2019年度各講習会へのポスター掲示

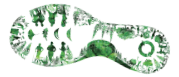


2019年度審判講習会



●ライフル射撃情報誌への環境ポスターの掲載





(一財)全日本剣道連盟

All Japan Kendo Federation

●全日本剣道連盟 事務局



事務局内のリサイクルボックス



事務局内に歴代環境ポスターを掲出

(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会

Japan Mountaineering and Sports Climbing Association

●第43回自然保護委員総会

会期：2019年11月9日(土)～10日(日) 会場：宮城県石巻市 牡鹿保健福祉センター・清優館



総会風景



環境バナーと共に参加者記念撮影

●日本山岳・スポーツ ライミング協会が提唱 する山岳トイレマナー

山のトイレゴミを減らしましょう

◆トイレゴミを減らすには◆

- ①まず、入山前にトイレに行こう。
- ②山では出来るだけトイレで用を足そう(財布に小銭を忘れずに)
- ③使用済みの紙は必ず持ち帰ろう。(ホリ袋はいつも携帯しよう)
- ④携帯トイレも使ってめよう

◆山のゴミを分類すると◆

ゴミ区分	説明	内容
トイレゴミ	排泄物で汚れたもの	ペーパー、ナプキンなど
ポイ捨てゴミ	登山途中で捨てられたゴミ	ボトル、缶、包装紙、弁当箱など
缶ゴミ	自然や食事で出たもの	残飯、残汁など

上記は登山者の努力で減らすことができるものです。

置き去りにしないで山のトイレゴミ(持ち帰りにご協力を)

持ち帰る紙は

屋外でも、山小屋のトイレでも、使った紙は持ち帰らしましょう。そのためにもホリ袋はいつも携帯しましょう。

(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会
自然保護委員会
<http://www.jma-sangaku.or.jp/>



(公社)日本近代五種協会

Modern Pentathlon Association of Japan

●第7回近代3種日本選手権大会 兼 第14回JOCジュニアオリンピックカップ

会期：2019年11月23日(土)～24日(日) 会場：東京都・武蔵野の森総合スポーツプラザ、西競技場



鉛弾・フロンガスを使わない、環境に影響のない光線銃を使用

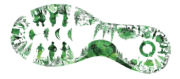
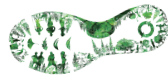
会場内に環境ポスターを掲示

●第59回近代五種全日本選手権大会

会期：2019年12月9日(月)～13日(金) 会場：栃木県体育館、プール、河内総合運動公園



環境ポスター掲示、協会作成のごみ箱設置



(公財)日本ラグビーフットボール協会

JAPAN RUGBY FOOTBALL UNION

●日本代表 ONE TEAM感謝パレード

会期：2019年12月11日(水)
会場：東京丸の内



©JRFU

●ラグビーワールドカップ2019日本大会

会期：2019年10月27日(日)
会場：横浜国際総合競技場



ラグビーワールドカップ開催会場に於いてオリンピック・パラリンピック等経済界協議会との連携によるKEEP THE STADIUM CLEAN活動

(公社)全日本銃剣道連盟

ALL JAPAN JUKENDO FEDERATION

●高松宮記念杯争奪第27回全日本銃剣道選手権大会

会期：2019年8月2日(金) 会場：東京都・日本武道館



大会会場にバナーを掲示



大会プログラムにポスターを掲載

●第19回全日本短剣道大会

会期：2020年2月16日(日) 会場：東京都・練馬区立総合体育館



大会プログラムにポスターを掲載



試合風景



(公社)日本カヌー連盟

JAPAN CANOE FEDERATION

●2019カヌースラロームジャパンカップ 第1戦

会期：2019年4月6日(土)～7日(日)
会場：富山県富山市八尾町



クリーンリバー活動前の集合写真

●2019カヌースラロームジャパンカップ 第3戦

会期：2019年5月11日(土)～12日(日)
会場：岡山県岡山市北区



会場内の清掃活動

●2019カヌースラロームジャパンカップ 第5戦

会期：2019年7月13日(土)～14日(日)
会場：福島県二本松市阿武隈川島山



クリーンリバー活動前の集合写真

●2019カヌースラロームジャパンカップ 第6戦

会期：2019年7月20日(土)～21日(日)
会場：岩手県奥州市胆沢若柳



会場内のスナップショット

●全国少年少女カヌー大会

会期：2019年7月20日(土)～21日(日)
会場：山梨県富士河口湖町 精進湖



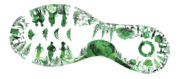
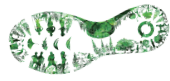
会場内のスナップショット

●日本カヌースプリントジュニア選手権大会

会期：2019年8月19日(月)～22日(木)
会場：山梨県富士河口湖町 精進湖



会場内のスナップショット



(公社)全日本アーチェリー連盟

ALL JAPAN ARCHERY FEDERATION

●全日本小中学生アーチェリー選手権大会

会期：2019年7月6日(土)～7日(日)
会場：島根県奥出雲町・横田公園多目的広場



大会終了後、参加者全員でパナー撮影

●第74回国民体育大会アーチェリー競技

会期：2019年10月4日(金)～6日(日)
会場：茨城県つくば市・葦崎運動公園



競技中に環境標語を掲示板に標示

●第61回全日本ターゲットアーチェリー選手権

会期：2019年10月25日(金)～27日(日)
会場：静岡県掛川市・つま恋リゾート彩の郷



競技中に環境標語を掲示板に標示

●第29回全日本室内アーチェリー選手権大会

会期：2020年2月15日(土)～16日(日)
会場：山形県鶴岡市・小真木原総合体育館



受付ブースでのポスター掲示

●第48回全日本フィールドアーチェリー選手権大会

会期：2019年5月17日(金)～19日(日)
会場：滋賀県米原市・奥伊吹スキー場



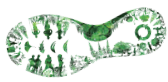
開会式及び閉会式会場での横断幕の掲示

●第40回全日本社会人フィールドアーチェリー選手権大会

会期：2019年9月21日(土)～22日(日)
会場：北海道北広島市・札幌北広島クラッセホテル特設フィールドアーチェリーコース



開会式及び閉会式会場での横断幕の掲示



(公財)全日本空手道連盟

JAPAN KARATEDO FEDERATION

●日本空手道会館内の様子



事務局内に環境ポスターを掲示



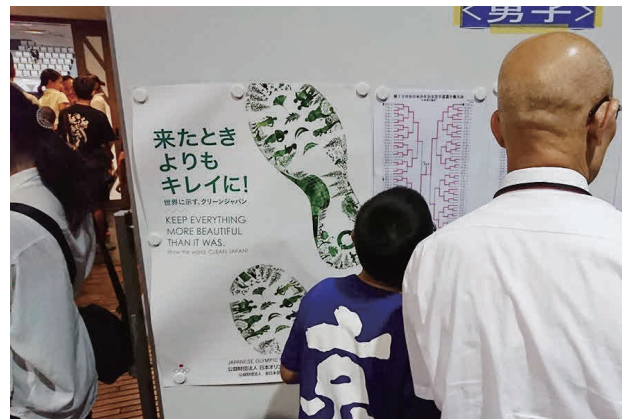
ゴミの分別収集を徹底

●第19回全日本少年少女空手道選手権大会

会期：2019年8月3日(土)～4日(日) 会場：東京都・東京武道館



大会会場に環境ポスターを掲示

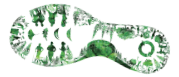


●天皇盃・皇后盃 第45回全日本空手道選手権大会

会期：2019年12月7日(土)～8日(日) 会場：群馬県・高崎アリーナ



大会プログラムへの環境ポスター掲載



(一社)日本クレー射撃協会

Japan Clay Target Shooting Association

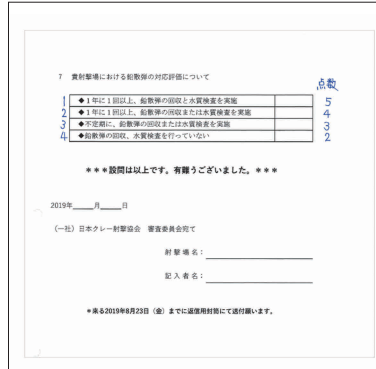
●第74回茨城県国民体育大会 (クレー射撃競技)

会期：2019年10月5日(土)～7日(月)
会場：茨城県狩猟研修センター射撃場



競技役員の会議時に環境ポスター「来たときよりもキレイに」をホワイトボードに貼り、ゴミの分別の徹底をお願いした

●2019年度公認射撃場検定基準 に「鉛散弾の対応評価」を 追加(8月に調査実施)



射撃場経営責任者に環境保全の重要性を認識してもらう意識付けの施策として実施

●日本クレー射撃協会 事務局



事務局内に環境ポスターを掲示

(一財)全日本野球協会

Baseball Federation of Japan

●第90回都市対抗野球大会

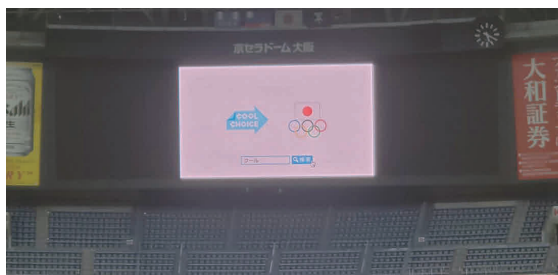
会期：2019年7月13日(土)～25日(木) 会場：東京ドーム



スタジアム内に環境ポスターを掲示

●第45回社会人野球日本選手権

会期：2019年10月25日(金)～11月4日(月・祝)
会場：京セラドーム大阪



環境省クールチョイスメッセージの放映

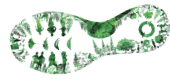
●アオダモ資源育成の会

会期：2019年7月13日(土) 会場：北海道・苫小牧 国有林



本間 満(元福岡ソフトバンクホークス)さんによるバット材(アオダモ)の植樹活動





(公財)全日本なぎなた連盟

ALL JAPAN NAGINATA FEDERATION

●第19回全日本男子なぎなた選手権大会

会期：2019年11月30日(土) 会場：山形県・山形市総合スポーツセンター



試合風景



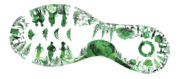
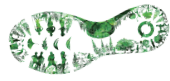
試合風景



会場内にてゴミの分別



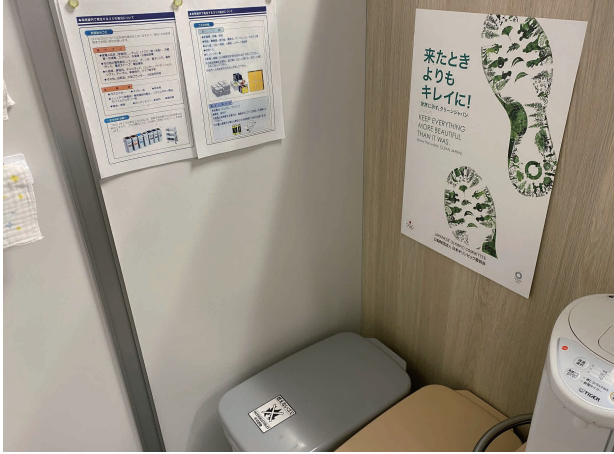
大会会場に環境ポスターを掲示



(公財)全日本ボウリング協会

JAPAN BOWLING CONGRESS

●全日本ボウリング協会事務局



給湯エリアに環境ポスターを掲示



入口付近に環境ポスターを掲示

●2019年度定時評議員会

会期：2019年6月12日(水) 会場：東京都港区・仏教伝道センター



会場内に環境ポスターを掲示



会場内に環境ポスターを掲示

●JOCジュニアオリンピックカップ 第43回全日本高校ボウリング選手権大会

会期：2019年7月29日(月)～31日(水) 会場：神奈川県川崎市・川崎グランドボウル



環境ポスターを手に記念撮影(左から男子優勝者 齋藤翔選手、女子優勝者 原野萌花選手)



大会プログラムに啓発用広告を掲載



(公社)日本武術太極拳連盟

JAPAN WUSHU TAIJIQUAN FEDERATION

●第36回全日本武術太極拳選手権大会 in 岡山

会期：2019年7月12日(金)～14日(日)
会場：岡山県・ジップアリーナ岡山



選手入場口にポスターを掲示



大会パンフレットにポスターを掲載



会場受付にて、ポスターを掲載したパンフレットを頒布

●第27回JOCジュニアオリンピックカップ武術太極拳大会

会期：2019年4月20日(土)～21日(日)
会場：京都府・島津アリーナ京都



大会パンフレットにポスターを掲載

●第74回国民体育大会(武術太極拳競技)

会期：2019年9月15日(土)～16日(日)
会場：茨城県・取手グリーンスポーツセンター

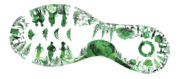
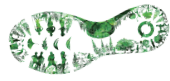


会場通路にポスターを掲示

●日本武術太極拳連盟事務局



来場者の目に触れるよう、入口にポスターを掲示



(公社)日本カーリング協会

JAPAN CURLING ASSOCIATION

●日本カーリング協会主催大会の会場施設における環境啓発ポスターの掲示



どうぎんカーリングスタジアム(北海道)



軽井沢アイスパーク(長野県)

●第37回日本カーリング選手権大会

会期：2020年2月8日(土)～16日(日)
会場：長野県・軽井沢アイスパーク

●第13回日本ミックスダブルスカーリング選手権

会期：2020年2月25日(火)～3月1日(日)
会場：北海道・どうぎんカーリングスタジアム



競技会場に環境バナーを掲出



競技会場に環境バナーを掲出

●第28回日本ジュニアカーリング選手権大会

会期：2019年11月5日(火)～10日(日) 会場：北海道・妹背牛町カーリングホール



環境バナーを前に出場選手が記念撮影



(公社)日本トライアスロン連合

Japan Triathlon Union

●グリーントライアスロン(Green Triathlon)in横浜

会期：2019年4月20日(土) 会場：神奈川県・山下公園



山下公園前面海域の海底清掃によって収集されたゴミ



海中の実況中継を実施

●カーボンオフセットの取組

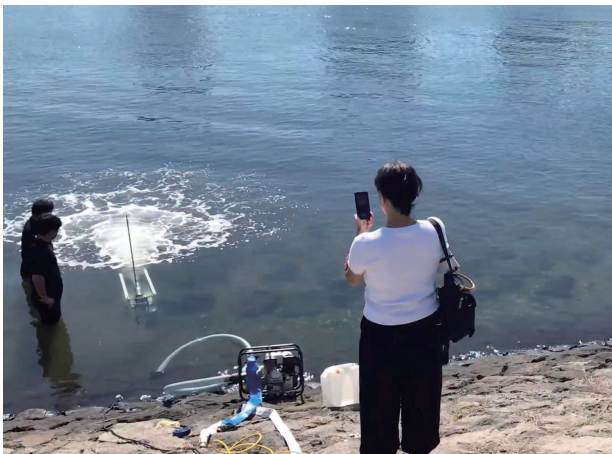
会期：2019年5月18日(土)～19日(日)、9月29日(日) 会場：神奈川県・山下公園特設会場、八景島シーパラダイス



ゴミの分別収集を徹底



●お台場海浜公園の環境保全



水質改善実証実験(2019年10月4日 お台場海浜公園)





(公財)日本ゴルフ協会

JAPAN GOLF ASSOCIATION

●2019年度(第52回)日本女子オープンゴルフ選手権

会期：2019年10月3日(木)～6日(日) 会場：三重県・COCOPA RESORT CLUB 白山ヴィレッジゴルフコース Queenコース



全選手が利用するスコアカード提出所に環境ポスターを掲示し、啓発を行った



大会公式パンフレット(20,000部発行)の表3に環境保全チラシを掲載し、ギャラリーへの啓発を行った

●2019年度(第29回)日本シニアオープンゴルフ選手権

会期：2019年9月19日(木)～22日(日) 会場：埼玉県・日高カントリークラブ 東西コース



大会本部にポスターを掲示して運営スタッフの啓発を行った



出場選手・大会役員・来賓が利用する食堂にポスターを掲示し、啓発を行った

●2019年度(第84回)日本オープンゴルフ選手権

会期：2019年10月17日(木)～20日(日) 会場：福岡県・古賀ゴルフ・クラブ



大会公式パンフレット(18,000部発行)の表3に環境保全チラシを掲載し、ギャラリーへの啓発を行った



(公社)日本スカッシュ協会

Japan Squash Association

●第30回全日本アンダー23選手権大会

会期：2019年6月1日(土)～2日(日) 会場：埼玉県・さいたまスカッシュスタジアムSQ-CUBE



目立つところに環境ポスター。分別を忘れずに。
大会実行委員長 潮木仁常務理事

大会副実行委員長 滝田晃嗣関東学生連盟会長

選手みんなでアピール

●第33回ジャパンジュニアオープンスカッシュ選手権大会

会期：2019年8月12日(月)～15日(木) 会場：神奈川県・横浜スカッシュスタジアムSQ-CUBE



受付でエコ

世界へもエコ

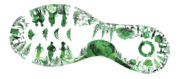
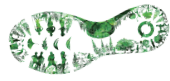
●第14回東アジアスカッシュ選手権大会

会期：2019年8月23日(土)～24日(日) 会場：東京都・東京アメリカンクラブ



シニアの国際大会、アジアへエコをアピール 広報委員長 日向 孝知常務理事

日本代表選手とコーチ



(公社)日本ビリヤード協会

NIPPON BILLIARD ASSOCIATION

●2019世界ジュニア(9ボール)

会期：2019年11月20日(水)～23日(土) 会場：キプロス・ニコシア



環境ポスターを手に記念撮影(左から奥田玲生選手、村松勇志選手)



遠征先において会場内のゴミ拾いを積極的に実践

(公社)日本ダンススポーツ連盟

Japan DanceSport Federation

●第14回オールジャパン・ジュニアダンススポーツカップ

会期：2019年7月27日(土)～28日(日)
会場：東京都・BumB東京スポーツ文化館



競技会場に環境バナーを掲出

●2019ダンススポーツグランプリin北海道

会期：2019年10月6日(日)
会場：北海道立総合体育センター



環境バナーを背景に表彰式

●JDSF 2019年度定時理事会

会期：2020年3月1日(日) 会場：JDSF会議室



室内に環境ポスターを掲示



(公社)日本ボディビル・フィットネス連盟

Japan Bodybuilding & Fitness Federation

●第23回日本クラス別選手権大会

会期：2019年9月22日(日)
会場：兵庫県・神戸芸術センター芸術劇場



環境ポスターをデジタルサイネージで掲出

●第11回日本クラシックボディビル選手権大会

会期：2019年8月11日(日)
会場：愛知県・ウインクあいち 大ホール



舞台下に環境横断幕を掲出

(一社)日本セパタクロー協会

JAPAN SEPAKTAKRAW FEDERATION

●新潟ダブル大会2019

会期：2019年5月3日(金・祝)～5日(日)
会場：新潟県妙高市・妙高ふれあいパーク



大会本部に環境ポスターを掲示

●第26回全日本オープン選手権大会

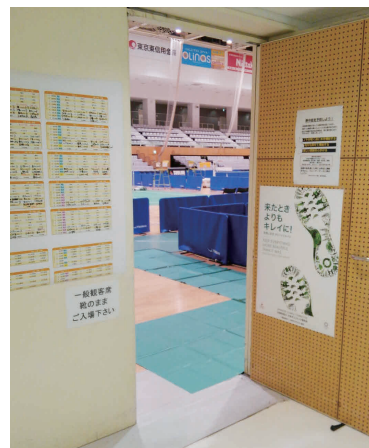
会期：2019年7月6日(土)～7日(日) 会場：東京都・墨田区総合体育館

●第7回全日本社会人選手権大会

会期：2019年6月2日(日)
会場：東京都・エスフォルタアリーナ八王子

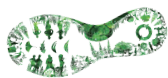


大会パンフレットに環境ポスターを掲載



会場出入口に環境ポスターを掲示





(一社)日本バイアスロン連盟

Japan Biathlon Federation

●第29回東日本バイアスロン選手権大会

会期：2020年1月24日(金)～26日(日) 会場：岩手県八幡平市・田山バイアスロン競技場



大会の競技風景と環境保全教育・ごみ分別



(一社)日本サーフィン連盟

Nippon Surfing Association

●NSA SURFERS BEACH CLEAN ACT 2019

会期：2019年9月8日(日)、16日(月・祝) 会場：全国のサーフポイント約70カ所



青森県 おいらせ海岸



宮城県 小泉海岸



茨城県 滝浜海岸



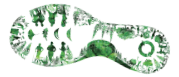
千葉県 飯岡海岸



神奈川県 大磯



宮崎県 大堂津海岸



(一社)ワールドスケートジャパン

WORLD SKATE JAPAN

●第65回東日本スピード・フィギュア選手権大会

会期：2019年10月20日(日) 会場：東京都・東京ドームスケートアリーナ



会場のゴミ収集場所に環境ポスターを掲示

(公社)日本パワーリフティング協会

JAPAN POWERLIFTING ASSOCIATION

●第31回東京都春季ベンチプレス選手権大会

会期：2019年6月9日(日) 会場：東京都・ゴールドジム東陽町スーパーセンター 体育館



ポスターの掲示、大会終了時のゴミの持ち帰り案内、清掃活動

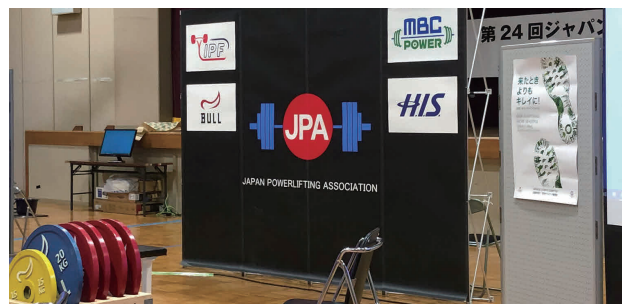


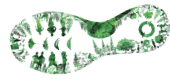
●第24回ジャンクラシックパワーリフティング選手権大会(一般女子、サブジュニア、ジュニア)

会期：2019年11月15日(金)～17日(日) 会場：長野県・白馬村多目的研修集会施設



ポスターの掲示、大会終了時のゴミの持ち帰り案内、清掃活動





(一社)日本カバディ協会

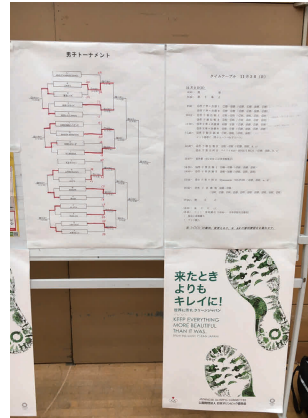
JAPAN KABADDI ASSOCIATION

●第30回全日本カバディ選手権大会

会期：2019年11月2日(土)～3日(日) 会場：東京都・国立オリンピック記念青少年総合センター 大体育室



河合陽児事務局長(中央)と男子・女子優勝チーム



会場各所に環境ポスターを掲示

●第13回東日本カバディ選手権大会

会期：2019年9月14日(土)～9月15日(日) 会場：東京都・帝京大学板橋キャンパス アリーナ



環境バナーと共に出場選手全員で記念撮影



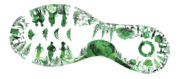
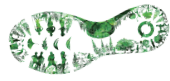
男子試合風景



女子試合風景



会場各所に環境ポスターを掲示



(公社)日本アメリカンフットボール協会

JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION

●三菱電機杯 第74回毎日甲子園ボウル「地域美化推進活動“Clean Up Action”」

会期：2019年12月15日(日) 会場：兵庫県・「阪神甲子園球場」周辺8駅



地域美化推進活動参加者(京都大学)
阪神電車 西宮駅前



地域美化推進活動参加者(佛教大・大阪芸術大学)
阪神電車 今津駅前



西宮駅から甲子園駅まで約3km
清掃活動に専念する京都工芸繊維大学選手



今津駅から甲子園駅まで約1.5kmを
清掃活動に専念する大阪産業大学選手



西宮駅から甲子園駅まで約3km
清掃活動に専念する京都大学選手



甲子園駅に到着
ゴミを回収して処分し終了する



(公社)日本チアリーディング協会

Foundation of Japan Cheerleading Association

●第10回チアリーディング世界選手権大会

会期：2019年11月23日(土)～24日(日)
会場：群馬県高崎市・高崎アリーナ



会場内に環境バナーを掲示

●第13回 チアリーディング アジア インターナショナル オープンチャンピオンシップ・第6回アジア ジュニア チアリーディングチャンピオンシップ

会期：2019年5月11日(土)～12日(日)
会場：群馬県高崎市・高崎アリーナ



大会パンフレットに環境ポスターを掲載

●事務室内掲示



協会事務所内に環境ポスターを掲示

●JAPAN CUP 2019日本選手権大会

会期：2019年8月23日(金)～25日(日)
会場：東京都調布市・武蔵野の森総合スポーツプラザ



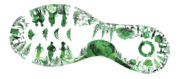
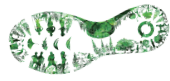
環境ポスターを掲げ記念撮影をする大学部門優勝チーム



環境ポスターを掲げ記念撮影をする社会人部門優勝チーム



会場内の分別ゴミ箱に環境ポスターを掲示



(公社)日本ペタンク・ブール連盟

JAPAN PETANQUE BOULES FEDERATION

●第34回日本ペタンク選手権大会

会期：2019年10月5日(土)～6日(日) 会場：埼玉県秩父市・宮地グラウンド



会場に環境ポスターを掲示



ゴミの分別収集を徹底

(一社)日本クリケット協会

Japan Cricket Association

●台風19号からの復興支援

会期：2019年10月13日(日)～12月4日(水) 会場：栃木県佐野市内



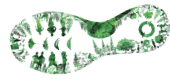
各クラブチームによるボランティア活動



各クラブチームによるボランティア活動



各クラブチームによるボランティア活動



(一社)日本フライングディスク協会

JAPAN FLYING DISC ASSOCIATION

●WFDF2019アジア・オセアニアビーチアルティメット選手権大会

会期：2019年6月13日(木)～16日(日) 会場：和歌山県白浜町・白良浜



(上段中央)試合の様様。(右上)廃材を利用したチーム写真撮影用大会ロゴマーク。(左下)試合終了後に両チーム全員で円陣を組み、両キャプテンが試合が出来た感謝を伝え、お互いを讃えあう。(右下)大会参加賞:サーフィンなどで着用するウエットスーツの製造過程で出る端切れや廃材を加工し提供

●ビーチクリーン活動(第3回南三陸ビーチアルティメット大会)

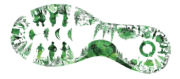
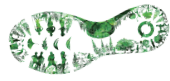
会期：2019年9月8日(日) 会場：宮城県南三陸町・サンオーレそではま海水浴場



各自フライングディスクを持って、ごみ拾い。(下段)参加者全員で震災復興を祈ってエール

●大会で使用するコートにはラインテープ等は使用せずマーカーコーンにてコートを設営





(公社)日本コントラクトブリッジ連盟

Japan Contract Bridge League

●サントリー杯

会期：2019年4月29日(月・祝)

会場：東京都新宿区・四谷ブリッジセンター



環境啓発ポスターを活用した啓蒙活動を行った

●玉川高島屋S・C杯

会期：2019年4月13日(土)～14日(日)

会場：東京都世田谷区・玉川高島屋S・C アレーナホール



競技参加者の一部が清掃活動に協力した

●朝日新聞社杯

会期：2020年1月11日(土)～13日(月・祝)

会場：東京都・四谷ブリッジセンター



ゴミの分別と収集

●連盟事務局



環境ポスターを事務局内に掲示

●全日本地域対抗選手権

会期：2019年7月27日(土)～28日(日) 会場：静岡県浜松市・グランドホテル浜松



地元の競技団体と連携して会場清掃を行った





(特非)日本オリンピック・アカデミー

Japan Olympic Academy (JOA)

●JOAオリンピック・レクチャー

会期：2019年6月16日(日) 会場：東京都・明治大学 駿河台キャンパス



テーマ:2020年東京オリンピック開催における「組織間関係」について



講師:西村 弥(明治大学政治経済学部准教授)

●2019年度JOA通常総会

会期：2019年6月16日(日) 会場：東京都・明治大学 駿河台キャンパス



JOA笠原一也会長(当時)挨拶



JOA新役員決定

●JOAセッション／オリンピック・ムーブメントに貢献するTOKYO2020レガシー

会期：2019年12月15日(日) 会場：東京都・東海大学 代々木キャンパス

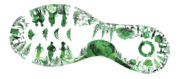
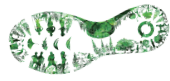


発表者:浜崎佳子(JOC)、来田享子(中京大学教授、JOA理事)



登壇者のみなさん

※敬称略



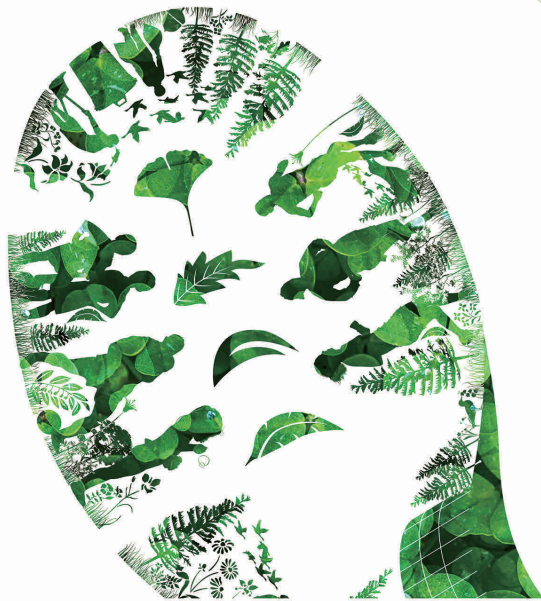
来たとき よりも キレイに!

世界に示す、クリーンジャパン



KEEP EVERYTHING
MORE BEAUTIFUL
THAN IT WAS.

Show the world, CLEAN JAPAN!



JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
公益財団法人 日本オリンピック委員会





令和元年度 スポーツ環境専門部会活動報告書

JOC Sport and Environment Commission Report 2019

■写真によるスポーツ環境の啓発活動報告	2
Photographic Report of Activities on Sport and Environment	
本文目次	53
Contents	
1. JOCスポーツ環境専門部会活動の 意義について	55
Objective of the JOC Sport and Environment Commission	
2. 第15回 JOC スポーツと環境・ 地域セミナー 開催報告	56
Report of the 15th JOC Regional Seminar on Sport and Environment	
3. スポーツ環境保全、啓発・ 実践活動状況について	59
Issues Regarding Awareness and Implementation Activities	
(1) 各競技団体等の活動	60
Activities of the JOC affiliated NFs and organizations	
(2) JOC スポーツ環境専門部会員の活動	118
Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission	
(3) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について	121
Results of the Questionnaire Regarding Environmental Activities of NFs	
(4) スポーツと環境についてのレクチャー原稿	124
Lecture draft on Sport and Environment	
4. IOC 持続可能性とレガシー委員会について	132
IOC Sustainability and Legacy Commission	

5. 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技 大会に向けた持続可能性の取り組み	133
Initiatives for Sustainable Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games	
6. 関連資料	136
References	
(1) JOC スポーツ環境活動者一覧	136
JOC Activities Person of Sport and Environment	
JOC スポーツ環境専門部会	136
JOC Sport and Environment Commission	
本会加盟団体（スポーツ環境担当者）	137
National Federation	
(2) IOC 持続可能性とレガシー委員会	140
IOC Sustainability and Legacy Commission	
(3) OCA スポーツと環境委員会	140
OCA Sport and Environment Committee	
(4) IOC 持続可能性とレガシー委員会小史	141
Brief History of the IOC Sustainability and Legacy Commission	
(5) JOC スポーツ環境専門部会小史	142
Brief History of the JOC Sport and Environment Commission	



1

JOCスポーツ環境専門部会活動の意義について

Objective of the JOC Sport and Environment Commission

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向け 「来たときよりもキレイに!」を徹底

令和元年度の公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)スポーツ環境専門部会の活動に対し、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

JOC スポーツ環境専門部会では、異常気象や自然災害の原因となっている地球温暖化に危機感を持ち、スポーツを楽しめる環境を未来の子供たちに残すために、我々スポーツに携わる者だからからこそ出来る、環境啓発・保全活動に取り組んで参りました。

その一環として、令和元年度は「来たときよりもキレイに!」をスローガンとして、環境啓発ポスターや、環境省と連携してアスリートメッセージ映像を作成し、加盟団体主催の大会会場へのポスターの掲示や、大型ビジョンでの映像放映等ご協力いただき、アスリート・指導者に対しても、環境について知識を持ち、エネルギー・資源の節減やごみの分別など、出来る事から実践していくことを、スポーツと環境・地域セミナーを通じて呼びかけてきました。引き続き加盟団体、関係団体との連携を図りながら、地球環境保全の啓発・実践活動を進めていきたいと思っております。

現在、コロナウイルス感染症の影響に伴い、世界中の人々の生活が変化しています。東京 2020 大会も残念ながら来年 2021 年の開催に延期となりましたが、来日される多くの人々をキレイな日本で迎えましょう。

令和元年度 JOC スポーツ環境専門部会の活動

- ① 第 15 回スポーツと環境・地域セミナーの実施 (千葉県)
- ② 平成 30 年度 JOC スポーツ環境専門部会報告書の作成
- ③ アスリートメッセージ映像の作成 (環境省との連携)
稲葉 篤紀 野球日本代表監督
- ④ JOC 環境パンフレットの作成

令和 2 年度 JOC スポーツ環境専門部会の活動 (予定)

- ① 令和元年度 JOC スポーツ環境専門部会報告書の作成
- ② アスリートメッセージ映像の作成 (環境省との連携)
上田 藍 トライアスロン競技 選手
- ③ JOC 環境パンフレットの配布



公益財団法人日本オリンピック委員会
スポーツ環境専門部会
部会長 野端 啓夫



令和元年・2年版 JOC 環境ポスター



令和元年版環境啓発映像



令和 2 年版環境啓発映像



第15回JOCスポーツと環境・地域セミナー 開催報告

Report of the 15th JOC Regional Seminar on Sport and Environment

■開催概要

- 趣旨：**公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は、平成13年度からスポーツ環境専門部会を設置し、環境に係わる啓発・実践活動を推進している。その活動のひとつとして例年JOCパートナー都市で開催している標記セミナーを今年度は千葉県で開催し、千葉県のスポーツ関係者を対象としてスポーツ界における環境保全の必要性について改めて考え、どのように実践に移していくかを学ぶことを目的に開催した。
- 主催：**公益財団法人日本オリンピック委員会
- 共催：**千葉県
- 後援：**スポーツ庁、環境省、公益財団法人日本スポーツ協会、千葉県スポーツ協会
- 日時：**令和元年10月20日（日）13:00～16:00
- 場所：**幕張メッセ国際会議場 中会議室 201（千葉県千葉市美浜区中瀬2丁目1）
- 参加者：**JOC、千葉県、千葉県スポーツ協会、千葉県スポーツ推進委員連合会、千葉県障がい者スポーツ協会、千葉県各競技団体、千葉県内学校体育団体 他 116名
- プログラム：**
 - 13:00 開会 代表者挨拶
野端 啓夫 JOC 理事、スポーツ環境専門部会長
高橋 俊之 千葉県 環境生活部オリンピック・パラリンピック推進局局長
 - 13:15 第1部「スポーツと環境の関わり」
荒田 有紀 JOC スポーツ環境専門部会員、
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会持続可能性部長
上田 藍 JOC スポーツ環境専門部会員、オリンピック（トライアスロン）
藤森 涼子 JOC スポーツ環境専門部会員、（特非）気象キャスターネットワーク代表
千田 健太 JOC アスリート委員会委員、オリンピック（フェンシング）
コーディネーター：大津 克哉 JOC スポーツ環境専門部会員、東海大学准教授
 - 14:45 休憩
 - 15:00 第2部「千葉県内の取組み」
 - ①ビーチクリーン・キャンペーンにおける取組み
大石 祐介 千葉県 環境生活部オリンピック・パラリンピック推進局職員
千葉 淳哉 本須賀波乗り倶楽部 部長
 - ②ちばアクアラインマラソン2018における取組み
門脇 年宏 ちばアクアラインマラソン実行委員会 職員
三橋 一文 ちばアクアラインマラソン実行委員会 職員
 - ③プロスポーツチームの取組み
豊田 耕太郎（株）千葉ロッテマリーンズ 事業本部コミュニティリレーション部長

■セミナー概要

JOCパートナー都市である千葉県の幕張メッセ国際会議場で、「第15回JOCスポーツと環境・地域セミナー」を開催。本セミナーは千葉県を中心としたスポーツ関係者とともに、スポーツ界における地球環境保全の必要性について改めて考え、その活動をどのように実践に移していくかを一緒に学ぶことを目的に開催され、当日は千葉県内のスポーツ関係者など116名が参加し、スポーツ界における環境問題について議論を深めた。

はじめに主催者を代表して、JOC理事、スポーツ環境専門部会の野端啓夫部会長より開会挨拶。千葉



県を含む広域に被害をもたらした台風 15 号、19 号で被害に遭われた方々へお見舞いの言葉を述べ、「ここ数年、毎年のように異常気象が全国各地に大きな被害をもたらしており、このような状況が続くとスポーツをする我々は大会を運営することが出来なくなる可能性もある。50 年後、100 年後の子供たちにスポーツを楽しめる今の環境を残すことが我々の使命と感じている。皆様と一緒に少しでも環境の改善に役立てられるようなセミナーにしたい」と参加者に呼び掛けた。

続いて、開催地を代表して千葉県環境生活部オリンピック・パラリンピック推進局の高橋俊之局長から、台風 15 号、19 号からの復旧・復興に向けて尽力する中で、「スポーツのみならず日々の活動と自然環境との関わりを考える機会になっている」と現状を説明。その後、同県における東京 2020 大会を通じた環境問題への取り組みについて触れた高橋局長は、「本日はアスリートの方のご経験、地元の取り組みなどを幅広く紹介するので、全体を通じて皆様方にとって有益な一日となれば」と伝えた。

●第 1 部「スポーツと環境の関わり」

本セミナーは 2 部に分けて実施され、第 1 部では「スポーツと環境の関わり」をテーマに、JOC スポーツ環境専門部会員で東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会総務局の荒田有紀持続可能性部長、NPO 法人気象キャスターネットワークの藤森涼子代表、オリンピックの上田藍選手と、JOC アスリート委員であるオリンピックの千田健太氏によるパネルディスカッションを実施。JOC スポーツ環境専門部会副部会長の東海大学大津克哉准教授がコーディネーターを務め、それぞれの立場から環境に対する取り組みや体験談、エピソードなどが紹介され、スポーツに携わる者が今後行うべきことについて意見を交換した。

まず、大津氏よりスポーツと環境には「スポーツが環境から影響を受ける」被害者の側面と、「スポーツが環境に影響を与える」加害者の側面の 2 つがあることを紹介。空気や水がきれいなところでスポーツがしたいと願うアスリートやスポーツ愛好家たちは「地球環境の大切さを知っている」人たちであるとした上で、そのような人たちが「率先して自分の意識を地球環境に向け、ライフスタイルを見直すことで、スポーツは地球環境問題を解決する一翼を担う可能性があるのではないか」と参加者に問いかけた。

続いて、荒田氏より「オリンピック・パラリンピックと持続可能性—私たちは何ができるのか—」をテーマに、東京 2020 組織委員会の環境問題への考え方と実際の取り組みについて説明。東京 2020 大会では (1) 気候変動、(2) 資源管理、(3) 大気・水・緑・生物多様性等、(4) 人権・労働・公正な事業慣行等、(5) 参加・協働、情報発信の 5 つを持続可能性の取り組みの柱に据え、様々なプログラムを取り入れていること、また「みんなの表彰台プロジェクト」「スポーツごみ拾い」など、大会前から大会後を通じて一般の方々と共に取り組むことができる事業を実践していることを紹介し、最後に「皆様と一緒に地球のために、人のために、少しずつでも環境を良くしていきたいと考えている」と述べ、より多くの方へ参加を呼びかけた。

次に上田選手と千田氏より、オリンピックの立場からスポーツの現場で行われている環境問題への取り組みや自身の体験談を共有。上田選手は、「ITU 世界トライアスロンシリーズ横浜大会」において、2015 年に導入された「ブルーカーボン事業」を紹介。本事業は、参加者の会場までの移動等で発生する二酸化炭素排出量を金額に換算し、参加者から集めた環境協力金で相殺することにより、海洋資源を用いた温暖化対策を推進し、海の森の育成・海の水質改善に活かすというものである。同大会では、参加賞として「完走（乾燥）わかめ」を配布し、パッケージ裏面を使って本事業の取り組みを説明するなどして、参加者への啓発活動につなげていることを紹介。「日本はどこに行っても泳ぐことが可能であり、トレーニングしやすい環境だが、海外遠征の中で日本は恵まれていると感じることもある。日本に戻ってきた時には、朝早くに電気をつけ、泳がせていただいていることに感謝するとともに、後輩や若い世代の子たちに、この環境は当たり前ではないことを伝えていかなければならない」と自身もできることから啓発活動に取り組んでいくことを述べた。

千田氏からは、「現役時代は屋内競技なので、環境問題についてあまり考えたことはなかったが、引退後に JOC のオリンピック・ムーブメント普及活動やアスリート委員会の活動をきっかけとして問題



に向き合うようになった」と自身の考えの変化について述べた後、国際フェンシング連盟が2017年に開始し、日本フェンシング協会でも取り組んでいる「Donate your fencing gear」プログラムを紹介。使用していないフェンシング用具を収集し、必要としている国に寄付する活動で、日本フェンシング協会でも今年6月のアジア選手権では100点以上の用具を集め、キルギスに寄付したことなどを報告。「大会会場が用具受け入れの窓口となる環境さえあれば、リユースが促進されることを理解したので、フェンシングのオリンピックンとして用具の寄付を呼びかけていきたい」と説明した。

これらを踏まえ、藤森氏が「2100年の未来の天気予報」と題したプレゼンテーションを行い、夏には全国各地で気温が40度を超え、約12万人が熱中症となり、大雨による川の氾濫やがけ崩れが発生する一方で、雨が降らず干ばつが頻発するとして、参加者に警鐘を鳴らす。温暖化がスポーツに与える影響として、かつてスケートの競技会場として使われていた池が、冬の最低気温の上昇により氷が薄くなり競技ができなくなった事例や、先の台風19号の影響でさまざまなスポーツイベントが中止に追い込まれた事例を紹介。温暖化対策として私たちが取り組める具体例を提示し、「今すぐに効果は出なくても、脱炭素社会に向けてシフトチェンジしていく必要がある」と訴え、「行動を変えて、社会の脱炭素化につながる選択、COOL CHOICEを未来のスポーツのためにも実践していただきたい」とメッセージを送った。

パネリストたちによる質疑応答、環境問題についての議論を深めた後、今日の感想や今後の取り組みについて、上田選手は「できることから着実に取り組んでいきたいと改めて考え、環境が変化する中で適応する必要があることについて気付かされた。しっかりと日常生活で実践し、過ごしていきたい」、千田氏は「室内競技としても死活問題だと感じた。オリンピックンとして、自分自身の活動の中で人々に呼びかける機会があれば積極的に取り組んでいきたい」とまとめた。最後に大津氏より、「アスリートの皆様や競技団体の方々、そしてスポーツ愛好家の皆様、全員でスポーツの場面でのフェアプレーはもちろんのこと、日常生活ではエコプレーを実践し、スポーツ界から地球環境問題に取り組み、ぜひ解決の一翼を担いたい」と総括し、第1部を終了した。

●第2部「千葉県内におけるスポーツと環境の取組み」

第2部では「千葉県内の取組み」をテーマに、千葉県環境生活部オリンピック・パラリンピック推進局の小高直子氏の進行により、県内のスポーツと環境に関する3つの取組みを紹介。

まず、東京2020大会に向けて同県が実施する「おもてなしCHIBAプロジェクト」の一環である「ビーチクリーン・キャンペーン」における取組みについて、千葉県環境生活部オリンピック・パラリンピック推進局の大石祐介主事が概要を説明。引き続き、地元サーフクラブ「本須賀波乗り倶楽部」の千葉淳哉部長が、同倶楽部が2002年に始めた「ビーチクリーン・キャンペーン」について、活動内容や苦労した点などを共有。そして、今後のビジョンとして「将来的にはこの活動がなくてもきれいなビーチ、誰も自然にごみを捨てない世界になるまで、私たちはビーチクリーンに取り組んでいきたい」と述べた。

次に、ちばアクアラインマラソン実行委員会の門脇年宏氏と三橋一文氏が登壇し、「ちばアクアラインマラソン2018における取組み」と題して、会場である木更津市内の住民団体や任意団体による花植え活動「花いっぱい運動」や、会場の清掃活動を行う「クリーン作戦」について、概要や参加者の反応などを紹介。木更津市の担当者からは「ちばアクアマリンマラソンが開催される以前よりも、市民の環境への意識が確実に高まっている」と取組みが評価されていることを報告した。

最後に、株式会社千葉ロッテマリーンズ事業本部コミュニティリレーション部の豊田耕太郎部長が登壇。「プロスポーツチームの取組み」をテーマに、日本財団とNPO法人海さくらによるプロジェクトで、同チームが2018年に参画した「LEADS TO THE OCEAN (LTO)」の概要と、その一環として実施されているスタジアム周辺のゴミ拾い活動の概要や開始までの経緯、楽しく参加してもらうための工夫などを共有。そして「私たちのコンテンツである選手やチア、キャラクターなどを通し、より多くの方にLTO活動を知っていただく努力を続けていきたい」と今後の展望を述べ、第2部のプログラムを締めくくり、セミナーを終了した。



3

スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について

Issues regarding awareness and implementation activities

(1) 各競技団体の活動

(公財) 日本陸上競技連盟	60	(公財) 日本ラグビーフットボール協会	93
(公財) 日本水泳連盟	61	(公社) 日本山岳・スポーツクライミング協会	94
(公財) 日本サッカー協会	63	(公社) 日本カヌー連盟	95
(公財) 全日本スキー連盟	65	(公社) 全日本アーチェリー連盟	96
(公財) 日本テニス協会	66	(公財) 全日本空手道連盟	96
(公社) 日本ボート協会	68	(公社) 全日本銃剣道連盟	97
(公社) 日本ホッケー協会	72	(公財) 全日本なぎなた連盟	98
(公財) 日本バレーボール協会	72	(公財) 全日本ボウリング協会	98
(公財) 日本体操協会	74	(一財) 全日本野球協会	99
(公財) 日本バスケットボール協会	74	(公社) 日本武術太極拳連盟	101
(公財) 日本スケート連盟	75	(公財) 日本カーリング協会	102
(公財) 日本アイスホッケー連盟	77	(公社) 日本トリアスロン連合	103
(公財) 日本レスリング協会	77	(公財) 日本ゴルフ協会	104
(公財) 日本セーリング連盟	79	(公社) 日本スカッシュ協会	105
(公社) 日本ウエイトリフティング協会	80	(公社) 日本ビリヤード協会	105
(公財) 日本ハンドボール協会	82	(公社) 日本ボディビル・フィットネス連盟	106
(公財) 日本自転車競技連盟	82	(公社) 日本ダンススポーツ連盟	107
(公財) 日本ソフトテニス連盟	83	(一社) 日本バイアスロン連盟	108
(公財) 日本卓球協会	84	(一社) 日本サーフィン連盟	109
(公財) 全日本軟式野球連盟	86	(一社) 日本カバディ協会	109
(公財) 日本相撲連盟	87	(一社) 日本セパタクロール協会	110
(公社) 日本馬術連盟	88	(公社) 日本アメリカンフットボール協会	111
(公社) 日本フェンシング協会	88	(公社) 日本チアリーディング協会	112
(公財) 全日本柔道連盟	89	(公社) 日本パワーリフティング協会	113
(公財) 日本ソフトボール協会	90	(公社) 日本ペタンク・ブール連盟	113
(公財) 全日本弓道連盟	90	(一社) 日本フライングディスク協会	114
(公社) 日本ライフル射撃協会	91	(一社) 日本クリケット協会	116
(公社) 日本近代五種協会	92	(公社) 日本コントラクトブリッジ連盟	117

(2) スポーツ環境専門委員の活動

松岡 修造部会員	118
宮下 純一部会員	119
藤森 涼子部会員	120

※(公財)=公益財団法人、(公社)=公益社団法人、(一財)=一般財団法人、(一社)=一般社団法人



(1) 各競技団体等の活動

Activities of the JOC affiliated NFs and organizations

(公財) 日本陸上競技連盟

1. 実施概要

大会やイベント、その他事業や事務局移転に伴うオフィス環境の充実と環境に配慮した取り組みについて、環境保全に繋がる活動を積極的に行い、一つ一つの活動に対し、環境保護と配慮を意識していくと共に、環境への負荷を極力減らすような活動を継続的に行っている。

2. 令和元年度事業活動

- 各種大会やイベント時での環境バナーの掲示
- 大会及びオフィス内でのポスター掲示
- 大会時競技場内のクリーン化、資源ごみ回収、周辺環境の美化
- 大会時のリサイクル資源の活用
- オフィス内のクラウド化・省力化・作業効率化のためのオフィス環境充実、環境配慮備品の購入
- 専用システム・アプリを使用したペーパーレス化
- オフィス内での G-suite を利用した印刷軽減とデータ共有、ネット会議推進
- 発行物、出版物作成部数の検討
- オフィス内のゴミ分別の徹底

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会イベント時に環境啓発バナーの掲示

国際陸上競技連盟主催の年間シリーズ(全9戦)「IAAF ワールドチャレンジ」の第2戦となるゴールデングランプリ陸上2019大阪大会、及び第103回日本陸上競技選手権のキッズデカスロンチャレンジイベントにて、環境啓発バナーの掲示や参加選手に協力頂いて、啓発活動を行った。

②大会及びオフィス内でのポスター掲示

本連盟主催大会で環境啓発ポスターを掲示し、大会関係者・選手のみならず観戦者も含め、環境活動の重要性をアピールした。また、オフィス内のデジタルサイネージに掲示し、来訪者に対して意識して頂けるようにしている。

③大会時競技場内のクリーン化、資源ごみ回収、周辺環境の美化

大会開催時に、競技場内のクリーン化や見回りによるごみ放置の注意指導はもちろん、資源ごみの回収及びリユース回収箱の設置などを行った。

④大会時のリサイクル資源の活用

大会開催時に使用する給水用の紙コップの素材を石灰石主原料とする LIMEX(ライメックス)製のコップを採用することで、サステナビリティに配慮した大会運営をしている。使用済みのコップを回収し、文具等のプラスチック代替品に再製品化することで、石油由来のプラスチック使用の削減も可能であり、マラソン大会としては世界初の取り組みである。

⑤オフィス内のクラウド化・省力化・作業効率化のためのオフィス環境充実、環境配慮備品購入

2019年6月に JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE に移転し、オフィス内のネットワークセキュリティ・固定電話のクラウド化やケーブルレスによるフリーアドレスが可能となり、LED や業務効率化による省エネに繋がっている。

オフィスの備品選定についても、デスクはテーブル型で天板の芯材には木質廃棄物を再利用したパーティクルボードを使用。部材は分解・組み立て可能なものであり、リサイクルや梱包材削減・輸



送効率向上となっている。VOC（揮発性有機化合物）対策として、ノントルエン使用のもの等が採用されたものを選定している。

椅子はポリ塩化ビニールを含まず、より少ない素材で人間工学的に設計され、素材のほとんどがリサイクル可能である。

その他、リフレッシュスペース・打ち合わせスペース・オフィス緑化・モニター・BGMなどが仕事のパフォーマンス向上やメンタルヘルス向上となり、それがオフィス内の省力化に繋がっている。

⑥専用システム・アプリを使用したペーパーレス化

参加エントリープロセスのペーパーレス化や、専用システム・アプリを利用した大会詳細情報のWEB化を行い、環境に配慮している。

⑦オフィス内での G-suite を利用した印刷軽減とデータ共有、ネット会議推進

オフィス内のインフラ整備を行い、オフィス員同士・外部関係者とのデータ共有化や PC 画面での資料共有を実施して印刷物を減らすよう努め、複合機と社員カードを連動させ、個人の印刷量確認も行っている。

また、テレワークを推進するためにネット会議を積極的に導入し、職員間会議はもちろん理事会や外部有識者会議も含め、会議のための移動や宿泊等の削減に繋がっている。

⑧発行物、出版物作成部数の検討

本連盟で発行するパンフレットや出版物について、制作単価よりも廃棄リスクを第一に検討し、配布数や販売数をあらかじめ詳細に見積もり、余剰分が出ないように配慮をしている。

⑨オフィス内のゴミ分別の徹底

オフィス内のゴミについて、資源ごみと燃える・燃えない・ビン／カン／ペットボトルに分け、ペットボトルはラベルを剥がしキャップも外して分別をするようにしている。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境に関する啓発活動を日常から積極的に行い、会場に限らず地域や周辺環境にも配慮しながら、環境への負荷を極力減らした大会運営やエコ推進活動を今後も実施していくと共に、オフィス内をはじめ関係者や参加者、観戦者も含め、身近に環境活動に触れてもらう機会を増やしていきたい。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 風間 明

中央競技団体として、我々事務局から行動や発信が出来るよう、日常から率先して環境に配慮した意識を持つことが重要であると共に、大会やイベント事業の環境に配慮した取り組みに引き続き取り組んでいき、加盟団体・協力団体・大会事務局・スポンサーなど連携をしていながら、来訪者・選手・運営役員などすべての人に対して、環境への意識づけを行っていききたい。

(公財) 日本水泳連盟

1. 実施概要

『水』あつての“水泳”の競技団体として、地球を取り巻く環境保全を常に心がけ、持続可能で身近な活動の積み重ねを常に心がける。また水泳4団体（日本水泳連盟・日本スイミングクラブ協会・日本マスターズ水泳協会・日本障がい者水泳協会）と共催事業を実施するなど、「かえないで、みずとくうきのあおいほし」（公募作品）の独自のキャッチコピーも活用し、次世代を主なターゲットとした啓蒙活動の更なる拡大・促進を行い、連携の輪を広げる。



2. 令和元年度事業活動

- 「水泳の日」総合イベントでの活動展示と、場内でのスタンプラリーによる啓蒙活動
- 登録とリザルト関係を中心に常時ペーパーレス化・エコ製品推進運動、HPでの啓蒙活動
- 競技会等における環境活動の継続
 - 1) 大会監督者会議での活動告知、環境啓発ページのプログラム掲載 等
 - 2) 場内で参加者と来場者への協力を促進（啓発ポスター・バナー掲示、ごみ分別、公共交通機関利用等）

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①「水泳の日」（2019年8月11日）総合イベント内での展示および啓蒙スタンプラリー
全国各ブロックを巡回する水泳4団体共催「水泳の日」総合イベントを名古屋市日本ガイシプールにて開催。そこで例年同様ブースを設け委員会活動内容をオリンピック関連写真と共に掲示、同時に場内と隣接するスポーツ振興会館をエリアとし水泳連盟独自の標語を使用したスタンプラリーを開催。小学生・中学生を中心に多数の参加があり、来場者約650名が参加・ゴールした。愛知県連盟競技役員メンバーの協力により幅広い年齢層に人気のイベントとなった。
- ②『紙削減プロジェクト』の継続実施・強化
連盟が特に力を注ぐ情報システム化が更に進化、競技会場のWi-Fi環境を整えることで即時結果配信システム等が拡充し、紙での配信が削減、競技会エントリーから記録賞までの一貫したシステム構築により、あらゆる無駄な資源消費削減に一役を買っている。
- ③競技会等における環境活動
監督者会議でのミニレクチャー、バナー（新作）の場内掲載、休憩時間を利用した場内ビジョンシステムでの「COOL CHOICE」やアピールメッセージ露出、ゴミの削減を前提とし会場の所轄自治体ルールに則った分別と持ち帰りの実施。プログラムや場内におけるポスター掲載。

4. 全体的な成果と今後の課題

スタンプラリーは、水泳4団体で活動して5年目、地方開催の「水泳の日」にも多くの愛好者が参加し、今後も日本各地を巡回開催する予定のイベントとして、来場を予想される水泳ファン層へ直接アピールする参加型イベントとして各地で定着した。しかし、今年地球全体が経験した新たな感染により延期された2021年東京オリンピック・パラリンピックに向け、厳しい状況の中でも持続可能でより身近な事は何か、同時に将来水泳界を担う世代と共に模索していきたい。

5. JOCスポーツ環境専門部会員 齋藤 由紀

スポーツ環境委員会は連盟内発足15年となったが、基本的活動内容の理念である、小さなことの積み重ねで日常の延長上にあるという連盟の基本スタンスは浸透し一般観客参加型企画として成功した。しかし、2020年人類が初めて対面した大試練に対し、地球を取り巻く環境についても如何に持続可能な活動の方向性を模索・継続できるかは暗闇の中での発進となるが、今後はアスリート委員会とも協力し発信力のある企画（SNS利用等）具体化等含め、新たな課題となるだろう。



(公財) 日本サッカー協会

1. 実施概要

JFAの「理念」、および「国連グローバル・コンパクト」における環境3原則（2009年7月に署名）、そして、環境省指針に基づき活動を継続。

2. 令和元年度事業活動

- 主催／後援競技会等におけるゴミ分別や公共交通機関利用の啓発
- JFA グリーンプロジェクトの推進
- 事務所（JFA ハウス）における環境への配慮（クールビズの実施等）

3. 具体的な活動実施内容とその成果

① JFA 事務局内での代表的な活動

スマートデバイス利用、ウェブ会議開催と順次進めてきたものに加え、新たに「電子請求書」「電子契約書」を導入し、紙利用・郵送について削減を実施。

電子請求書	電子化率 約62% (2020年12月～2020年3月)
電子契約書	電子化率 約26% (2020年1月～2020年3月)

② JFA グリーンプロジェクト

引き続き、都道府県協会、サッカークラブ、自治体、学校、幼稚園・保育園を対象に芝生の苗の提供等を実施。

③教育・啓発

「倫理規範」「JFA コンプライアンス・ハンドブック」に基づく教育については、暴力根絶・不正防止等を優先し、環境保全に関する個別研修は実施できなかった。

⑤地域／Jリーグ

ベガルタ仙台	スタジアムがある仙台市泉区にて、清掃活動および花植えにアカデミー選手・フロントスタッフが参加。
FC 東京	「ECO パスプロジェクト in 味スタ」を引き続き、帝人フロンティア（株）と実施中（ペットボトルの回収・リサイクル活動）。
横浜 FC	地域清掃活動に戸塚 U-15 監督・選手一同が参加、地域貢献と選手教育の双方を実現。
湘南ベルマーレ	本年は2000名以上のサポーターの方々と「LEADS TO THE OCEAN」活動を開催し、地域清掃活動を実施。
ガンバ大阪	スタジアム清掃活動にはサポーター・ガンバチアキッズダンススクール生も参加。
サンフレッチェ広島	NPO 法人グリーンバートと協力し、市内中心部の定期的な清掃活動を継続中。
水戸ホーリーホック	毎年水戸の梅まつりと水戸黄門まつりの直前に「中心市街地クリーン作戦」を行い、地域清掃を実施。
大宮アルディージャ	本年は「大宮クリーン大作戦」を21回実施し、延べ人数で約2000名の参加者が地域清掃活動に参加。



FC 町田ゼルビア	ゼルビー、地域振興課スタッフが『ポイ捨て・路上喫煙禁止キャンペーン』に参加。
アルビレックス新潟	トップチーム選手が地域の海岸清掃活動に参加。
京都サンガ F.C.	シーズン終了後に西京極クリーンアップ大作戦をスタジアム及び周辺で実施。
ファジアーノ岡山	「政田学区クリーン作戦」に参加、通勤などで通っている道や、練習場近隣を地域の皆さんと一緒に清掃。
レノファ山口	選手が中学校の給食時間に訪問し、食べ残し削減などを啓発するイベントを実施。
ギラヴァンツ北九州	市内にある曾根干潟のごみ拾いを中心とした清掃活動に毎年クラブマスコットやスタッフにて参加。
ヴァンラーレ八戸	8月の三社大祭に向けた地域美化活動に選手も参加。
ブラウブリッツ秋田	クラブアンバサダーが本荘マリーナ海水浴場クリーンアップに参加し、海水浴場美化に協力。
カターレ富山	ホームゲーム終了後に選手、ボランティア、サポーターでスタジアム周辺の清掃活動を実施。
藤枝 MYFC	藤枝まち美化里親制度の登録団体として、草刈り・清掃活動にクラブスタッフにて参加。
ロアッソ熊本	ホームゲームにて使用済みてんぷら油の回収を行い、バイオディーゼル燃料の普及啓発活動を実施。

4. 全体的な成果と今後の課題

● JFA

暑熱対策ガイドラインにより夏期競技等環境への配慮、適応を実施してきたが、厳しい温暖化対応のため暑熱対策プロジェクトを設置した。必要な競技会は、さらに時期変更、会場変更等行う。また、新型コロナウイルス感染症による在宅勤務開始等によるリモート勤務整備を通じた低負荷業務の推進を進めていく必要がある。

● Jリーグ

J 1 から J 3 と全国 50 クラブ以上の活動があり、スタジアム周辺等の清掃活動など広く実施されている。昨年はラグビーワールドカップがあり、競技会に合わせたスタジアム清掃を行う事例もあった（FC 東京）。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 玉利 聡一

緩和策については、電子登録、ウェブ会議他、技術・機器導入によりペーパーレス化による効率化が進み、また、各競技会場でのゴミ分別・販売管理等にてゴミ削減を最低限実施している。一方、環境問題への適応については、全国規模もしくは各種別トップクラスの夏期大会・リーグ等が約 20 件あり、指導者・選手等関係者への教育、開催時期・開催場所の変更等継続して検討していく必要がある。



(公財) 全日本スキー連盟

1. 実施概要

本連盟は、冬季スポーツ競技団体として、地球温暖化による小雪を切実な問題として捉えている。実際、2019 / 2020 シーズンは、近年まれに見る小雪により、多くの大会が中止となり、選手の活動に大きな影響を及ぼした。雪不足による短期的な問題は、競技大会の中止だが、中長期的な問題は、スキー人口の減少、スノースポーツの存続である。この様な問題を抱えながら「スノースポーツ」、「アスリート」を通して環境保全に対する啓発活動を行っているが、抜本的に活動内容を検討する時期に来ている。

2. 令和元年度事業活動

- Fun to Share キャンペーン参加による低酸素社会への啓発活動
- LIVE SNOW イベント開催によるシーズン始まりの告知と環境保全を含めたスノースポーツの楽しさの啓蒙

3. 具体的な活動実施内容とその成果

① Fun to Share キャンペーン参加による低酸素社会への啓発活動

Fun to Share 宣言『スノースポーツを通して自然の大切さを伝えることで、低炭素社会へ。』を行い、環境保全に対する啓発活動を行った。

〈成果〉

上記の活動により、雪（自然環境）を守ることの大切さ、日常的に意識することが環境保全に繋がることを発信できた。

② LIVE SNOW イベント開催

イベントの一部でコンサートを実施。

〈成果〉

シーズン開始を前にした選手の抱負を表明する記者会見に加え、松任谷由実氏、コスペラーズのミニコンサートを行い、シーズン始まりの告知と環境保全を含めたスノースポーツの楽しさをアピールできた。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全を発信する「I LOVE SNOW」というキャンペーンを10年以上展開してきたが、キャンペーンの飽和感が否めない状況であったことから、このキャンペーンを一旦終了した。新たな啓発活動の方法について協議を行っている。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 岡田 良平

今シーズンは、近年まれに見る小雪の影響で、多くの競技大会が中止となった。これは、ここ数年続く短期的な問題ではあるが、中長期的に今後も雪不足が続く、さらに深刻な雪不足の状況になった場合、スノースポーツ人口の減少はもとよりスノースポーツそのものの存続に関わる重大な問題となる。また、スノースポーツは、山林を切り開いてスキー場を建設し行うスポーツであることから、自然環境に与える影響は、他のスポーツとは比較にならないと認識している。このように自然から影響を受け、自然に影響を与えるスポーツだからこそ、中心となって環境保全を進めなければ



ならないと痛感している。未来永劫、世界中の人々がスノースポーツを楽しむことができる様、冬季スポーツ競技団体として、今後も「雪とスノースポーツ」をキーワードに地球温暖化防止や環境保全に関するメッセージを発信したいと考えている。

(公財) 日本テニス協会

1. 実施概要

本協会では、テニス界における環境保全・啓発・実践活動の3つの柱を掲げて活動を行っている。まず活動に先立って、これまでの教育・啓発活動を中心とした環境保全の取り組みを見直し、具体的な成果に通じる活動のための基本方針である『JTA 環境保全基本方針』を策定し、テニス関係者への周知徹底を図ってきた。さらに、「ほんのちょっとのエコ活動」をスローガンに日々の生活の中でも環境意識を持ってもらえるよう、継続的な活動に取り組んでいる。

2. 令和元年度事業活動

- 『JTA 環境保全基本方針』を協会ホームページに掲載
- 日本テニス協会主催大会で JOC 環境ポスターやバナーなどを掲示
- テニス界における環境保全と整備を目的とした活動（3R 推進）
- 子どものマナーアップに繋がる継続的なキャンペーンとして「ごみゼロ運動」を実施
- 事務局におけるエコ活動の実践

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①テニス指導者・選手・観客の方々への環境啓発活動

日本テニス協会主催大会をはじめ、講習会等で JOC 環境ポスターやバナーを掲示して啓発活動を行っている。さらに、環境に配慮した大会運営にも心がけている。

②「テニスの日」イベントでの啓発活動

毎年9月23日には、テニス普及イベントである「テニスの日」を全国で展開している。象徴的イベントとして、毎年2,000人を超える参加者が集う「有明メインイベント」では、東京オリンピック・パラリンピック会場としてリニューアル工事中の有明テニスの森公園を一部使用し、開催された。また、「ほんのちょっとのエコ活動」をスローガンに啓発活動も実施している。

③認定特定非営利活動法人グローバル・スポーツ・アライアンス（GSA）との協同事業

GSA と協力して中古テニスボールと不要になったラケットの回収を行っている。GSA では、テニスボールのリユース活動として、使い古したボールを全国の学校機関に提供している。ボールは、教室内の騒音対策として机やイスの脚の先に取り付けられ、子どもたちの教育環境づくりに役立つだけでなく、大量に廃棄していたごみの削減にもつながっている。(2019年9月30日をもってテニスボールリユースに関する活動を公益社団法人日本プロテニス協会（JPTA）へ移管)。これまでに全国の学校5,000校に600万個を提供し、教室の静かな学習環境づくりに貢献してきたが、この活動の更なる発展を目指して JPTA にこの活動を移管することになった。より多くのテニスボールがコンスタントに回収できる点や、学校のマッチングもより効率的に行われ、注文から納品までの時間も大幅に短縮されることが期待される。

一方で、不要になったテニスラケットは回収を継続している。昨年度に集まったラケットは、GSA と国連環境計画（UNEP）によるサポートのもと、ケニア・ナイロビで毎年開催されている貧困



地域の子どもたちを対象とした環境教育プログラム「GSA ドリームキャンプ (Nature & Sport Training Camps)」で活用するため、会場となっている現地スポーツクラブに寄贈された。

GSA ホームページ：<http://www.gsa.or.jp>

④事務局におけるエコ活動の実践

コピー用紙使用の削減や裏紙を活用するなどの工夫をはじめ、紙面による提出物をインターネットによる提出に変更したことや、保存書類を紙ベースからデータに変更した。さらに、テレビ会議の実施に伴い、クラウドの導入で会議資料などのペーパーレス化を推進している。また、事務局内で使用していたプラスチックの使い捨て容器を廃止してマイカップの導入や、ゴミの分別、電気使用量の削減にも取り組んでいる。そして、夏季には、業務を快適に過ごせる軽装や取り組みを促す「クールビズ」を継続して実施した。

4. 全体的な成果と今後の課題

地域・都道府県テニス協会には環境担当者がおり、各地で様々な取り組みの実践がなされている。引き続き、日本テニス協会主催大会をはじめ、講習会などで環境バナーを掲出し、環境保全活動に取り組んでいく。

今後の課題としては、『JOC スポーツ環境専門部会 環境報告書』の活用方法の検討をはじめ、事務局におけるエコ活動のさらなる推進、さらに指導者向けの講習会などにおいて「スポーツと環境」の講座を企画し、JOC スポーツ環境専門部会が作成した『スポーツと環境についてのレクチャー原稿』があらゆる場面で活用されるように促進していきたい。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 大津 克哉

2015年パリで開催されたCOP21（国連気候変動枠組条約第21回締結国会議）では、世界全体で今世紀後半には、人間活動による温室効果ガス排出量を実質ゼロにしていく方向を打ち出した「パリ協定」が採択された。こうした国際的な潮流に呼応して、スポーツ競技団体も社会的責任として環境問題に取り組む姿勢を示している。例えば、オリンピックなどに代表されるメガイベントにおいては、環境の持続可能性に配慮した大会開催を目指す取り組みが見受けられるようになった。今後は、スポーツ大会の開催に伴って排出される温室効果ガス排出量をオフセットする取り組みがますます求められることだろう。

日本トライアスロン連合（JTU）及び「ITU 世界トライアスロンシリーズ横浜大会」が取り組んでいる「グリーントライアスロン」のように、来場者が会場までの移動等により生じる二酸化炭素排出量を金額に換算し、自然再生エネルギーへの投資を促すカーボンオフセットの仕組みは参考になる。こうした事例のように、参加者を巻き込むユニークな啓発活動イベントが増えていくことは、大会を取り巻くステークホルダー（大会の組織委員会、開催地の自治体、そして民間企業や参加者・観客）に対して、環境などの持続可能な開発目標（SDGs）への意識を高めることにもつながるのではないだろうか。

今後、テニス協会においてもイベントに関するライフサイクル全体における温室効果ガスの排出量を把握（見える化）し、カーボンフットプリントとして算定する意義と展望について理解を求めていくことが急務である。カーボンフットプリント量を概算、把握し、それに対する削減対策を具体的に提示することは、テニス界の持続可能性を論じるうえでも重要な観点の一つになるだろう。



(公社) 日本ボート協会

当協会では同年8月に、新設の「海の森水上競技場」において世界ボート連盟（FISA）主催の世界ボートジュニア選手権大会（世界 Jr）を主管することが決定しており、FISA からは同大会を通じて参加選手に環境に関する啓発の取り組みを行うことが強く求められていた。

そこで、当協会では FISA の提携先である WWF の日本法人（WWF ジャパン）と連携して取り組みを行うこととし、以下の具体策を実施した。

(1) 「環境方針」の策定

当協会ではこれまで環境方針を策定していなかったが、環境問題取り組みの柱として環境方針（基本理念と行動指針）を以下の通り策定した。（2019年3月理事会）

公益社団法人日本ボート協会 環境方針

【基本理念】

- ①公益社団法人日本ボート協会は、ローイングスポーツ（ボート競技）を通じて環境保全に取り組み、サステナブルなスポーツ大会運営を通じ、新たな環境指針を実践することにより、「持続可能な社会」の実現に貢献する。
- ②ローイング（ボート競技）が目指す環境サステナビリティとは、地球環境や自然環境が適切に保全され、将来の世代が必要とするものを損なうことなく、現在の世代のニーズを満たすような社会的、文化的、経済的、そしてエコロジカルな責任のもとに開発が行われている社会である。

【行動指針】

日本ボート協会は、以下の行動指針に従い、環境保全に関する基本理念の実現に努める。

- ・動植物の生息・生育地や生態系の保全ならびに生物多様性の保全に十分配慮する。
- ・再生可能・不可能を問わず、あらゆる自然資源やエネルギーの維持・保全に努める。
- ・さまざまな要因によって生じる廃棄物および汚染物質の削減。
- ・各地に残る歴史遺産・遺跡の文化的価値について、その重要性を認識する。

(2) 「海の森水上競技場完成記念レガッタ」における取り組み

6月16日に開催した掲記大会において以下の環境施策を実施した。この大会は同競技場を最初に使用して行われる「柿落とし」であり、8月に開催される「世界 Jr」のリハーサル大会との位置付けであるため、可能な限り「世界 Jr 本番」に即した対応を以下の通り行うこととした。

- ・会場受付でゴミ袋を配布し、各自のゴミは会場の集積所に持ってきてもらう取り組みを行った。
- ・事前に「ゴミ箱の設置は行わない」ことを参加団体に周知したこと、ゴミ袋の配布の際にできる限り持ち帰りを促したことにより、最終的なゴミの収集量は当初の想定の1/4に軽減することができた。
- ・持ち帰りを促すことによって途中の駅等への投棄が懸念されたが、複数の参加団体による会場清掃の取り組みを見習ってか、自宅まで持ち帰ってもらうことができた。

(3) 「世界ボートジュニア選手権」における取り組み

8月7日～11日に開催された同大会においては、前記の通り主催者である FISA から環境に関



する取り組み実施を要請されており、それに添う形で後述の取り組みを行った。なお、この取り組みは2019年度FISA表彰（サステナビリティ部門）に応募し、ファイナリストに選出されるなど高い評価を得た。

(4) 「全日本大学選手権」における取り組み

9月5日～8日に戸田ボートコースで開催された同大会において、当協会環境方針に基づき「自然と共生するスポーツとして自分のゴミは持ち帰る。練習や大会でお世話になるコースをきれいに使い続ける」ことを大会参加者に啓発していくことを目的として、戸田市との共催による環境活動（会場周辺の清掃作業）を実施した（戸田市は本活動を東京2020大会の「応援プログラム認証事業」として実施）。具体的な活動は以下の通り。

- 大会告知を兼ねたポスターを作成、事前に戸田コース周辺および市内27カ所の施設や店舗に掲載。
 - 大会最終日の決勝レース開始前、観客にゴミ袋を配布し、レース終了後にオリンピックや元日本代表選手が先頭に立ってゴミの回収を開始。
 - 観客にはボートコース周辺だけでなく、帰路最寄りの戸田公園駅までの路上においてもゴミ回収を行って貰い、戸田公園駅に戸田市が設置した回収ブースでゴミを回収して記念品を配布した。
- なお、この取り組みは2020年以降、全日本大学選手権以外の当協会主催大会においても、戸田市と連携のうえ、継続的に実施することとしたい。

「環境大使育成プログラム」の実施についての特別報告（WWF ジャパン協力） Developing Environmental Ambassadors -Japanese Rowing Association in partnership with WWF Japan

当協会の取組は2019年FISA Sustainability Awards Finalistに選出されたので、本件につき、以下の通りご報告する。まずは、FISA ホームページに掲載されたFinalist 選出に関する記事を御覧いただきたい。



<http://www.worldrowing.com/news/sustainability-award-finalists-demonstrate-action>

日本ボート協会は、FISA/WWFの共同プロジェクト「Clean Water Partnership」を参照しながら、19年に環境方針を制定した後、具体的な行動計画として、19年世界ジュニア選手権を開催するにあたり、WWF ジャパンの協力を得て、将来のアスリートである小学生に対する持続性のある環境への取組に関するプログラムを企画／実行した。

大田区鶴の木にある学童保育の協力を得て、夏休み期間中の約30名の小学生に参加して貰い、アトラントオリンピック日本代表である野口先生を講師とした座学を実施した。更に、小学生達は「環境大使」として当該大会へ来場、FISA 幹部への表敬を済ませ、大会を応援した後、WWF ジャパン設置のブースにて、



環境負荷軽減の取組を学び、選手食堂、競技エリアでの再生素材利用促進、廃プラスチック削減の各取組を見学した。

環境大使一行は、毎日の小さな取組が、いずれ大きな変化に繋がることを学べた模様であり、学童保育の代表によると、家族で買い物に出かけた際、「レジ袋の利用を減らそう」と進言している様である。本件は、日本ボート協会が既に取り組んできた主催大会における、ゴミ拾い／分別回収等活動が発展したプロジェクトであり、今後の継続も期待される。

当協会にとって、2019年シーズンは6月に海の森水上競技場の開場、8月に世界ジュニア選手権の開催を経験し、通常のシーズンとは比較にならないほど、大きな一年であった。日本で最後に世界選手権が開催されたのは、2005年（岐阜）であり、一部のノウハウは残っていたものの、真新しいオリンピック会場での世界選手権は、FISAにとっても恐らく初めての経験であり、全てが手探りの大きなチャレンジとなった。大会を主催するにあたり、FISAと開催契約を締結する際、様々な項目を充足する必要がある中、環境面でのプログラム実施は任意だった。しかし、当協会は環境方針を設定した直後でもあり、新たなプロジェクトに取り組む格好のチャンスと位置付け、東京オリンピックにつながるムーブメントとして、小学生に対するプログラムを企画／実行することとなった。



先ず、FISAがWWFとパートナーシップを組んでいる事に着目した。当協会は大会準備に当たり、例えば、大会会場における選手食堂で使われる食器の再生素材の導入、同食堂を含む選手エリアではウォーターサーバーの設置（ペットボトル配布を最小限とし、結果的に500ml換算で約6500本を削減）が決まっていた為、環境面における様々な分野で活動しているWWFジャパンのアドバイス／協力を得ながら企画立案／実行していった。

当該大会前の座学プログラムでは、小学生の興味を惹くため、オリンピックに繋がる様にメッセージを「スポーツの楽しさ、フェアプレイ、環境・天候の大切さ、今日から出来る取組」の4点に絞った独自のプログラムを作成し、楽しく、分かり易く説明を聞いて貰う為に、オリンピックを講師とする事に拘った。

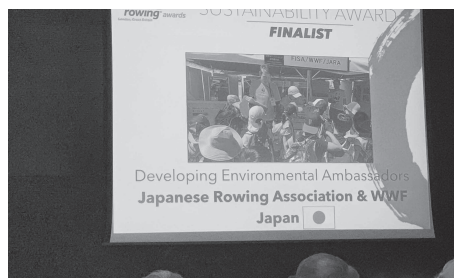
学童保育の代表が元ボート選手だったこと、同代表と同期のオリンピックを講師として起用出来た事は、大きな成功ファクターだったが、終始多くの笑顔に囲まれた本プロジェクトは、多くの子供達に楽しくメッ



セージが伝えられ、スポーツの楽しさ・心地よさは、普段当然と感じている事が、如何に尊いものかを実感する場となった。また、スポーツを取り巻く環境についてのインストラクターとして、引退後のオリンピックが活躍する場を新たに見出す事が出来た。

また、2019年シーズン終盤には、FISA Awards Dinnerにおける6つの賞（この一つが18年度に新設されたSustainability賞）の募集連絡があり、当協会史上初め

て応募したところ、Finalistに選出された上、FISA Awards Dinnerに招かれる事になった。結果的にオーストラリアの水域再生プロジェクトが受賞する事になったが、FISA選考責任者から、「応募されたプロジェクトはどれも素晴らしい。とりわけ日本のプロジェクトは未来のアスリートへの教育を実施した点で素晴らしかった」とコメントがあり、大変意義深いプロジェクトとなったので、ここにご報告申し上げます。





<プロジェクトリーダー>

日本ボート協会 2020 特別委員会オフィサー 安井大介

私は、北京オリンピックへ代表チーム総務担当として遠征したのが初めてのオリンピックだったが、世界選手権等とは違う規模感、応援の熱気を感じ、「なぜ、こんなに感動し、熱中出来るのだろうか？」と自問自答する事があった。「世界が平和で、天候／環境が安定しているから、感動を味わえる」と気付き、大きく人生観が変わった。これを、いつかどこかで共有したいと思い続けて来たが、東京オリンピックに先立ち、多くの皆様の御協力を得ながら、本プロジェクトを通して夢が実現出来た。また、大変名誉な事に、FISA 年間表彰にあたる Awards Dinner に招待され、代表として出席した。受賞こそならなかったが、世界の強豪国と肩を並べ、競技力以外でも評価されるプロジェクトを実施出来た事は大きく、今後益々重要となってくるスポーツにおける持続可能性 (SDGs) の観点からも、貢献出来る分野は大きいと確信するものである。



<オリンピック講師>

日本ボート協会事務局 アトランタ五輪代表 (女子ダブルスカル) 野口紀子

学童保育の教育セッションに、オリンピックとしてプレゼンテーションに参加し、講師を務めた。かつて競技者として、天高く伸ばした手を、だれとでも手を繋げるところに置いて、私たちの地球のことを一緒に考える時を作り出し、ともに過ごすことは、未来への種を撒く力となり、オリンピックとしての新しい役割を感じる経験となった。今は小さい芽吹きであるが、じっくりと育てて参りたい。



<学童保育代表>

学童保育 ベアフット (元慶應義塾大学ボート部主将)

ボートを子供たちに体験してもらいたいと運営する学童保育で毎年ボートの体験会を開催している。更に月に一度は自然体験のイベントを開催している。今回日本ボート協会からご提案頂いたスポーツと環境を結びつけたセッションは私たちにとって子ども達に知ってもらいたい内容であった。子ども達は素直な目線でボートレースの観戦や体験を楽しみ、環境や自然に対しても自分たちのこととして捉え、まっすぐな視線で大人である私たちが気づかないことや忘れかけている正義感を気づかせてくれる。環境に対する問題がその時限りのことではなく、ずっと考え続けなくてはならないこととして、この取組を継続することが大切だと強く感じている。



<WWF ジャパン スタッフ>

WWF ジャパン 海洋水産グループ 植松周平 (元静岡県立沼津東高等学校ボート部、北海道大学ボート部)

WWF ジャパンでは、海と魚をまもりながら、人々の生活を共存させるための活動をしている。高校生の時、毎日練習していた川の水質汚染がひどく、「これをなんとかしたい」と思ったことが、私が環境保全の道を志すことのきっかけの一つとなった。ボートは、水域環境の素晴らしさを直に体験できる競技である。より多くの子供たちに、ボートの素晴らしさを感じてもらい、同時に地球の大切さを学んでもらえればと思う。





(公社) 日本ホッケー協会

1. 実施概要

スポーツ団体が環境保全活動に取り組むことの重要性を広めるよう努めた。協会主催大会において実践し、また各都道府県協会および各連盟にも啓発・実践活動を行わせるよう努めた。今後も全国のホッケープレイヤー及び関係者に環境保全活動に取り組むことの重要性を広めていくことを目標にさらなる広報・啓発・実践活動に取り組む。

2. 令和元年度事業活動

- 大会開催時に環境保全啓発ポスター、横断幕を掲示した
- 競技会の会場等における環境保全活動を実施した
- 研修会開催時に環境保全啓発ポスター、横断幕を掲示した

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会開催時の環境保全啓発ポスター、横断幕の掲示
当協会主催大会にて環境啓発ポスター、横断幕の掲示を行い、啓発活動を行った。
- ②競技会等における環境保全活動
当協会主催大会において、ゴミ箱の設置、清掃活動を行った。
- ③研修会時の環境保全啓発ポスター、横断幕の掲示
当協会の各種研修会にて環境啓発ポスター、横断幕の掲示を行い、啓発活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、横断幕の掲示などの啓発活動を実践してきた事が理解され、選手・開催地等の関係者に環境保全活動の重要性が浸透してきた。今後はさらにスポーツと環境保全の関わりの重要性を浸透させ、一人一人が自覚して自主的に活動することを促進していきたい。

(公財) 日本バレーボール協会

1. 実施概要

バレーボールを通じて環境保全の啓発活動に取り組むため、大会会場で配布される大会パンフレットに「環境ポスター」を掲載し、来場者や関係者に環境保全の啓発に努めた。また、本協会では、独自の「環境バナー」を作成し大会の会場内に掲示し、継続して「ごみの分別」に取り組んだ。その他、本協会が独自に行っている取り組みとして、使用したバレーボールを再利用として、発展途上国を中心に提供する「バレーボールバンク事業」を展開している。今後もバレーボールファミリー（ファン、加盟団体、プレイヤー、指導者、審判、役員等）と協力しながら、バレーボールを通じた環境啓発活動に取り組みたい。

2. 令和元年度事業活動

- 大会における環境啓発活動、ごみの分別



- 事務局における環境啓発活動
- バレーボールバンク事業
- ビーチバレーボール会場での清掃活動と美化活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会における環境啓発活動、ごみの分別

- ・環境ポスター及び環境啓発バナーを大会会場に掲出
- ・大会プログラムに環境啓発ポスターの掲載
- ・インドア、ビーチ全ての大会においてごみの分別を実施

②事務局における取り組み

- ・メール、プロジェクターの活用によるペーパーレス化と、裏紙の再利用の推進
- ・クールビズ、ウォームビズの実施
- ・事務所内に環境啓発ポスターを掲示
- ・事務所内にてごみの分別を実施

③バレーボールバンク事業

バレーボールバンク事業とは、大会で使用した試合球や一般の方から寄贈されたバレーボールを発展途上国中心に提供する事業である。廃棄せざるを得なくなったボールの再利用を目的としている。本事業は、本協会独自に実施している社会貢献（国際貢献）プロジェクトであり、2010年より本年まで継続して9年実施している。

④ビーチバレーボール会場での清掃活動と美化活動

ビーチバレーボールの大会では、大会開始前に砂浜の清掃時間を設けており、美化活動に取り組んでいる。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境ポスターやプログラム等を活用した啓発活動を続けてきたことにより、選手や観客、関係者を中心に環境に対する意識の向上が図られた。

2019年度は環境啓発バナーを作成し、環境ポスターとともに掲示し、バレーボールを通じて環境に対する意識の向上を図った。

5. JOCスポーツ環境専門部会員 高野和弘

2019年度は、主催大会のほとんどに環境啓発ポスターを掲載することができ、加盟団体へ依頼し大学の春秋リーグ戦のパンフレットにも掲載いただき、多くの方に見ていただくことができ、より一層環境啓発が進んでいると考えている。

2020年度は、残念ながら大会中止が続いているが、コロナウィルスとの戦いも清掃活動や美化活動を進めることが重要と考え、バレーボールを通じてより多くの人々に対して環境啓発をしていく。



(公財) 日本体操協会

1. 実施概要

(公財) 日本体操協会では、これまで継続して実施してきた環境保全活動を引き続き実施していく。選手と協同した啓発活動を再開する。

2. 令和元年度事業活動

- 環境啓発横断幕の設置
- 炭酸マグネシウム対策
- ゴミ分別回収

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①環境啓発横断幕の設置

これまで同様に、国内で実施される競技会とイベントの会場に、環境啓発に関する横断幕を設置した。これらは、すでに各加盟団体においても横断幕を独自に作り、それぞれの事業において横断幕設置が慣例化されているが、新規製作などは進んでいない。

②炭酸マグネシウム対策

炭酸マグネシウム対策は、ビニールシートの設置、大会主催者の準備する炭酸マグネシウム以外の利用禁止、競技前後の清掃活動など、従来の方法を継続実施している。

③ゴミ分別回収

ゴミの分別回収ボックスを設置し、継続的な分別意識を啓もうした。

④常務理事会でのペーパーレス化

常務理事会において、会議資料のペーパーレス化を図り、紙資源の節約に努めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

これまでの慣例に従って行われる環境啓発横断幕設置や会議におけるペーパーレスの継続的な取り組みに意義はある。しかしながら、なかなか新たな取り組みについて導入されておらず、新たな取り組みなどの開発も進めていく必要がある。

(公財) 日本バスケットボール協会

1. 実施概要

公益財団法人日本バスケットボール協会〈JBA〉は、スローガンである【次世代を担う子どもたちが、ずっとバスケットボールを楽しめるように！】を常に念頭に置き、スポーツ活動が地球温暖化と無縁ではないことを自覚し、バスケットボールファミリーが共有出来るような環境関連のメッセージを発信することを使命と考え、積極的に取り組んでいる。

2. 令和元年度事業活動

- 『環境啓発ポスター』の掲示



- 『環境取組みメッセージ』広告の掲載
- 大会会場における取組の推進とゴミ分別活動の徹底
- 協会内部における環境活動強化

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①『環境啓発ポスター』の掲示
 - ・各主催大会およびオフィス内にてポスターの掲示（※）。
- ②『環境取組みメッセージ』広告の掲載
 - ・日本協会主催大会公式プログラムに、環境ページを掲載し拡く訴求（※）。
- ③大会会場における取組の推進とゴミ分別活動の徹底
 - ・子供にも解るようなごみ分別及び、大会スタッフの巡回によるゴミ回収を実施。
- ④協会内部における環境活動強化
 - ・クールビズ（夏季期間）、ウォームビズ（冬季期間）の実施。
 - ・会議資料等の電子化推進、電気使用量削減の徹底。
 - ・テレワークおよび時差通勤の推奨、実施。

※新型コロナウイルス感染防止による大会中止のため、一部実施なし

4. 全体的な成果と今後の課題

令和元年度は、大会における啓発活動（ポスターの掲出、プログラムへの啓発広告）については、年度末の主催大会が新型コロナウイルスの影響で中止となり、一部活動ができなかった。なお、協会事務局における実践活動については例年通り実施した。

また、2月末から協会事務局においてテレワークおよび時差通勤が推奨、実施されている。新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点からだが、来年のオリンピック本番およびその後に向けて、環境保全活動としてもよい機会だったと捉えている。

令和2年度も、大会等における環境啓発・ゴミ分別活動実施を促進していく。また、引き続き選手・バスケットボールファンが常に自然に環境を意識できるような取り組みを考案し実践していきたい。

（公財）日本スケート連盟

1. 実施概要

JOCの行動指針に則り、啓発活動及び実践活動を実行している。啓発活動においては、主管大会でのポスターの大会本部及び競技場内での掲示、横断幕の競技会会場への掲示の実施や審判員講習会でのレクチャー、活動報告等を実施。実践活動については、特に主管大会時のコピー用紙の使用削減を重点課題として取り組み、更にリサイクルの為のゴミの分別回収を継続実施している。

連盟各事業に携わる全ての役員・選手・業者が意識し、「計画→実施→評価→改善」即ちPDCAを廻していくことが大切と捉えており、取り組んでいく。

2. 令和元年度事業活動

- 競技会、講習会での環境バナー・ポスター掲示
- 講習会でのレクチャー



- 印刷物の減量化によるコピー用紙使用削減
- 競技会でのごみ分別

3. 具体的な活動実施内容とその成果

〔啓発活動〕

①環境バナー・ポスター掲示

- ・全日本選手権、全日本ジュニア選手権、主管地区予選大会、国際競技会、各種セミナーにおいて、バナー及びポスターを掲示し啓蒙活動を行った。

②講習会でのレクチャー

- ・審判員講習会等において、環境への取り組み、協力のレクチャーをした。

〔実施活動及び効果〕

①印刷物の減量化

- ・ISU大会、連盟主幹競技会大会においては運営に係る印刷物（滑走順、競技結果）の紙での配付を極力限定し、替わってオンライン・ウェブでのタイムリー情報提供に移行。連盟内の各種手続きもオンライン化を導入し、大会のみならず役職員の諸手続きにおいても大幅なOA用紙使用及び廃棄の抑制をした。特に、本年度はスピードスケート競技会において情報のオンライン化が実施され大幅に印刷用紙の軽減化がなされた。フィギュアスケート大会においても、滑走順、リザルトの配布を廃止し、オンライン化を更に進めた。
- ・審判員名簿（紙媒体）を廃止し、オンライン化に完全切り替えを実施。
- ・フィギュア委員会では会議資料の紙での配布からオンラインでの配信に切り替えを進めている。

②競技会でのごみ分別回収

- ・選手控室や競技場内の環境良化のため、大会実施本部が業務内容として配慮している。
- ・連盟主催・主管競技会でのごみの分別を徹底し、実施した。

4. 全体的な成果と今後の課題

【成果】

- ・講習会、競技会での啓蒙活動により特別な事から当たり前のことへ意識改革が進んでいる。
- ・ごみの分別については協力を得られている。
- ・オンライン化による印刷物の減量化はかなり進んできている。

【今後の課題・改善】

- ・昨年繰り越し課題となっていた各種会議資料や大会資料は徐々にではあるがオンライン化・ウェブ化により、印刷物の減量は出来てきた。
- ・本年度より連盟主催の競技会及び各都道府県のスピードスケート競技会のオンライン化が実施され印刷物の減量化が進んだ。
- ・ジャッジングシートや各種会議資料完全オンライン化にはもう少し時間が必要であり、来年度の継続課題としたい。
- ・各都道府県組織ベースでは、予算の問題もあり、オンライン化が進んでいないのが現状としてあり、どの様に進めるかが課題。



(公財) 日本アイスホッケー連盟

1. 実施概要

公益財団法人日本アイスホッケー連盟では、ポスターや環境バナー掲示等を通じて大会参加選手及び関係者への啓発活動に努めた。また、新型コロナウイルス感染症の拡大にともなう大会等の中止で活動が自粛される中、「COOL CHOICE 推進活動」を参考に日常的に手軽に取り組むことができる環境活動を推進した。今後も引き続き従来の取り組み以外でも創意工夫で全国に発信していけるような活動を目標に取り組んでいく。

2. 令和元年度事業活動

- 本連盟主催大会時の環境啓発ポスター、バナーの掲示、環境啓発アナウンス
- 加盟団体主催大会時の環境啓発ポスター、バナーの掲示、環境啓発アナウンス
- 本連盟及び加盟団体に対する COOL CHOICE 推進活動の案内

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示など

本連盟及び加盟団体主催大会において、啓発ポスター、バナーの掲示や会場での環境啓発アナウンスなどで試合参加選手及び関係者への啓発活動に努めた。また大会パンフレットへ環境ポスターを掲示することにより選手・関係者・来場者への普及啓発ができた。

②環境実践活動の推進

「COOL CHOICE 推進活動」(環境省)で紹介されるケースの案内を行い、各団体、各関係者において日常的に手軽に取り組むことができる環境活動を推進した。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、バナーの掲示、パンフレットの掲載などで啓発活動を行ってきた成果が実り、選手をはじめ多くの関係者の環境啓発に対する理解や自覚が高まってきている。新型コロナウイルス感染症の影響により大会等での大々的な活動推進ができなかった反面、各団体、各関係者が日常的に手軽にできる身近な活動への取り組みにも目を向けることができた。これからは、従来の大会等での集団的活動に加えて個人レベルでも取り組める活動を広めていくことで環境保全に努めていきたい。

(公財) 日本レスリング協会

1. 実施概要

- JOC 環境ポスターの特大バナーの掲揚
- 大会パンフレットへの「来たときよりキレイに」をページ掲載
- 会場内の分別化の啓発活動・実践活動(大会スタッフの弁当のカラ箱の分別、ペットボトルのキャップ回収)
- その他、ごみの持ち帰り、マイボトルの推奨
- 環境教育として、指導者講習会とエリートキャンプで座学講習の開催



- エリートキャンプ参加者へ環境問題についてのレポート提出を義務付ける
- 環境標語を募集し、啓発活動を図る

2. 活動内容

	大会名	バナー掲載	ポスター掲載	プログラム掲載	館内放送
4月	ジュニアクイーンズカップ選手権大会	○	○	○	○
4月	JOC 杯全日本ジュニア選手権大会	○	○	○	○
6月	明治杯・全日本選抜選手権大会	○	○	○	○
6月	全国中学選手権大会	○	○	○	○
7月	全国社会人選手権大会	○	○	○	○
7月	全国少年少女選手権大会	○	○	○	○
10月	全日本女子オープン選手権大会	○	○	○	○
10月	全国社会人オープン選手権大会	○	○	○	○
11月	全国中学選抜選手権大会	○	○	○	○
12月	天皇杯・全日本選手権大会	○	○	○	○
1月	全日本マスターズ選手権大会	○	○	○	○
2月	全国少年少女選抜選手権大会	○	○	○	○
※	8ブロック少年少女選手権大会	○	○	○	

※この他、少年少女のローカル大会のプログラム掲載、キャンプのしおりなどに掲載している。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

7月開催の第36回全国少年少女選手権大会において「スポーツ環境標語コンテスト」と「マイボトルDAY」を実施した。応募総数385作品の中から3作品を選出し、決勝戦の前に表彰を行うとともに、受賞者へ記念トロフィーを贈った。受賞作品は連盟のスポーツ環境標語として、ホームページ、大会やキャンプといった機会を通じ1年間使用することとした。

◎スポーツ環境標語コンテスト受賞作品

【会長賞】刈谷レスリングクラブ（愛知県）

小さな行動、大きな成果、続けよう自然豊かな地球のために

【最優秀賞】ゴールドキッズ（東京都）

スポーツは日々の努力が実を結ぶ、環境は日々の努力で地球を救う

【優秀賞】常滑レスリングクラブ（愛知県）

マイボトル、使って海を守りたい

また本年度は、新たな試みとしてエリートキャンプの参加者に、その条件として「環境についてのレポート提出」を義務付けた。お題は「海にあふれるプラスチックごみ」についてである。参加者は保護者と共にネットで調べた内容、学校で学んだ内容等を基に、しっかりと書いてきてくれた。キャンプ期間中にレポートについて紹介する程度で、ディスカッションを行いまとめることができたら良かったが、時間の都合で出来なかったのは残念だった。しかし、環境について親と子の共通の話題の中で選手は選手なりに考え行動することにより、より一層の実践活動が周りの人々に伝播しながら広がっていくのではないかと感じた。

その他、全国大会の開会式時に「手に持ったマイボトルを掲げた集合写真」を撮影しホームページなどでアピールすることができた。この写真を報告書などに利用し、マイボトルの実践活動に繋げていくことが成果としてあげられる。



4. 全体的な成果と今後の課題

新型コロナウイルス問題でオリンピックの延期、傘下団体の大会イベントの中止など、先行きが見えない状況であるが、これまで以上に実践活動を行うための啓発活動を模索し、継続していくようにスポーツ環境委員会内で検討していきたい。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 鎌賀 秀夫

今年は東京オリンピック・パラリンピックを迎え、新設された会場、改装された会場と、競技もさることながら、環境に配慮された施設づくりになっているかなど、見るのを非常に楽しみにしていたが、新型コロナウイルス問題で開催が一年延期となった。

JOC 環境専門部会として、開催までの一年をかけて選手団、選手、役員、ボランティア、そして各国・地域から観戦と観光のために来日する人々に、日本の競技団体のこれまでの環境活動の取組や、オリンピックのため新設、リニューアルされた「施設の環境に考慮・配慮したハードづくり」の紹介など、チラシ、ブースの展開、施設内での QR コード等々、地球温暖化、自然環境の破壊の抑制、住みやすい地球の環境づくりを実践するためのモチベーションづくりに、何らかの方法で周知できないか。そんなことを考え活動していきたい。

(公財) 日本セーリング連盟

1. 実施概要

海、湖で主に行うセーリング競技は直接環境へその影響が跳ね返ってくるスポーツであり、常に、また積極的に環境保全への取り組みを推進していく義務があると考えている。令和元年度も「残したいのはきれいな海」をスローガンに全国で環境保全活動を推進してきた。

2. 令和元年度事業活動

- 36 の全日本選手権において環境キャンペーンを実施、支援
- 加山雄三さんとのコラボレーションによる「海、その愛基金」を創設。プロジェクトによるビーチクリーン活動の実施
- World Sailing (IF) による Sustainability Agenda (持続可能性に関する協議事項) 2030 への参画
- いきいき茨城ゆめ国体における不要なセールをリサイクルするワークショップの開催

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ① 全日本クラスの 36 大会について環境キャンペーンを実施、支援
 - ・ 環境フラッグ、横断幕等掲示により選手はもとより、大会運営関係者、観客も含め環境保全への意識の向上を推進。
 - ・ レースの帆走指示書にレース中に海にゴミを捨てた場合のペナルティ、失格条項等を記載、厳しく対処。
 - ・ 競技参加者、運営関係者、観覧者等延べ約 5000 名に広くキャンペーンを浸透。
- ② 「海、その愛基金」を創設
 - ・ 加山雄三さんは全国ツアーを再開されるが、そのツアー会場でも海洋環境の悪化と海の再生の必要性をアピールし、本基金への募金を呼びかけた。
 - ・ 環境クリーンプロジェクトは①海を再生する、②海を知る、③海を体験する、を柱に、JSAF や



- 加盟団体・特別加盟団体が協力してビーチクリーン等活動を開始した。
- 小笠原レースおよび日本一パラオ親善ヨットレース中において海洋のマイクロプラスチックごみを収集、およびその調査。
 - 小笠原中学校、高等学校での海洋環境教室、ヨット体験教室の実施。
- ③ World Sailing (IF) による Sustainability Agenda (持続可能性に関する協議事項) 2030 調査への参画
- Sailing World Cup 2019 江ノ島大会において、Sustainability に注力した運営を実施。まずは何が必要とされているのか問題を洗い出すことが出来、可能な所から少しずつでも始めることができた。東京オリンピックに向けまだまだ課題が山積している旨確認。今後どうやって解決していくかを引き続き検討していく。
- ④ いきいき茨城ゆめ国体での不要なセールをリサイクルするワークショップ
- 小学生から大人まで幅広い年齢層の参加者とともにセールをリサイクルしエコバッグを作るワークショップを開催。
 - 開催中『きた時よりもきれいに!』の新ポスターを会場内、ワークショップ内に掲示。
 - ただバッグを作るのみならず環境啓蒙の小冊子を使い、現在の問題点、何が必要なのか子供にも分かりやすいように魚、海の生き物等の事例を出して説明。

4. 全体的な成果と今後の課題

今年度はオリンピックを控え、本番と同じ会場である江の島にてセーリングワールドカップが開催された。サステナビリティに関して物理的にできること、できないこと、条件を整えばできること等識別し、どうすれば可能になるかに注力した。シングルユースプラスチックの削減ではペットボトル、お弁当のプラスチックの容器等、自分達では新たに削減に移しているものが増えているものの、金銭面での課題もあり、まだ全国的な流れとして徹底するには時間がかかると思われる。他のNFの皆さんとの横のつながり、情報共有も増やしつつ、選手のみならず大会関係者、観客も含め、意識を少し変えることにより環境保全に自分達もできる事があることを引き続き啓蒙活動として行っていきたい。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 永井 真美

JSAF ではIFであるワールドセーリングと情報共有をしながらサステナビリティに取り組んでいるが、高い目標設定、意識改革においてまだまだ追いついていない部分も多いことを目の当たりにしている。今後レジ袋の有料化等国を挙げての取り組みも増えてくる。この流れを追い風として環境意識の更なる向上につなげていきたいと思っている。

(公社) 日本ウエイトリフティング協会

1. 実施概要

(公社) 日本ウエイトリフティング協会は、スポーツ活動における環境問題を改善するために、事務所内及び競技会での環境への取り組みを実施し、環境保全啓発ポスター、バナーの掲示により大会関係者及び観客に向けて環境保全の啓発を促し環境保全意識の向上を図っている。



2. 令和元年度事業活動

- 競技会での環境啓発活動
- 競技会等における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

① 競技会等における環境啓発ポスター、バナーの掲示

前年度より継続して、各競技会や催事等において環境啓発のポスター、横断幕を会場内に設置した。特に、全日本大学対抗戦などの大学生主体の大会においては、バナーをステージの真上に掲げ、環境啓発活動を実施している。

② 競技会等におけるペーパーレス化

全日本選手権大会や全日本ジュニア選手権大会においては大会要項を協会ホームページにアップし、ウェブからのダウンロードによる配信を行った。

大会リザルト等については、公式記録員から各都道府県事務局への配信を行い、ペーパーレス化に向けての実践を行っている。

③ 競技会等における環境活動

当協会においては、より環境負荷の少ない競技会運営を目指し、審判・監督に協力を呼びかけながら、継続的に活動を行っている。

大会の運営にあたっては、できるだけ廃棄物を出さないことはもちろん、飲み物の容器・食器についても再利用や原材料としての再生利用を考慮している。岩手県において開催した全日本選手権大会では、役員の弁当に紙と経木でできた容器を使用した。大阪府羽曳野コロセアムで開催する学生連盟主催の全日本学生個人選手権大会・全日本大学対抗選手権大会（2部）では、競技役員の昼食に会場内食堂の通常の食器を使用して、廃棄物をできるだけ出さないようにしている。

国民体育大会・全国高校総体・社会人選手権大会・レディースカップ全日本女子選抜大会などでは、開催自治体の協力によるゴミの分別収集も定着した。

全日本学生連盟では、清掃班を編成して競技会場トイレを巡回し、清掃活動を行うだけでなく、ゴミの減量化・分別・持ち帰りを呼びかけるなど、環境への配慮を促している。

国内における国際大会開催では、2020東京オリンピックテストイベントとして開催した、日韓中フрендシップトーナメントにおいて、次のような環境への配慮を行った。

- (1) 飲料の入っていた段ボール箱は解体して資源ゴミとして活用した。
- (2) 記録の読み合わせ確認で使用し、不要となった記録用紙や使用済で不要となった試技申込用紙も資源ゴミとして処理した。
- (3) 競技に必要な書類等を実施グループごとに保管するために使用した封筒は他の用途に再使用するため保存した。

また、競技会自体の運営については、炭酸マグネシウム対策として、粉の粉塵化を最小限に抑えるため上部へ2カ所の取り出し口のあるものを活用しているとともに、滑りにくいプラットフォームを使用することによって靴底の滑り止めの松ヤニを使用せずに競技会を行い、競技会場の床や競技者の靴底の汚れを防止している。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全啓発ポスター、バナーの掲示などの活動を通して、環境保全の重要性をアピールした。今後も、会場地等との協力のもと、環境保全の活動を行うとともに、主催者・参加者の意識向上に向け、様々な取り組みを行っていききたい。



(公財) 日本ハンドボール協会

1. 実施概要

全世界的な環境問題を改善していくためには、我々一人ひとりが強い自覚を持つことが不可欠である。

そこで、スポーツ団体が取り組める環境活動として、多くの方々が集まる大会等での啓発活動が効果的であるとする。会場へのバナー・ポスターの掲示、プログラムへのポスター掲示等を実施した。各都道府県協会、各連盟と協力し積極的な活動を行った。

今後も全国の関係者や選手に環境保全に取り組むことの重要性を広め、更に一人ひとりの意識が向上出来るようにしたい。

2. 令和元年度事業活動

- 大会開催時に環境保全啓発ポスター、環境バナーを掲示
- 大会プログラムへの環境ポスター掲示
- 競技会場内におけるごみ分別の徹底

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会における環境啓発活動
 - ・環境バナー、環境ポスターを会場内に掲示し、環境の取り組みを告知した。
 - ・環境ポスターをプログラムに印刷した。
- ②大会等における環境活動
 - ・ごみの分別を徹底し、大会情報や結果の報告等でのペーパーレス化に努めた。
- ③事務局におけるエネルギー節約
 - ・会議体の変更（TV 会議の実施）。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓蒙活動としてポスターやバナーの掲示、ごみの分別や持ち帰りの呼び掛け等により、環境への意識は向上しているが、必ずしも十分とは言えない。

更に具体的な例を挙げて啓発活動を行うことが必要と考え、他の NF の取り組みを参考に検討をしていきたい。

(公財) 日本自転車競技連盟

1. 実施概要

サイクルスポーツはエコロジーで環境や体に優しいとても身近なで気軽なスポーツである事から急速に愛好家人口が増えた。その一方では放置自転車の問題、乗車ルール・マナーの問題が増え望まない事故、あるいはゴミの投棄などが散見される事から、全国的な一貫した啓発活動が望まれる。サイクルスポーツ愛好中に限らず、環境保全の意識は愛好家達が活動するフィールドの改善（気候変動、大気汚染等）に効果的である事も周知したい。



2. 令和元年度事業活動

- 大会時環境啓発バナーの掲示
- 国際大会を含む競技会会場でのごみの分別活動
- 競技会文書（リザルトなど）の紙配布の減少
- 競技会場乗り入れ車両の限定（減少）乗合の奨励

3. 具体的な活動実施内容とその成果

特にロード・レース競技において走行中補給食等のゴミ・水筒の投棄禁止には監督会議で審判長が周知徹底した。それに従わない選手にはペナルティを課す事を継続してきた結果、レース中に指定場所以外で投棄する選手は殆どなくなった。また、観客や役員がコース上の清掃を自主的に行う様になった。こうした継続的な活動によって、数年前と比較してレース後の会場が非常にきれいな状態になった。

4. 全体的な成果と今後の課題

従来より個々の環境保護、エコロジーの観念・関心は有ったものと推測するが、競技団体として全体的な計画や指針が制定されていなかった事によって、思ったほどの効果が出にくかった事が課題かと思う。今後においては、加盟団体を含めご用意頂いているプログラム用原稿やポスターを活用し自転車愛好家全体のムーブメントとなるように努めてゆきたい。

(公財) 日本ソフトテニス連盟

1. 実施概要

(公財) 日本ソフトテニス連盟環境部会は、平成 23 年度に環境・教育プロジェクトに変更し、公益財団法人移行とともに平成 24 年度からは環境・教育プロジェクトとして特別委員会となった。特別委員会設置の目的は、「ソフトテニス長期基本計画 2017」の主要な取り組み事項として、公益財団法人としての高い社会的信用性を維持し、公益目的事業を行うために、ソフトテニスを通じて環境と教育に取り組むことにある。ソフトテニスを通じて環境保全を図っていくとともに、自己責任及びフェアプレーの精神を身につけ、マナーを重んじる教育を推進し、青少年の健全育成を図ることとした。環境対策については、傘下 47 都道府県支部と日本学生連盟に、本連盟独自で作成した環境とマナーの横断幕「来たときよりも美しく！ありがとう あなたの笑顔と そのマナー」と、既に配布済みの「この星にスポーツを」の横断幕を各支部の施設に常設するとともに、大会や会議での啓発活動として掲出、またゴミの分別等エコ意識の高揚を継続している。

2. 令和元年度事業活動

- 全国大会会場にて横断幕および環境ポスターの掲示
- 機関誌および大会プログラムに広告掲載
- 大会会場における分別ゴミ箱の設置、ゴミの持ち帰り促進
- マイボトル利用を促進
- 「ソフトテニスマナー BOOK」の活用
- ボールの再利用の研究



3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①全国大会会場にて横断幕および環境ポスターの掲示
横断幕の掲出およびポスターの掲示を行い、啓発活動を行った。
- ②機関誌および大会プログラムに広告掲載
日本連盟発行の機関誌および主催大会プログラム等に掲載することで啓発活動を行った。
- ③大会会場における分別ゴミ箱の設置、ゴミの持ち帰り促進
会場を清潔に使用すること、ゴミを分別することにより資源の再利用を図ることを促進した。
- ④マイボトル利用を促進
紙コップ使用をしないことによるゴミの削減を促進した。
- ⑤「ソフトテニスマナー BOOK」の活用
平成 27 年度作成のマナー BOOK について、引き続き大会会場での配布等を行い、参加者・応援者にマナー向上を呼びかけた。
- ⑥ボールの再利用
ボールメーカーに問い合わせ物理的には可能との見解を得る。

4. 全体的な成果と今後の課題

令和元年度の活動により、環境保全・啓発活動を訴え、関係者の意識を高めることができた。今後も環境・教育プロジェクトを中心に、引き続き上記の活動を各支部と連携を図り、日本ソフトテニス連盟独自作成の環境とマナーの横断幕と、平成 27 年度に作成した「マナー BOOK」を活用し、環境保全の大切さとマナーの向上に取り組んでいく予定である。同時に大会時に環境とマナーのチェックシートを活用し実態調査を引き続き行っていく。また、ボールの再利用についても製造メーカーと協力し研究を重ねていく。

(公財) 日本卓球協会

1. 実施概要

公益財団法人日本卓球協会「環境委員会」規定に基づき、本年度も環境保全基本理念の確認を行い、行動指針である「帰るときは、来た時よりも美しく」、「資源を有効に活用しよう」を 2 大テーマにして、本会の活動が環境に与える影響を的確に把握し環境保全のための継続可能な活動の推進と普及に幅広く努めた。

2. 令和元年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスター掲示
- 全国大会プログラム掲載

【該当大会】

- 全日本選手権大会（一般・ジュニアの部）
- 全日本選手権大会（カデット）
- 全日本選手権大会（ホープス・カブ・バンビの部）
- 全日本実業団選手権大会
- 全日本大学総合卓球選手権大会（団体の部）
- 全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）
- 関東学生リーグ戦（春季・秋季）
- 全国高校選手権大会（インターハイ）
- 全国高校選抜大会
- 全国レディース大会



3. 具体的な活動実施内容とその成果

●実業団

- ①会場内に環境ポスター掲示。「来たときよりもキレイに！」を周知。ポスター前での選手写真撮影。
- ②会場内ゴミの分別、持ち帰りの徹底。
- ③会場内ビール販売の際のプラスチックコップ回収（デポジット）の実施。

●大学

- ①大会会場への各チームゴミ袋持参。
- ②会場内に段ボール箱で「一般ゴミ」「プラスチックゴミ」用ゴミ箱を設置。
- ③試合終了後、観客席等会場内のゴミ拾い見回り。
- ④喫煙所の確保（周知徹底）。
- ⑤上履き、下履きの履き替えの徹底。

●高校

- ①会場内ゴミの分別。
- ②大会日毎に試合終了後、地元役員との清掃を行う。
- ③各都道府県単位で高校生が試合終了後の見回りをしている。
- ④お弁当を業者に依頼する際は引き取りまでをお願いする。

●レディース

- ①会場内ゴミの分別。
- ②レディースは、ゴミの分別、持ち帰りの周知が徹底されている。
- ③レディースは、各自の意識が高い。

【全体的な成果】

現場レベルでは継続的に体育館予約（確保）を行う為にも、体育館をきれいに使用することは必須であり、むしろかなり高いレベルで参加者への周知・徹底が実施されている。

4. 全体的な成果と今後の課題

【課題】

- ・昨年度の課題として報告されている「全国大会レベルだけでなく地方にも環境保全活動を広げること」に対して、本委員会にて担当理事や委員と共にどのように取り組むかを検討した。

【活動テーマ】

- ・『身近に出来ることから』
- ・環境問題は、地球規模での大きな問題であるが、1人の10歩より10人の1歩を踏み出すことで、総合組織力として大きな力となる。その為にも1人1人が身近に出来ることに高い意識で取り組んでいくことが大切な事だと考える。

【目的】

- ・環境保全活動の周知・徹底。
- ・継続可能な活動の推進。

【ねらい】

- ・日本卓球協会「環境委員会」からの発信として、本会各加盟団体へ環境保全活動に対する協力要請を行うことで、現場レベルで既に実施されている活動に更なる信憑性と信頼感を与え、大会参加者への周知徹底に組織として発信する。

【取り組み】

- ・2020年度の新たな取り組みとして、「日本オリンピック委員会」作成の環境ポスター（データ）を各加盟団体に送付し、各加盟団体主催の大会やイベント開催の際に、①大会プログラム掲載、②



配布用チラシ、③会場内掲示、等に活用することで環境保全活動を更に推進させるよう協力要請を行う。

- 近年改めて地球規模での環境問題が深刻化する状況において、卓球界の1人1人が出来ることを実行すべく、環境保全活動を再認識し継続可能な活動を推進していく。

(公財) 全日本軟式野球連盟

1. 実施概要

公益財団法人全日本軟式野球連盟はスポーツ振興に寄与する目的から、平成17年度に環境担当委員会を設置し事務所内及び競技会での環境への取り組みを実施し、環境保全ポスター、チラシを作成、競技会場で掲出・配布し当連盟関係者・大会参加者及び観客者に向けて環境保全の啓発を促し環境保全意識の向上を図っている。

平成19年から各支部より使用済軟式野球用具を収集し、野球用具の入手困難な国や地域へ寄贈する活動を継続実施している。近年では、登録チーム及び一般向けにも用具提供依頼を行い事業拡大を図っている。一部の主催大会において、用具回収ブースを設置し、選手からの直接の寄贈を行い教育啓発活動の意味合いでの活動にも着手している。

平成24年度から、一部の事務連絡等の文書配布において、ペーパーレス化を図り、加盟団体支部(47支部)に電子メールで配信を実施している。

2. 令和元年度事業活動

- 競技会等での環境啓発活動と環境活動(中古用具の海外寄贈)

3. 具体的な活動実施内容とその成果

① 競技会等での環境啓発活動

連盟主催大会及び講習会にて、JOC環境啓発ポスター、JOC環境啓発バナーの掲出、全軟連環境啓発ポスターの掲出、全軟連環境チラシの配布を行った。

また、競技会場においては、ゴミの分別・ゴミ持ち帰りの呼び掛けなど、選手や観戦者に対して環境啓発活動を行った。

② 環境活動

日本では使用されなくなった使用済野球用具が、海外の国や地域によっては十分に使用可能であり、野球普及に有効との観点から、外務省スポーツ外交推進事業(機材輸送支援事業)に参加する形で、また本連盟主催大会である高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメント会期中に回収ブースを設置し、JICA、日本マクドナルド株式会社と連携のもと事業展開を行った。本年度の寄贈国は、スリランカ、タイ、中国、ニカラグア、パラオ、フィジー、ブルガリアの計7か国となった。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスター、バナーの掲出、環境チラシの配布やゴミ分別・持ち帰りの呼び掛けにより、全国大会においては参加者の環境への意識向上に繋がってきた。今後は、各都道府県大会においても積極的な環境啓発活動を行うことが出来るよう、加盟団体支部へも呼びかけていきたい。

屋外スポーツである軟式野球は、地球温暖化等による異常気象や大気汚染の進行により、競技に与



える影響を理解した上で、改めて環境保全に対する取り組みを積極的に行っていききたい。

(公財) 日本相撲連盟

1. 実施概要

相撲大会会場は、国技館や各県の県立武道館特設土俵など屋内の場合と、靖国神社相撲場や堺市大浜公園相撲場など屋外の場合に分かれている。

本連盟として、環境活動の重要性を認識し、それぞれの大会では一般のごみの分別の徹底と、持ち込んだごみは持ち帰るといった活動を継続的に実施している。

多くの大学においては、相撲部の合宿所においてゴミの分別の徹底を図るとともに相撲部員が最寄の駅から合宿所の道程にゴミの無いように、ゴミ拾いを実施している。

今後このような取り組みが、加盟大学の全体に広がるよう推進していきたい。

2. 会場別対策

- 屋内の大会で、ごみが放置されていることは殆ど見当たらない。
- 屋外においても、持ち帰りを指導しているため、ゴミについての問題はない。

3. 相撲競技に特異な注意点

- 屋内相撲場では、特に砂の扱いに注意が必要である。小中学生の大会では、少年選手達が砂を付けたまま観覧席に入ることがある。砂は、足などのほか、まわしにも付いているため、国技館の枱席などにはまわしを付けたまま入ることを禁止している。よって砂を取るための清掃費は、数十万円かかる場合がある。監督会議で注意をするほか、大会当日の放送や見回りを繰り返しており、現在では殆ど問題がなくなっている。

4. 令和元年度の具体的な取り組みと今後の取り組み

国体競技（茨城県・土浦市）や日本相撲連盟主催の全国都道府県中学生相撲選手権大会（東京・靖国神社相撲場）や全日本選手権（東京都・国技館）の会場においては、『来たときよりもキレイに！』のポスターを掲示するとともに、環境活動の重要性を喚起し選手、監督、役員などの関係者全員に、ごみの分別と持ち帰りの徹底を促した。

これからは今までの取り組みを継続するとともに、スポーツと環境が大きな関わりを持つことを多くの方に理解してもらえるように、大会会場等にポスターや横断幕等を掲示するとともに、主要大会プログラムに「環境ポスター」を掲載するなどして環境保全に努めていきたい。



(公社) 日本馬術連盟

1. 実施概要

子どもたちと一緒に取り組む「環境とスポーツのあり方」をスローガンに、継続的活動を積極的に行った。

2. 令和元年度事業活動

- 馬術競技大会時に環境啓発ポスター、バナーの掲示
- ジュニア競技大会時に子どもたちに対し環境活動の啓発
- 連盟機関誌「馬術情報」に、定期的に「世界に示す、クリーンジャパン」のJOCスポーツ環境専門部会ポスターを掲載。同様に全日本大会プログラムへも掲載し、環境への啓発活動を実施。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①馬術競技大会時に環境啓発ポスター、バナーの掲示
日本馬術連盟主催大会において、環境啓発ポスター及びバナーの掲示、環境パンフレットの配布を行い、啓発活動に努めた。また、ゴミの分別収集を徹底した。
- ②ジュニア競技大会に子どもたちに対し、環境活動の啓発
ジュニア選手に対し、競技大会前に環境パンフレットの配布を行い、大会役員から環境活動について説明を行った。

大会名(開催場所)	参加選手数
第40回全日本ヤング総合馬術大会(山梨県馬術競技場)	81名
第43回全日本ジュニア障害馬術大会(御殿場市馬術・スポーツセンター)	189名
第36回全日本ジュニア馬場馬術大会(御殿場市馬術・スポーツセンター)	94名
第40回全日本ジュニア総合馬術大会(山梨県馬術競技場)	44名

4. 全体的な成果と今後の課題

令和元年度は、引き続きジュニア選手たちを中心に啓発活動を行った。この活動を積極的に続けることにより、啓発から実践に繋がるものと考えている。今後も馬術競技大会を通じて、多くの方に環境に対する啓発活動を続けていきたい。

(公社) 日本フェンシング協会

1. 実施概要

大会時に全国の競技者、指導者等に対して環境保全の啓蒙運動を図り、環境活動に関する理解を深めた。全国レベルで積極的かつ継続的な活動を目標に取り組む。

2. 令和元年度事業活動

- 大会時に環境啓発ポスターを掲示



- 競技会における環境活動（会場内の見回り、安全管理、整理整頓、ゴミ分別収集等）
- 練習場の節電

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ① 2019年全日本選手権大会（令和元年9月19日～9月21日）にて環境ポスターを掲示して啓発を図るとともに、ペットボトル、缶、ビン、可燃・不燃ゴミの分別を行い、会場内のゴミ収集を実施した。
- ② JOC ジュニアオリンピックカップ・フェンシング選手権大会（令和2年1月9日～1月11日）において環境ポスターを掲示して啓発を図った。また、会場内で『周辺を清掃する。ゴミを出さない』等、アナウンスして注意喚起を促した。
- ③ 大会時、環境委員が体育館内や通路を見回り、自動販売機付近のペットボトルや缶等の片付け、会場内の整備を実施した。
- ④ 国立スポーツ科学センター及びナショナルトレーニングセンター・イーストフェンシング道場の練習時間外の節電を実施した。

4. 全体的な成果と今後の課題

大会でポスターを掲示し、会場内での呼びかけ、競技会時の見回り等を計画的に実施したことから、選手、関係者から環境啓発に多くの理解を得ることができた。今後も開催団体・主管団体と協力して、多くの方に積極的に啓発活動を拡げる努力をしていきたい。

（公財）全日本柔道連盟

1. 実施概要

令和元年度も主催大会を通して環境活動のポスター掲示を中心として継続的な活動推進を行った。

2. 令和元年度事業活動

- 主催大会における環境啓発ポスターの掲示。実施大会は次の通り
 - ・皇后盃全日本女子柔道選手権大会 2019年4月21日（日）会場／横浜文化体育館
 - ・講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 2019年11月2（土）・3日（日）会場／千葉ポートアリーナ
 - ・グラندスラム大阪2019 2019年11月22（金）～24日（日）会場／丸善インテックアリーナ大阪（大阪府）

3. 具体的な活動実施内容とその成果

主催大会にて環境啓発ポスター掲示を行い、来場者や関係者へ啓発活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

本連盟が主催する柔道大会の会場内においてポスターを掲出し啓発活動を行った。スポーツと環境が大きな関わりを持つことを一人でも多くの来場者や関係者にご理解を頂くためにこれからも継続的に活動を推進して行きたい。



3. 具体的な活動実施内容とその成果

①主催行事における環境啓発

本連盟主催行事にて環境啓発ポスターを掲示し啓発活動を行った。

本連盟主催行事において主催者挨拶の中で環境に関する内容を話した。

②主催行事における環境活動

ゴミの分別を徹底し、資源の再利用に努めた。

照明、空調の調整をこまめに行い、CO2削減について取り組んだ。

大会速報の配布を行わず掲示のみに留めて、紙の使用を削減した。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター掲示などの啓発活動により、役員・選手・観覧者等広く環境保全を促すことが出来た。特に令和元年度は本連盟最多参加者となる大会での啓発活動により全国各地の参加者へスポーツと環境意識の向上を促すことに繋がったと考えられる。参加者が地元で伝達することにより、啓発活動の更なる広がり期待できる。

これからも個々の意識を高め、実践活動に繋げていくことが必要だと考えている。

(公社) 日本ライフル射撃協会

1. 実施概要

日本ライフル射撃協会は、環境保全に関する活動の重要性を認識し、総務委員会を中心に環境保全を目的とする取組みと会員の環境意識の向上を図る活動を行っている。

2. 令和元年度事業活動

- 国体、全日本社会人選手権等の競技会、会議等での環境ポスター掲示
- 射撃場施設でのゴミの分別収集の徹底とゴミ持ち帰り運動の実施
- 競技後の使用銃弾（鉛弾）の回収と適切な処理作業
- 環境保全に関する内容を講習会等で実施
- オンラインファイル配布、メーリングリスト活用による紙の使用量を大幅に削減

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①競技会、会議等での環境ポスター掲示

全国加盟団体や関係団体に環境ポスターを配布するとともに茨城国体や全日本社会人選手権などの競技会で環境ポスターを掲示し、会員への啓発に努めた。

②射撃場施設でのゴミの分別収集の徹底とゴミ持ち帰り運動の実施

射撃場施設でのゴミ分別収集を徹底するとともにゴミを持ち帰ることにより施設から発生するゴミの減量化に努めた。

施設駐車場でのアイドリング禁止や施設内照明電力等の省エネを呼び掛け、施設利用者全員の協力で活動を展開した。

③競技後の使用銃弾（鉛弾）の回収と適切な処理作業

競技に使用する鉛弾の回収について、各射撃場において適切な処理を行った。

④オンラインファイル配布、メーリングリスト活用による紙の使用量を大幅に削減



前年度に引き続き、加盟団体等への通知、会議資料をWEB配信化して、紙の使用量を大幅に削減することが出来た。

4. 全体的な成果と今後の課題

競技会での環境に関する啓発を多くの機会をとらえて行うことにより、会員の意識の向上に成果が見られた。今後、競技会場や都道府県事務局等への環境ポスターの掲示をはじめ、機関誌や協会ウェブサイト上への環境に関する記事掲載、講習会及び研修会での環境教育のカリキュラムの導入等を引き続き実施する。

ゴミの分別収集の徹底とゴミの減量化はかなり進んでいると思われる。特に、使用銃弾（鉛弾）の回収と適正な処理は全国で適切に処理されている。

施設利用時の場内清掃の励行（クリーン運動）やゴミのポイ捨て禁止の徹底、ゴミの持ち帰り、場内駐車場での静かな運転とアイドリングの禁止、射撃場施設への緑化と花の栽培の推進及び施設管理上の省エネの実践、グリーン購入について、会員の理解と協力を得るなかで拡大する。

今後も地道な活動ではあるが、具体的な行動指針を示しつつ、身の周りのできることから実施する。

(公社) 日本近代五種協会

1. 実施概要

日本近代五種協会は各競技会（開催地）において、多くの参加選手とその家族ならびに大会関係者及び観戦者に環境保護について説明し協力依頼を行った。

2. 令和元年度事業活動（アピール啓発活動を行った競技会）

第1戦木曾大会	R1.6.16	長野県大桑村
第2戦千葉大会	R1.9.8	千葉県長生郡
第3戦立川大会	R1.9.22	東京都立川市
3種日本選手権大会兼JOCジュニアオリンピックカップ R1.11.23～24 東京都調布市		

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会での環境啓発ポスターの掲示

会場来場者に向けて、環境啓発に対する意識の高揚を図ることが出来たと感じる。

②大会終了後における清掃作業の実施

ゴミの分別や持ち帰りとりサイクルの呼びかけを実施した。環境保護に対する呼びかけに対して、多くの参加選手とその家族等関係者の理解と協力を得て、意識向上にも寄与出来たものとする。また、継続した活動に成果が見られることは大変喜ばしいものと感じる。

③競技会参加申込受付時における公共交通機関利用や車両相乗り等での来場を推奨

競技会参加者への協力を依頼するとともに、運営役員の移動及び行動にも同様の配慮をした。

④レーザーピストルの導入

本年度、協会で購入したレーザーピストルが数的に完備したため、導入することになった。小さな子供にも使用ができ、安全かつ環境にやさしい競技になったことが将来的にもありがたいことである。



4. 全体的な成果と今後の課題

当協会では更なる環境啓発及び改善を促すには、競技大会を通じて主催者が呼び掛けを行い、参加者も一体となって環境保全に繋げるという事を訴えることが必要であると考えます。

(公財) 日本ラグビーフットボール協会

1. 実施概要

日本ラグビーフットボール協会は、総務委員会への環境部門の設置より13年目を迎え、環境部門委員によるスポーツにおける環境活動への取り組みとして、『社会貢献活動の1つと位置付け、ラグビーを通じて環境保全に関する啓発・実践活動の推進を図る』ことをテーマとして各種事業を実施した。

2. 令和元年度事業活動

- 日本協会『環境保全活動推進宣言』に基づいた推進活動の展開
- 地球温暖化防止のための『Fun to Share キャンペーン』（環境省主管）サポーターメンバーとして環境保全活動への協力
- 協会内各委員会との連携・協力体制により環境PR活動推進
- 日本代表チーム、トップリーグとのコラボレーションによる相乗効果を図る
- TOKYO2020オリ・パラ（男・女7人制ラグビー競技）に向けての環境活動への取り組みを推進してゆく

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①広報活動（環境啓発PR）
広報委員会との連携によるホームページ、機関紙、大会プログラム、メンバー表等への掲出により関係者、ファンへの環境啓発運動を推進。
 - ・「FOR ALL, FOR EARTH」環境スローガン活用
- ②経済界協議会との合同によるトップリーグ及びワールドカップ日本大会試合会場にて競技会場の美化活動「KEEP THE STADIUM CLEAN」を実施。
- ③トップリーグ参加チームと日本協会による「TRY for GREEN プロジェクト」を継続展開。トライ数に応じ、網走市の森林保全活動に寄付。（2018-2019 総トライ数全963トライ分の寄付金、及びハードロックカフェとのコラボによるチャリティーグッズ販売の売上の一部を活動に役立てる）
- ④クール・ウォームビズ、エコ商品利用、試合開催時の公共交通の利用促進

4. 全体的な成果と今後の課題

【成果】

- ・トップリーグが中心となりラグビーにおける環境実践活動を前進させている。

【課題】

- ・TOKYO2020オリ・パラに向け、スポーツ界全体での環境実践活動を強力に推進していく必要が有る。
- ・コロナ収束後の環境変化に伴う活動方法に関する再検討。

FOR ALL, FOR EARTH.



(公社) 日本山岳・スポーツクライミング協会

1. 実施概要

当協会における環境保全に関する活動は、登山者がフィールドとしている山岳地域での自然環境保護活動を主体的とし、自然保護委員会を組織してスポーツ環境活動に取り組んでいる。

具体的には

- 1) 独自制度である「自然保護指導員制度」(現在 1200 名を超える登録) の普及
- 2) 自然保護委員総会(各都道府県に委員を 1 名配置) の開催
- 3) 環境省や日本を代表する山岳団体などとの連携した山岳自然保護活動
- 4) 山岳地域におけるゴミ持ち帰りやトイレマナーの向上などの推進
- 5) 各地における清掃登山や登山道の補修などの実践
- 6) 環境省自然公園指導員を推薦し、自然公園内の適正利用や安全指導の推進

令和元年度の特記する環境活動としては、「東日本大震災からのグリーン復興 次代につなげる山岳自然環境」をテーマに、山岳自然保護の集い全国集会(第 43 回自然保護委員総会)を令和元年 11 月 9 日～10 日に宮城県石巻市で開催し、全国から 96 名の委員が集まり、山岳環境について意見交流を行った。

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会では独自の制度として、「自然保護指導員制度」を運営している。この制度は、登山をとおして、日本の素晴らしい山岳自然を後世に引き継いでいくよう、全国各地の加盟団体から 1200 名余の登録を受けて、登山者マナーを広く呼び掛け、自然環境の保護に向けた活動を推進している。また、この指導員制度のさらなる拡大展開を進めるべく、全国に情報発信をしている。

◆ 登山者マナー

1. 自然を大切に
この恵み多い自然を、末永く後世に伝えるため、自然と友達のように接し大切にする。
2. 水資源を大切に
水は山からの恵みであり、あらゆる生命の源であるから、水源を汚さない
3. テイクイン・テイクアウト
山に持ち込んだものは必ず持ち帰る。山にはゴミを残さない。
4. トイレマナーを守る
登山口で用を済ませて、携帯トイレの使用を習慣付ける。山岳トイレでは利用ルールを守る。使用済みペーパーなどトイレゴミの持ち帰りを呼び掛け。
5. ローインパクトに心がける
自然環境への負荷を抑える。移入植物の侵入への配慮(靴の泥に混入)。ストックにゴムキャップ装着。
6. 食糧や残飯の適切な管理を心がける。
野生動物への配慮(餌やり防止、残飯投棄防止、キャンプ食糧の管理)。



(公社) 日本カヌー連盟

1. 実施概要

本連盟では環境保全並びに大会会場の美化推進の重要性の観点に基づき、とりわけ水辺環境について「クリーンウォーター」運動を継続的に実施している。令和元年度においては本連盟加盟団体および協賛企業や関連自治体と協働して展開した。

2. 令和元年度事業活動

すべての主催競技会における啓発活動を実施し、清掃活動等を実施した。スラローム大会ジャパンカップ全7会場においては協賛企業とタイアップし観戦来場者を含むすべての参加者に呼びかけイベントとしても実践した。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①競技会実施前に環境点検を主管団体と共同して実施し「来た時よりも美しく」を実践した。
- ②危険箇所回避、瑕疵については排除し、会場設営に着手した。
- ③水質については事前の公認検査の項目に照らし、汚濁・悪化防止に配慮した。
- ④監督会議、開会式において必ず環境保全についてその重要性を発信した。
- ⑤原則、ごみは持ち帰りとし、やむを得ず会場処理する場合は自治体や宿泊業者とタイアップし処理体制を整備した。
- ⑥会場内のゴミ拾い等は大会日程に合わせて一斉もしくは参加団体ごとに実施した。
- ⑦会場内放送で定期的に環境保全・美化推進を実施し、会場内にポスターを掲示し啓発した。スラローム会場においては横断幕、のぼり、ブルゾン、トンガ、軍手などを準備しイベント化を図る取り組みも実践した。

4. 全体的な成果と今後の課題

啓発活動はおおむね浸透している。また、「クリーンウォーター」運動は長年本連盟の重要スローガンであり定着している。カヌー競技場の設置により以前より水辺の環境が整備され、かつ水質が格段に改善され周辺住民に歓迎され公園化されているところも出てきており、カヌー競技場設置が契機となり自然と寄り添うこうした事例を全国にさらに広めたい。

今後の課題は、本連盟傘下ではない一般カヌー愛好者への啓発活動が急務である。レクリエーションとして普及することは大いに歓迎であるが、マナー欠如による環境汚濁については当該地域の加盟団体および自治体と協調して対応したい。



(公社) 全日本アーチェリー連盟

1. 実施概要

加盟団体含めて連盟が一体となって環境活動を具体的に明示して継続的に取り組むべく全国に発信した。

2. 令和元年度事業活動

- 環境宣言を用いて広報活動
- 本連盟主催大会にて環境の啓発活動
- 本連盟からの加盟団体宛発信

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- 環境宣言を HP に掲載。
- 環境月間を制定して加盟団体宛にメール発信して取り組みを促した。
- 加盟団体宛の文章発信等はメール発信にする。
- 具体的な環境の取り組みを例示して実践を促した。
- 本連盟主催大会のパンフレットに環境宣言を掲載しポスター、バナーを掲示し、ごみの分別も行った。紙ベースの速報の掲示を廃止し、スマホにて読み取れるようにし、結果も HP に終了後速やかに掲載して配布をやめた。
- 本連盟主催大会のゼッケン用安全ピンを選手自身で持参するようにして毎回 400 以上の安全ピンの準備を無くした。
- ブロック別指導者講習会において指導者に対して環境の取り組みを紹介して加盟団体においても実践できるようお願いをした。

4. 全体的な成果と今後の課題

昨年度は環境についての啓発活動を実施したことで意識を付けることはできたが、今後は加盟団体においても全員参加型の環境の取り組みができるように啓発から実践できる体制強化を図りたい。

(公財) 全日本空手道連盟

1. 実施概要

昨年度に引き続き、日本空手道会館内の節電や、その他会館内外で環境保全に関する取り組みを行った。

2. 令和元年度事業活動

- 徹底した節電
- 大会や講習会等におけるゴミ分別収集徹底の呼びかけ



3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①日中は廊下の電気を一部消した。また、エレベーター、エアコンのスイッチの近くに掲示物を張り、日本空手道会館を利用するすべての方に節電への意識付けを行った。また、職員は日常の業務においても、夏は窓を開け放ちエアコンの使用を控え、冬は暖房の温度を控えめに設定し、上着を着たりひざかけを使用したりして、節電に努めた。
- ②大会会場や、日本空手道会館を利用するすべての団体に対しゴミの分別を呼び掛けた。

4. 全体的な成果と今後の課題

当連盟では継続して徹底した節電を行っている。本館を使用する団体の中には、エレベーターの使用を控えることはもちろん、真夏にもかかわらず冷房を使用せず窓の換気のみで対応するという、協力的な団体も見られるようになってきている。今後も節電に対する取り組みを継続していく。また、掲示物を利用した呼び掛けは効果があり、講習会参加者は自発的にごみの分別を行う姿が見られるようになった。

(公社) 全日本銃剣道連盟

1. 実施概要

環境保全活動の重要性を認識し、当連盟主催の各種大会・講習会において、参加者に対し積極的な啓発活動を行った。

2. 令和元年度事業活動

- 大会会場に環境啓発ポスターを掲示
- 大会プログラムに環境啓発ポスターを掲載
- 照明、空調等の調整による節電

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会会場に環境啓発ポスターを掲示し、選手や関係者に対し啓発活動を行った。
- ②事務室や道場の電気、空調をこまめに管理し、使用していない電化製品のプラグは抜く等、節電に努めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全の重要性を幅広くPRすることができ、選手や関係者の意識も向上してきている。今後もこの活動を継続して行い、環境保全に貢献できるよう努めていきたい。



(公財) 全日本なぎなた連盟

1. 実施概要

公益財団法人全日本なぎなた連盟では、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）と連携して、異常気象や地球温暖化に危機感を持ち、スポーツを楽しめる環境を子どもたちに残すために、環境保全の啓発活動に取り組んだ。

2. 令和元年度事業活動

- 大会開催時に環境啓発ポスターの掲示
- 大会会場におけるゴミ分別回収の実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①第19回全日本男子なぎなた選手権大会会場等において環境啓発ポスターの掲示
その他大会会場において環境啓発ポスターを掲示して「ごみを減らそう。持ち帰ろう」等の呼びかけを徹底した。
- ②各種研修会等における環境活動
各種研修会等においてゴミの分別とゴミの持ち帰りを呼びかけ、徹底を促した。
- ③事務局においては、電気使用量の削減に努めている。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスターの掲示による啓蒙活動により、役員・選手・観覧者の多くに、環境保全を促すことができた。環境保護意識も高まってきているが、今後更に、環境活動を継続して取り組むことが重要であると考えている。

(公財) 全日本ボウリング協会

1. 実施概要

令和元年度のスポーツと環境保全への啓発活動は、協会総務委員会の普及・広報部会が担当し実施した。「施設を大事にすることが、自分の最高のプレーを引き出す」というテーマのもと、具体策としての大会における活動は競技委員会の協力のもと実施した。

2. 令和元年度事業活動

- 各種イベントにおける環境啓発ポスター掲示
- 環境保全のためのルール、マナー等周知徹底と指導
- 大会成績のデータ活用による効率化と印刷コスト・資源使用の抑制

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①各種事業における啓発・指導
協会主催大会、理事会・評議員会、審判員資格認定会等において、環境啓発ポスターを提示した。



特に JOC ジュニアオリンピックカップ第 43 回全日本高校ボウリング選手権大会では、プログラム冊子に環境啓発ポスターデザインを掲載し、男女優勝者によるポスター披露を実施した。また年間を通じて、協会主催大会の「監督会議」や「選手ミーティング」において、競技環境保護に関することや、ルール、マナーの遵守について注意喚起を行った。大会中は場内アナウンスで使用後の競技エリア美化についてなど注意喚起した。

②データ活用による効率化と印刷コスト・資源使用の抑制

協会主催大会では、SNS および Web で詳細な成績データを公開することで、紙による配布を抑制した。また最終成績のデータ（メール）での提供や、複写式スコアシートの使用量削減も推進し、印刷コストや用紙使用量の削減につながった。

③協会事務局における業務効率化と意識改革

7月に協会事務局を Japan Sport Olympic Square 内に移転した際、紙媒体資料のデータ化と情報管理体制の再構築を実施した。各都道府県連盟への連絡も基本的にメールで行うことで、紙資源の抑制と輸送コストの削減、業務効率化が達成できた。

4. 全体的な成果と今後の課題

ここ数年、宅配輸送業者の業務量増加がニュースとなっているが、ボウリングでは大会の際ボールを複数個持参（輸送）する必要があるため、選手にとって制約と負担が大きい状況となってきた。パフォーマンスを下げることなく持参個数を減らせるよう、事前の競技情報開示を積極的に実施している。

また年度末に新型コロナウイルス感染症が拡大したことにより、「競技を実施する場合の感染防止策」として何が必要か（有効か）を考えさせられた。今回の事態が収束したとしても、今後の競技実施および選手派遣において、常に予防を念頭におく必要があるように考える。スポーツの発展が阻害されることのないよう、対策を練っていきたい。

（一財）全日本野球協会

1. 実施概要

スポーツ団体として環境活動の重要性を認識し、総務委員会環境部会から各加盟団体に情報発信し、野球界全体における啓発活動に取り組んでいる。

特に野球で使用する木製バットは自然の恵みであり、自然環境の保全は野球界のメインテーマとなっている。北海道において植栽環境保全に貢献しながら、バット材として世界一と言われているアオダモの“バットの森”を育てる取組みを展開した。

2. 令和元年度事業活動

- 各加盟団体主催行事における環境ポスターの掲示
- 各加盟団体主催行事における地球温暖化対策メッセージの放映
- バット材（アオダモ）の植樹活動
- 競技場〔球場〕美化活動として経済界協議会と提携し都市対抗野球大会（東京ドーム）や日本選手権大会（京セラドーム大阪）でゴミ袋を 6000 人に配布しゴミを出さない活動を展開
- 同上、東京ドームと京セラドーム大阪にて経済界協議会とタイアップし、カーボンオフセットを実施



3. 具体的な活動実施内容とその成果

①主要行事における環境啓発ポスター等の掲示

- 7月ー第90回都市対抗野球大会 東京ドーム
- 8月ー第101回全国高等学校野球選手権大会 阪神甲子園球場
- 11月ー第45回社会人野球日本選手権 京セラドーム大阪
- 1月ー2019年度野球指導者講習会 オリピック記念青少年総合センター
- 通年 社会人野球並びに学生野球の各地方大会 各地主要球場

②主催行事における地球温暖化対策ビデオメッセージの放映

- 7月ー第90回都市対抗野球大会 東京ドーム（東京ガスによるカーボン・オフセット実施協力）
- 8月ー第101回全国高等学校野球選手権大会 阪神甲子園球場（侍ジャパン 稲葉篤紀監督）
- 11月ー第45回社会人野球日本選手権 京セラドーム大阪（環境省クールチョイス）

③バット材（アオダモ）の植樹活動（4回）

- 日時：令和元年7月13日（土） 午前10時00分～11時30分
場所：北海道 苫小牧 国有林 1283 林班は小班
参加者：本間 満氏（元福岡ソフトバンクホークス）、北海道苫小牧南高校野球部員、苫小牧スポーツ少年団野球チーム（苫小牧新生台イーグルス野球少年団）の選手、林野庁北海道森林管理局、北海道庁、地元ボランティア、一般、報道関係者及びアオダモ資源育成の会関係者
以上 総勢123名
植樹本数：200本（鹿対策との同時並行作業）
- 日時：令和元年8月5日（月） 午前10時00分～11時30分
場所：北海道 栗山町 栗の樹ファーム
参加者：栗山英樹監督（北海道日本ハムファイターズ）、地元ボランティア（栗山町ロータリークラブ）、栗山ロッキーズ、継立ロビンス、一般、報道関係者及びアオダモ資源育成の会関係者
以上 146名
植樹本数：100本（シカ対策との同時併行作業）
- 日時：令和元年9月28日（土） 午前10時00分～11時30分
場所：北海道 由仁町 道有林 119 林班41 小班
参加者：札幌学院大学硬式野球部、北海道千歳高校野球部員、林野庁北海道森林管理局、北海道庁、地元ボランティア、一般、報道関係者及びアオダモ資源育成の会関係者
以上 総勢126名
植樹本数：300本
- 日時：令和元年10月12日（土） 午前10時00分～11時30分
場所：北海道 新冠 国有林 2130 林班と小班
参加者：北海道鶴川高校野球部、林野庁北海道森林管理局、北海道庁、地元ボランティア、一般及びアオダモ資源育成の会関係者
以上 88名
植樹本数：500本（シカ対策との同時併行作業）

<アオダモ苗木提供>

令和元年5月11日（土）

場所：北海道 えりも町（えりも支部行事）

参加者：NPO 法人北海道に森を創る会



植樹本数：200本

4. 全体的な成果と今後の課題

野球界はスポーツと環境が大きな係りを持つことを以前から考え啓蒙し、実践してきた。植樹活動を推進している「NPO 法人アオダモ育成の会」も設立から17年を経過している。今後も変わることなく環境保全に努めていきたい。

(公社) 日本武術太極拳連盟

1. 実施概要

スポーツ団体として、良い環境の下でなければスポーツを楽しむことはできないことを認識し、スポーツと環境ポスターにもある『来たときよりもキレイに!』を目標として活動を行った。団体関係者、選手だけでなく、イベント来場者などにも呼びかけを行い、スポーツ活動を通じて、地域環境や各地の会場の保全に努めたい。

2. 令和元年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスターの掲示、大会パンフレットへの環境ポスターの掲載
- 日本連盟トレーニングセンターに環境啓発ポスターの掲示
- 大会時ゴミの持ち帰りのアナウンス

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会時環境啓発ポスターの掲示、大会パンフレットへの環境ポスター掲載
本連盟主催大会にて、会場内に環境啓発ポスターを掲示し、啓発活動を行った。また、大会パンフレットに環境ポスターを掲載し、来場者への啓発活動も行った。
- ②その他のポスターの掲示
競技者、検定試験受験者、講習会参加者など多くの来場者を迎える日本連盟トレーニングセンターにて、環境啓発ポスターを掲示し、啓発活動を行った。
- ③大会時ゴミ持ち帰りのアナウンス
選手の活動が観客や会場の方の厚意に支えられているという考えから、本連盟では大会時のゴミ持ち帰りを前提としている。毎大会でアナウンスを行い、ゴミの持ち帰りを呼び掛けている。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスターの掲示、パンフレットの配布、大会時のアナウンスなどを通して、選手をはじめ多くの関係者に環境保全活動についての理解を得ることができた。今後も活動を継続するとともに、ポスター掲示場所の拡大や、より実践的な活動にも取り組んでいきたい。
また、武術太極拳は競技者年齢が幼児から高齢者まで幅広く親しまれている。このような多世代交流型スポーツとして、将来世代への責任を自覚し、一人でも多くの方に環境保全の重要性について理解、共感してもらえるよう、啓発・実践活動に努めたい。



(公社) 日本カーリング協会

1. 実施概要

全国のカーリング専用ホールへ環境啓発ポスターの掲示を行うとともに、主要大会では環境啓発横断幕を掲出し、委員会メンバー・選手・運営スタッフが共同で環境保全活動に対する意識の向上を積極的に図ることを目指し活動した。

2. 令和元年度事業活動

- カーリング施設への環境啓発ポスター掲示
- 主要大会におけるスタッフ・選手への環境保全活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①主要大会における大会参加者・スタッフによる環境保全活動
 - ・どうぎんカーリングスタジアム（北海道）
 - ・軽井沢アイスパーク（長野県）
 - ・カーリングホール御代田（長野県）
 - ・みちぎんドリームスタジアム（青森県）
 - ・アドヴィックス常呂カーリングホール（北海道）
 - ・妹背牛町カーリングホール（北海道）
 - ・北海道立サンピラーパークカーリング場（北海道）等
- ②下記大会において環境横断幕を掲出し、大会参加者、スタッフを含めゴミの分別回収を徹底し、環境への意識の向上を図った。

【実施主催大会】

- ・第28回日本ジュニアカーリング選手権大会
令和元年11月5日～10日 妹背牛町カーリングホール
- ・第10回全日本大学対抗カーリング選手権大会
令和元年11月29日～12月1日 どうぎんカーリングスタジアム
- ・第37回日本カーリング選手権大会
令和2年2月8日～16日 軽井沢アイスパーク
- ・第13回日本ミックスダブルスカーリング選手権
令和2年2月25日～3月1日 どうぎんカーリングスタジアム
- ・第17回日本シニアカーリング選手権大会（中止）
令和2年3月5日～8日 アドヴィックス常呂カーリングホール

4. 全体的な成果と今後の課題

できることからということで環境ポスターの掲示・横断幕を掲出するなどの具体的な活動から始めたが、環境への意識は地道に浸透してきていると思う。今後は、大会パンフレット等紙ベースの削減を呼びかけるなど具体的な活動を増やして、さらに環境啓発をしていく必要があると考えている。



(公社) 日本トライアスロン連合

1. 実施概要

トライアスロン愛好者が競技環境を保全することで、スポーツを通じた持続的な地球環境の保護につながることを認識を持つことを目的とする。

- ①「グリーントライアスロン (Green Triathlon)」(※1) をスローガンとする環境保全活動の実施
- ②カーボンオフセットの取組の拡大 (横浜シーサイド大会から世界シリーズ横浜大会へ)
- ③港区・お台場海浜公園の環境保全

※1「グリーントライアスロン」とは、国際トライアスロン連合 (ITU) と日本トライアスロン連合 (JTU) が共同で取り組む、「トライアスロン」を通じて行う環境活動。主にスタッフ・選手・スポンサー・来場者を対象とし、①リデュース (減らす)、②リユース (再利用)、③リサイクル (再資源化) の3つをテーマとして環境保全活動を大会主催者と連携して実施。

2. 令和元年度事業活動

- グリーントライアスロン (Green Triathlon) in 横浜 [2019年4月20日 (土) 山下公園]
- カーボンオフセットの取組 [2019年5月18日 (土)・19日 (日) 山下公園特設会場 / 2019年9月29日 (日) 横浜・八景島シーパラダイス]
- お台場海浜公園の環境保全
 - 東京ベイクリーンアップ大作戦 [2019年6月1日 (土) お台場海浜公園]
 - お台場プラーージュ [2019年8月10日 (土) ~ 18日 (日) お台場海浜公園]
 - お台場海浜公園・水質改善実証実験 [2019年10月4日 (土) お台場海浜公園]

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①グリーントライアスロン (Green Triathlon) in 横浜

大会開催1カ月前大会会場となる山下公園にて、スタッフ、協賛社、一般来場者の協力のもと環境保全活動を実施。主な活動内容は、スイムコースの山下公園前面海域の海底清掃や会場内清掃、海中実況中継、スイムコース試泳など。
- ②横浜大会におけるカーボンオフセットの取組

世界トライアスロンシリーズ横浜大会および横浜シーサイドトライアスロン大会にて、横浜市との協働による地球温暖化対策「横浜ブルーカーボン事業」を実施。大会参加選手からの環境協力金を活用し、横浜市漁業協同組合のご協力のもと、参加者のレースの完走を願って「完走 (乾燥) わかめ」を配布し、0.4t-CO₂ 分削減。本事業による寄附金は、CO₂ 削減を目的にわかめの地産地消や水質浄化、海の環境改善支援等に充当される。
- ③お台場海浜公園の環境保全

第32回オリンピック競技大会 (2020 / 東京) では、港区・お台場がトライアスロンの競技会場になることから、トライアスロン競技を通じた連携協力に関する基本協定を港区、港区体育協会、東京都トライアスロン連合、港区トライアスロン連合と締結。競技の普及をはじめ、会場のお台場海浜公園の保全活動の推進を行った。

東京ベイクリーンアップ大作戦では「東京港を泳げる海に！」をスローガンに6月に実施し、地球環境の保全と泳げる海をめざして、お台場海浜公園でクリーンアップキャンペーンを実施。また、「泳げる海、お台場」の気運醸成を図るため海水浴イベント「お台場プラーージュ」でも加盟団体を



通じ協力を実施。周知・広報に努めた。

また、日本トライアスロン選手権（2019年10月）の開催に合わせ、圧縮した海水に空気を混ぜて噴射するナノテクノロジー（超微細技術）の機器を用い、水を酸化させて大腸菌や悪臭などを浄化させる水質実証実験を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

2018年度にアジアオリンピック評議会(OCA/Olympic Council of Asia)が新たに創設した「スポーツと環境賞」において、「世界トライアスロンシリーズ横浜大会」の環境活動の取組が評価され「スポーツと環境賞」を受賞するなど、横浜でのトライアスロン事業を中心とした環境活動の取り組みを継続して推進していく。

また、第32回オリンピック競技大会（2020/東京）の会場であるお台場海浜公園の環境保全活動においても、東京都、大会組織委員会、港区等とも連携を行い環境保全と周知活動を行った。特に中央競技団体の主導で行ったナノバブルを活用した水質改善の実証実験は多くのメディアでも報道をされるなど、スポーツを軸とした環境改善への取り組み姿勢を周知することができた。

トライアスロン競技は自然界を競技会場とし、スイム会場・トランジションエリア、観戦スタンド、フィニッシュガントレーなどビーチ、公園等に競技会場が設営される。JOC環境のスローガン「来たときよりキレイに」にもあるように、自然を会場として利用する競技としての意識を各大会に強く周知させることが必要である。今後も継続して海底清掃や周辺の清掃活動を全国すべての大会会場で実施できるよう推進していく。

また、持続可能性(SDGs)の検証として、ワールドトライアスロン(国際トライアスロン連合)と共に、トライアスロン競技に関わるすべての領域における持続可能性への変革をスタートさせる。

(公財) 日本ゴルフ協会

1. 実施概要

大会出場選手、関係者に対する当協会として取り組める環境活動の重要性を認識させるために「リユース、リデュース、リサイクル、分別」に関する啓発活動、継続的な活動を行った。

2. 令和元年度事業活動

- 競技会場における環境ポスターの掲出及び大会プログラムへの環境ポスターの掲出を実施し、ギャラリー、選手、関係者への環境に対する意識醸成を図った。
- 競技会場におけるゴミの分別を行った。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

当協会主催の大会で環境啓発ポスターの掲出、大会プログラムへの掲載により、より多くの人に関心を持ってもらい成果があった。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスターの掲出などの啓発活動を行ってきた成果があり、選手、関係者に環境啓発の知識や理解を得る事が出来た。

今後は、大会に校外学習として開催地元の小学校の生徒が観戦に来る取組みを行っているので、そ



の機会にスポーツを通じた環境活動についても校外学習の一環として取組みを紹介する様に努めた
い。

(公社) 日本スカッシュ協会

1. 実施概要

今年も、昨年のキャンペーンを継続して行った。コートを保有するクラブ利用時の心構え「来たときよりもキレイに！」実践など、全てのライフスタイルに環境意識を取り込むように促し、生活の基本となるように取り組んだ。また、全国の地区支部への浸透を深めるために会議等でも説明を行った。

2. 令和元年度事業活動

- 大会開催時に会場に応じたエコキャンペーンの実施（マイカップ・靴袋リユース）
- 大会会場に JOC 制作の環境啓発ポスターを掲示
- 大会表彰式において環境啓発のスピーチをいれる
- 協会公式サイトで啓発
- 2020 年度に向け、さらに地球温暖化防止とスポーツの取り組みとして、大会プログラムへ環境ポスターを掲示する予定で準備中

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会開催時の実施状況

当協会主催の大会や支部大会で JOC 啓発ポスターを会場に掲示。

協会公式機関誌に環境ポスターを掲載した。

協会及び支部大会をはじめ草大会にいたるまでゴミの分別を実施している。

4. 全体的な成果と今後の課題

引き続き JOC の啓発ポスターで環境に配慮した活動をアピールする。また、改めてスポーツ団体として環境問題に取り組む必要性を全体会議で啓蒙し、実践していく。

新型コロナウイルス感染防止の為に、全日本ジュニアスカッシュ選手権大会や東北オープンスカッシュ大会を始め 8 大会が中止になってしまい大変残念である。一日も早く収束して、スカッシュが楽しめる環境が戻ってくることを願っている。

(公社) 日本ビリヤード協会

1. 実施概要

室内競技であることを前提に、環境美化に対する意識を高めてもらえるよう、環境ポスターを利用した啓発活動を行う。同時に、全ての愛好者による自発的な協力が得られることを目標に、選手・関係者による積極的な美化活動実践に継続的な取り組みを行う。



2. 令和元年度事業活動

- 大会会場でのポスター掲示
- 国内・国外での選手・関係者による清掃活動の実践

3. 具体的な活動実施内容とその成果

海外でも若い世代を中心に環境保全に対する意識が高まっている。ジュニア世代の海外遠征時には大会終了時に選手・関係者が積極的に清掃活動を実践し、環境美化に対する啓発を全世代に発信することができたと考える。

国内に於いては、会場の清掃活動を笑顔で厭わずに実践できるように競技者自らが姿勢を示すことで、今後の環境の保全・改善に対する一助になっていると期待する。

4. 全体的な成果と今後の課題

室内競技であるビリヤードは湿度温度管理が必須であり、根本的に屋外自然環境に貢献できる要素が少なく、愛好者の意識も地球の環境改善には向き難い。屋内環境美化のみならず屋外自然環境に貢献できる取り組みを模索する必要がある、今後の課題である。また、競技の普及は店舗の経営努力に委ねている現状にあり、自然環境に対する優しさは経営コスト削減と相反することが多く、この矛盾を解消する施策が将来的に必要となるであろう。

(公社) 日本ボディビル・フィットネス連盟

1. 実施概要

役員が中心となり全国の公認クラブ、選手、大会観客、関係者等の方々に環境問題の啓発活動を進め、環境保全意識の浸透と高揚を図っている。

2. 令和元年度事業活動

- 事業局での書類を削減
- 競技会等における環境美化活動
- 大会プログラム・デジタルサイネージに啓発資料の掲載
- 大会・講習会会場での広報活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①事業局での書類を削減
選手、審査員、指導員等の登録管理データベース化により書類を削減
- ②競技会等における環境美化活動
年間約 50 回開催される大会会場でゴミ箱撤去、或いは分別化
- ③大会プログラム・デジタルサイネージに啓発資料の掲出
環境ポスターを掲出
- ④大会・講習会会場での環境啓発活動
環境標語横断幕（バナー）、ポスター掲示等による環境啓発活動



4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、バナーの掲示、プログラムへの掲載などの啓発活動を継続することで、役員、選手、観客等への環境活動意識が浸透してきている。

「来たときよりもキレイに！」をスローガンに役員が一丸となり、環境問題に積極的に取り組む。

(公社) 日本ダンススポーツ連盟

1. 実施概要

2019年1月から12月までに当連盟（JDSF）が公認して開催されたダンススポーツ競技会は251回で、これらの大会ではゴミの分別・持ち帰りを啓発するとともに、実践を促した。また、主な主催競技会で環境横断幕やポスターを掲示したほか、指導員研修会において、スポーツと環境活動の関連および重要性について訴えた。

2. 令和元年度事業活動

- JDSF 及び加盟団体主催の競技会での環境横断幕の掲出
- JDSF 事務所会議室への環境啓発ポスター掲示
- 競技会等における環境活動
- 事務所における環境活動
- 指導員研修会における環境活動の啓発

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発横断幕等の掲示

JDSF 主催の競技会においては、従来の三笠宮杯及び東京オープン競技会に加え、北海道、仙台、静岡、大阪、大分で開催されたダンススポーツグランプリ及び茨城で開催された全国都道府県対抗ダンススポーツ大会、ジュニアダンススポーツカップのほか、当連盟主催の競技会において、JDSF ロゴマークをも配した JOC 環境横断幕を掲出し、環境保全の必要性和運動の意義について訴えた。

②事務所会議室への環境啓発ポスターの掲示

来客があった場合等に JOC の環境保全活動について説明し、理解を求めた。

③各部会・委員会開催時資料コピーの縮減

各部、委員会が月1回程度開催する会議資料のコピー量ができるだけ少なくなるよう、コピー方法やコピー枚数を縮減するよう協力を求めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

大会時のゴミ分別は、引き続き多くの会場で実践しており、主催者及び会員の環境保全に対する意識向上はかなり定着してきた。今後とも、JDSF 及び加盟団体の各イベントにおいて、JOC ポスターの張り出しや環境横断幕の掲示などを行い、環境保全の重要性を訴えていきたい。全国各地で開催する指導員研修会においてもさらに啓発していきたい。

また、業務執行理事会議案書のペーパーレス化を参考にしながら、事務所や大会開催時での紙使用及びコピー数の削減の必要性をこれまで以上に訴えていきたい。



(一社) 日本バイアスロン連盟

1. 実施概要

連盟は、環境活動の重要性を認識し、継続的活動を積極的に行った。

2. 令和元年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
- 競技会等における環境活動と清掃活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示

本会主催大会にて環境啓発ポスター、バナー掲示、環境パンフレットの配布を行い、啓発活動を行った。

②競技会等における環境活動と清掃活動

東日本選手権大会においては、前後に参加者と一緒になって会場周辺地域の清掃活動を行った。さらに、札幌市等の自治体の行ったイベントを通じて、前後に参加者と一緒になって会場周辺地域の清掃活動を行った。

また、札幌市、虻田郡倶知安町で開催したミニバイアスロン競技大会及び小・中学生を対象としたバイアスロンジュニア育成講習会を実施し、その中で、参加者に環境とスポーツの関わりや、環境保全・啓発活動の重要性を訴えるとともに周辺地域の清掃活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

競技会場内へのポスター、バナーの掲示など啓発活動を行ってきた成果が徐々に実り、選手を初め多くの関係者に環境啓発の知識や、理解を得ることができた。

今後も、競技者、啓発活動から実践活動へ意識を変え、より具体的な活動を行っていく。スポーツと環境が大きな係りを持つことを一人でも多くの方に理解してもらえようこれからも積極的に環境保全に努めていきたい。

なお、残念なことに1月以降については、新型コロナウイルスの発生に伴い、WHO＝世界保健機関による「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」宣言および日本政府が当該感染症を「指定感染症」とする政令について施行日を2月1日に前倒しする方針を示したこと、北海道及び関係市町村のイベント開催自粛を発表したことを受け、参加選手及び大会関係者の健康と安全を最優先に考慮し、各種大会事業及び講習会開催事業すべてを中止した。早めの各種事業の中止決定により参加選手及び大会関係者への被害発生を防止することが出来た。



(一社) 日本サーフィン連盟

1. 実施概要

各支部が中心となり「NSA SURFERS BEACH CLEAN ACT2019」を開催し、ゴミのないビーチ、ゴミを捨てないビーチを働きかけ、全国一斉ビーチクリーンを開催した。

次の時代を担う、これから生まれてくる子ども達にも思いっきりサーフィンを楽しんでもらうために「サーファーはこの海を守る！キレイな海は私達が守る！」そうした気持ちを込めて活動をしている。

2. 令和元年度事業活動

●ビーチクリーン

令和元年9月8日(日)、16日(月・祝)に全国一斉ビーチクリーンを実施。

●広報活動

- ・日本サーフィン連盟オフィシャルHPに活動実績報告掲載
- ・全国のサーフショップへフライヤー、ポスター配布

3. 具体的な活動実施内容とその成果

主催：一般社団法人日本サーフィン連盟

協力：日本サーフィン連盟 70支部

実施場所：全国サーフポイント 約70カ所

参加人数：約4,200名

令和元年、13回目(13年連続)で行い、サーファーだけではなく、地域の方々にも賛同・参加いただき、環境保全の大切さを呼びかけ清掃活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

全国一斉ビーチクリーンは令和元年で13回目を迎え、協力してくれる方々も増えてきた。

当年度は約4,200名が全国各地でビーチクリーンに参加した。多くの方々、企業、行政と手を組み、10,000名の参加者を目指し、サーファーだけでなくすべての人に海の清掃を日ごろから心がけてもらえるように努めていきたい。

(一社) 日本カバディ協会

1. 実施概要

一般社団法人日本カバディ協会では、平成19年4月に環境委員会を設置以来、スポーツ団体が取り組める環境活動の重要性を認識し、継続的活動を積極的に行った。これからも引き続き、団体だけの活動に止まらず、より積極的な活動を全国に展開できるよう、地方支部を含め組織を強化していく。

2. 令和元年度事業活動

- 国内大会(全日本選手権大会、東日本大会、西日本大会、チャレンジカップ、学生大会、他)での



環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布

- 競技会等における環境活動
- 事務局における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会での環境啓発ポスター、バナーの掲示、パンフレットの配布

当協会が主催した国内大会（全日本選手権大会、東日本大会、チャレンジカップ、他）、後援した国内大会（西日本大会、学生大会）にて環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布を行い、啓発活動を行った。

②環境実践活動

競技会・イベントでは、ゴミの分別、持ち帰りの徹底、冷暖房の電源には触れない等の環境保護の呼びかけを行い、大会プログラムに注意事項記載した。また、式典でのアナウンスを併せて行い、環境保全・啓発活動の重要性を訴えた。また日常業務で、ペーパーレス化推進の為、文書データは郵送やFAXでの送受信を避け、Eメールによる連絡事項のやり取りを極力行った。コピー、FAX用紙の両面使用を徹底し、ゴミの削減、資源節約に努めた。また、事務所を出るときは電源を抜くなどのエネルギー、コスト削減にも心がけている。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布など長い間続けてきた啓発活動により、選手や関係者に環境啓発への理解を得ることができた。また、大会の会場では、自主的にゴミの分別を行う選手が多く見られた。今後は、より実践的な活動を行い、スポーツと環境について理解を深めていきたい。

カバディは、ほとんど道具を必要としないエコなスポーツといえる。今後環境問題への意識づけをより一層行い、積極的に環境保全に貢献していきたい。また、地方支部に呼びかけ、全国規模で展開していけるよう、より一層の環境保全に努めていきたい。

(一社) 日本セパタクロー協会

1. 実施概要

日本代表選手や協会主催の国内大会を通じて、環境保全のメッセージを伝え、競技会場にスポーツと環境に関するポスターを掲示するなど環境啓発活動を推進する。

2. 令和元年度事業活動

- 協会主催の大会会場にて環境啓発ポスターの掲示
- 競技会等における環境活動
- 事務所における環境保全

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会パンフレットへの環境啓発ポスターの掲載

本会主催大会の大会パンフレットに環境啓発ポスターを掲示し、啓発活動を行った。

②大会会場への環境啓発ポスター掲示

本会主催大会において環境啓発ポスターの掲示を行い、啓発活動を行った。



③競技会等における環境活動

選手及び来場者へのゴミの削減・分別・持ち帰り等の環境保護の呼びかけを行った。

④事務所における環境保全

ペーパーレス化の推進で、紙の無駄遣い等をなくしてゴミの削減、クールビズ等で冷暖房などのエネルギー（電気等）節約など、環境保全に努めた。

大会会場でのゴミ処理は多くの施設で有料ということもあり、ゴミを協会で持ち帰っているが、全体のゴミの処理量が減っていること、また分別がキチンとされているのでゴミ処理がしやすいことを成果として感じる。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境ポスター等の啓発活動により、選手や関係者の理解を得ることが出来ている。また、大会会場ではゴミの持ち帰りや分別が図られるようになって来ている。地方大会においても啓発活動に注力し、全国規模でより一層の環境啓発および環境保全に努めていきたい。

(公社) 日本アメリカンフットボール協会

1. 実施概要

選手自らがスタジアムの所在する地域環境活動に貢献することで、スポーツ団体、大学スポーツとの、より親密なコミュニケーションを図ることを目的とした。

『街をキレイに!』をスローガンに地域美化推進活動を実施した。

2. 令和元年度事業活動

「全日本大学選手権 三菱電機杯 第74回 甲子園ボウル」当日に周辺駅の清掃活動を実施した。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- | | |
|------------|---|
| (1) 活動名称 | 『三菱電機杯 第74回毎日甲子園ボウル』
「地域美化推進活動“Clean Up Action”」 |
| (2) 実施日時 | 令和元年12月15日(日) 午前8:00～午前11:30 |
| (3) 実施場所 | 選手権会場「阪神甲子園球場」周辺 8駅
(阪急西宮駅北口、阪神西宮駅、JR西宮駅、等) |
| (4) 参加者 | 関西学生アメリカンフットボール連盟所属
加盟48大学全ての学生、約2,000名 |
| (5) 活動主管 | 関西学生アメリカンフットボール連盟 |
| (6) 企画運営協力 | 特定非営利活動法人 コミュニティー事業支援ネット |
| (7) 活動内容 | 駅周辺道路のごみ拾いを含めた清掃活動 |

4. 全体的な成果と今後の課題

平成21年より、甲子園ボウルの開催に合わせて、選手自ら自分達がプレーするスタジアム近隣の地域美化活動をすることで、地域とより密接なコミュニケーションを図り、アメリカンフットボールを応援し、更には観戦に来てくれるファンの増加を目指し取り組んできた。11年目に入り、ゴミ拾いをする多くの学生達の挨拶の声なども影響し、このボランティア活動はある程度認知度も高



まり、甲子園ボウルが始まる風物詩的な行事になりつつある。また、この活動が影響し近隣住民の方も甲子園ボウルに興味を持ち観戦しに来る方も増えてきた。同時に、ボランティアに参加する学生にも、ボランティアとは自己の自発的な行為から始まることを自覚させることで、利他の精神や周りの方のことを考えて行動できる客観性を身につけるいい機会となっている。今後は、さらにこの活動を充実させ甲子園ボウルだけでなく、アメリカンフットボールという競技に含まれるチームのために自分ができること（利他の精神）を体得し、フェアな姿勢で相手を尊敬し戦うアメリカンフットボールという競技自体の認知度を更に向上させたい。

(公社) 日本チアリーディング協会

1. 実施概要

公益社団法人日本チアリーディング協会は、地球環境問題の重要性を認識し、スポーツ活動における環境保全に関する啓発と実践活動を推進している。

2. 令和元年度事業活動

- 大会時に環境啓発ポスター及びバナー掲示
- 大会プログラムに環境啓発ポスターを印刷・配布
- 分別回収とゴミ持ち帰り運動の促進（大会時におけるアナウンス）
- 省エネ・省資源活動の実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
 - ・主催大会の会場において環境啓発ポスター及びバナー（来たときよりもキレイに）を掲示し、多くの観客に啓発を図ることができた。
- ②大会プログラムに環境啓発ポスターを印刷・配布
 - ・主催大会プログラムにポスターを印刷・配布し、啓発活動を行った。
- ③大会会場における分別回収の実施とゴミ持ち帰り運動の促進
 - ・本協会主催の大会において会場内のダストボックスの分別を徹底し、ビニール袋使用による回収を実施した。
 - ・大会会場のアナウンスにおいて、「来たときよりもキレイに」、「ゴミ持ち帰り」の協力を呼びかけた。
- ④省エネ・省資源活動の実施
 - ・大会会場や控室の照明、空調温度を調整し、省エネを実施した。
 - ・大会会場の整理・清掃を行い、競技環境の整備を促進した。
 - ・加盟団体の各種事務手続きについて電子化を進め、ペーパーレスによる省資源を実施した。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスターを大会プログラムに印刷・配布するとともに大会会場内に数多く掲示し、啓発活動を行ったことにより、選手をはじめ大会関係者、入場者に環境啓発の理解を広めることができた。また、協会事務所内に環境啓発ポスターを掲示したことにより、職員及び来訪者に対し、スポーツと環境問題に対する認識の向上を図った。



今後も、競技者を初め関係者・関係団体への啓発活動を推進するとともに、他団体の取り組みも参考にしながら、計画的な活動を積極的に実践し、環境保全に努めていきたい。

(公社) 日本パワーリフティング協会

1. 実施概要

大会会場として、公共体育館・公会堂等をお借りする機会が多い中、環境ポスターの掲示、「来たときよりもキレイに！」をスローガンに、競技中及び終了後の会場・施設の原状回復及び清掃・ゴミの持ち帰り等を徹底して行った。今後も大会会場を利用する際に選手、関係者一人一人が積極的に清掃やゴミの持ち帰りをを行うことで慣習としていけるよう取り組む。

2. 令和元年度事業活動

- 全日本・ジャパクラシック・ブロック・都道府県及び支部大会において、環境啓発ポスターを掲示した。
- 当該大会において、出場者のゴミ持ち帰りを徹底するため、大会開始時の注意事項として大会事務局から「来たときよりもキレイに！」の呼びかけ・案内をしていただき、開催者・出場者皆で協力して原状を回復した。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

国体公開競技への昇格に伴い、茨城県つくば市で9月21～23日に第74回いきいき茨城ゆめ国体公開競技を開催し、大盛況であった。

- ①全日本パワーリフティング選手権大会及びその他大会でのゴミ分別収集を徹底。

4. 全体的な成果と今後の課題

- ・ポスターの掲示や清掃活動が多くの大会関係者に周知され、主催者側からポスターを要望していただけるようになったことは大きな成果である。
- ・各都道府県大会へのポスターの配布。
- ・令和2年度世界ベンチプレス選手権大会実施のための準備作業の本格化。
- ・各都道府県大会の拡充。
- ・全日本規模の大会出場者のさらなる増加及びレベルアップ。
- ・施設提供者との良好な関係維持。

(公社) 日本ペタンク・ボール連盟

1. 実施概要

主な主催大会における美化活動、環境保全意識の啓蒙活動

2. 令和元年度事業活動

- 第24回ペタンクジャパンオープン



期日 2019年5月3、4、5日

場所 京都府福知山市

参加人数 824名

●第34回日本ペタンク選手権大会

期日 2019年10月5、6日

場所 埼玉県秩父市

参加人数 384名

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①会場周辺の美化活動
- ②環境保全に関する意識啓蒙 他

4. 全体的な成果と今後の課題

- ・環境保全に関しては、主催大会の実施において、キャプテン会議、全体集合時などに説明を行い、美化活動、啓蒙活動を行っている。しかしながら、啓発ポスターの掲示、配布等までは行っておらず、充実した環境保全活動とまでは至っていない。
- ・今後、環境問題の取り組みの充実を図るため、専門部会の中で担当部会を明確にし、取り組んでいきたいと考えている。

(一社) 日本フライングディスク協会

1. 実施概要

(一社) 日本フライングディスク協会は、平成27年度から、協会内に環境委員会を設置し、特に砂浜を使用して競技する『ビーチアルティメット』中心に環境活動に取り組み、競技者、関係者に対し環境保全意識の啓蒙活動を実施中。

2. 令和元年度事業活動

- 大会参加者による会場及び会場周辺の清掃活動、ゴミの分別廃棄の徹底、及びゴミ持ち帰り推奨
- 使用済段ボール等を利用して、手作りフライングディスク工作
- 大会で使用するコートにはラインテープ等は使用せずマーカーコーンにてコートを設営
- 大会会場での環境教育、環境ポスターの掲示、大会パンフレットへの環境ポスター掲載
- 理事会等のWeb会議化及び協会事務局のペーパーレス化推進

3. 具体的な活動実施内容とその成果

① WFDF2019 アジア・オセアニアビーチアルティメット選手権大会

日時:2019年6月13日(木)～16日(日)

会場:和歌山県白浜町 白良浜

参加者:約700名

参加国:オーストラリア/台湾/グアム/インド/日本/ニュージーランド/中華人民共和国/フィリピン共和国/シンガポール共和国/大韓民国

主催:世界フライングディスク連盟(WFDF)



共催：国際ビーチアルティメット愛好者協会（BULA）

主管：一般社団法人日本フライングディスク協会

後援：スポーツ庁／観光庁／公益財団法人日本オリンピック委員会／公益財団法人日本スポーツ協会／特定非営利活動法人日本ワールドゲームズ協会／特定非営利活動法人日本ビーチ文化振興協会／和歌山県／和歌山県教育委員会／公益社団法人和歌山県体育協会／白浜町／白浜町教育委員会／白浜観光協会／白浜温泉旅館協同組合／白浜町商工会／一般社団法人南紀白浜観光局／朝日新聞和歌山総局／産経新聞社／毎日新聞和歌山支局／読売新聞和歌山支局／株式会社紀伊民報／有限会社白浜新聞社／NHK 和歌山放送局／株式会社テレビ和歌山／株式会社和歌山放送／南紀白浜コミュニティ放送株式会社

活動：大会スタッフ、参加選手等によるビーチクリーン実施。ゴミ箱への英語表記追加による分別回収徹底。

リサイクル活動：サーフィンなどで着用するウエットスーツの製造過程で出る端材（端切れ）や廃材を加工し大会参加賞として提供。国際競技大会の大会参加賞として国内外から出場する選手に配布をすることで、ビーチという空間を通じた自然環境を再認識する機会の提供と、フライングディスク競技への参画を通じて他スポーツの環境保全活動に貢献する仕組み作りができた。

協力：（有）T-KATE インターナショナル（神奈川県茅ヶ崎市）<https://t-kate-int.co.jp/friends/>

②ビーチクリーン活動

下記の大会で大会開始前、大会後のビーチ及びビーチ周辺の清掃活動、ゴミの分別活動を実施。

- ◆ 2019年4月28日（日）：和歌山県白浜町 白良浜 白浜ビーチアルティメット 2019
- ◆ 2019年5月11日（土）～12日（日）：神奈川県藤沢市 鵜沼海岸 ビーチアルティメット フレンドシップ湘南 2019 第20回 EBASHI - CUP
- ◆ 2019年5月19日（日）：福岡市早良区 シーサイドももち海浜公園 2019 福岡ビーチ・アルティメット大会
- ◆ 2019年7月13日（土）：和歌山県和歌山市 片男波海水浴場 片男波ビーチアルティメット 2019
- ◆ 2019年9月8日（日）：宮城県南三陸町 サンオーレそではま海水浴場 第3回南三陸ビーチアルティメット
- ◆ 2019年9月28日（土）～29日（日）：静岡県熱海市 熱海サンビーチ 2019 熱海ビーチアルティメット大会
- ◆ 2019年10月5日（土）：和歌山県白浜町 白良浜 第2回白浜ビーチアルティメット大会
- ◆ 2019年10月12日（土）～13日（日）：愛知県蒲郡市 ラグーナビーチ 2019 蒲郡ビーチアルティメット&ディスクフェスティバル

4. 全体的な成果と今後の課題

砂浜を使用して競技を行うビーチアルティメット競技は、全国に普及しつつある。その際、ビーチクリーンを実施し競技エリア及びその周辺の清掃活動を実施。環境保全意識の醸成に繋がっている。また、競技者の安全も確保出来た。今年度は、国際大会での活動PRもできた。

リサイクル活動として使用済みの段ボール等を利用して手作りのフライングディスクを工作する活動を実施中。

また、主催大会の全参加者及び来場者に配布する大会パンフレットに環境ポスターを掲載することで、多くの競技者、来場者に周知している。

今後は大会会場での活動だけでなく、日常生活の行動に良い影響が与えられる様、工夫して活動を推進していきたい。



(一社) 日本クリケット協会

1. 実施概要

日本クリケット協会ではスタッフ及び選手・ボランティアは、環境保全活動の重要性を認識しスポーツ団体としてできることを考え取り組みを図っている。

2019年は台風19号の影響により、地域にも大きな被害があった。多くの大会が中止になるなか、スタッフを始め多くの選手が各地から復興のためボランティア活動をした。

2. 令和元年度事業活動

- 台風19号による被害からの復興支援
- 大会やイベント時に分別ゴミ箱の設置により来場客・選手等に分別を促した
- 事務所での仕事環境の改善

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①台風19号による被害からの復興支援

台風19号の影響により栃木県佐野市で甚大な被害を受けた。1日も早い復興を支援するためにスタッフを始め、多くの選手・保護者等がボランティアとして、がれきや土砂などの撤去活動を行った。

②大会やイベント時には、分別ゴミ箱の設置により来場客・選手等に分別を促した

- 各大会、イベントにゴミ分別担当を決め、来場客に分別や持ち帰りを促した。
- 選手によるゴミの分別・削減・清掃活動・グラウンドの見回り。
- ごみ箱設置時に英語でもゴミの種類を表記し分別・削減に協力依頼。

③事務所での仕事環境の改善

- スタッフでの会議等は各自ノートパソコンにて資料確認しプリントアウトせず、ペーパーレスを図った。
- また、不要になった紙を分別し紙業へ持ち込みリサイクルを依頼。
- 各部屋での仕事場から一部屋集中にして冷暖房・電気の節電に心がけた。
- 各自がマイカップを利用している。

4. 全体的な成果と今後の課題

啓発活動の成果として、選手・関係者の意識の向上が見られ、ゴミの分別等がきっちり行われた。今後も活動を継続し、スポーツを通じた環境保全に努めていきたい。



(公社) 日本コントラクトブリッジ連盟

1. 実施概要

2019年度は環境啓発ポスターの掲示、ゴミの分別の実施、競技会場の清掃活動、ゴミを減らす試み、競技会参加者及び関係者へのアナウンス活動を実施した。首都圏を中心に環境保全に関する啓蒙活動を行い、競技会参加者や運営関係者の意識の向上を図った。

2. 令和元年度事業活動

- 環境啓発ポスターの掲示
- 競技会の開始前に、競技会場でゴミをできるだけ出さないこと、ゴミの分別や後片付けへの協力などを参加者にアナウンスをお願いをした
- 一部の競技会場に日頃利用している競技会参加者が集まり、清掃を行った
- ペーパーの使用量を減らすよう連盟事務局は関係者に理解を求めた

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①環境啓発ポスターの掲示

日本最大の競技会場（四谷ブリッジセンター）の参加者受付を行う場所に環境啓発ポスターを掲示し、競技参加者および競技会関係者に啓発活動を行った。

②競技会開始前のアナウンス活動

競技会開始前に、運営審判（ディレクター）より競技運営への参加者協力の一環として、ゴミをできるだけ出さないこと、ゴミの分別や後片付けの負担軽減への理解を求めた。一部の有名選手が後片付けに参加し啓蒙活動を行った。

③競技会場の清掃

一部の競技会場で参加者の募集を行い、日頃競技会場を利用している競技会参加者の有志が数十人集まり競技会場の清掃を行った。

④ペーパーレス化への取り組み

連盟事務局で、一部の会議資料を従来の郵送からデータ送付に変更するなど、会議事前配布資料や当日資料の印刷量の削減を行い、関係者の理解を求めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

コントラクトブリッジは、一般の観客のいない競技であり、競技会場の入場者は運営関係者を除いて全員が競技会参加者となっている。顔見知りの関係も多いため、環境保全活動の協力への呼びかけはしやすい面がある。2020年度も2021年に向けて、全国の競技会会場や団体、約8,000人の会員へ、積極的な働きかけをし、意識の向上と具体的な活動の習慣化を広げていきたい。



(2) JOCスポーツ環境専門部会員の活動

Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission

松岡 修造 部会員

日本テニス協会における啓蒙活動

日本テニス協会 男子ジュニア強化プロジェクト「トップジュニアキャンプ」開催時に、会場内におけるポスターの掲示や横断幕の提示、ゴミの分別など啓蒙活動を積極的に行った。

●トップジュニアキャンプ開催

日程	対象	会場
2019年4月24日(水)～ 4月26日(金)	松岡修造とJTAナショナルチームに選抜された、東日本地域12歳以下の男子ジュニア選手20名	テニスポート波崎
2019年6月19日(水)～ 6月21日(金)	松岡修造とJTAナショナルチームに選抜された、西日本地域12歳以下の男子ジュニア選手20名	テニスポート波崎
2019年9月24日(火)～ 9月27日(金)	松岡修造とJTAナショナルチームに選抜された16歳以下の男子ジュニア選手16名	荏原湘南スポーツセンター (神奈川県)





宮下 純一 部会員

地元鹿児島での啓発活動

鹿児島にて「子どもたちの水環境を守るために」というテーマで講演会を実施致しました。

【一部内容抜粋】

よくスポーツの場面で環境がスポーツに対して及ぼす影響に関して聞くのですが、逆の一面も僕はあ
ると思います。人間が環境に対して与えた影響、スポーツが環境に対して与えた影響を考えると、僕た
ちは被害者でもあり、加害者でもあるのではないかと。楽しくマリンスポーツを楽しむ中で、ジェット
スキーをしながら、飲み終わったペットボトルをポイって捨てる。環境に感謝していれば、僕はそんな
ことはできないのではないかと思うので、自分が環境から受けることばかり考えるのではなくて、自分
が環境にしていることを考えることも、環境の改善に大きく力が発揮されていくのではないかと
思っています。そして自分の気持ち、意思、これがすごく大事になってくると思います。いくらいい
ことだって言われても、自分がいいことだと思わないとやっぱりなかなか動かないと思います。なので、
自分がしっかり勉強して、本当に自分が危機感を感じた時に動き出せるようにしておくことが重要だと
思います。



第33回
全国水環境保全
市町村連絡協議会
全国大会

名水 in かがしま

火山が与えてくれる水、新時代へ

“マグマシティ鹿児島市”では、約2万9,000年前の超巨大噴火により
形成された地層（シラス台地）にろ過された水を、
飲み水や憩いの空間などに利用しており、多くのめぐみ水を水から与えられています。
「あたりまえ」に使える水ですが、汚したり使いすぎたりすると、
簡単には元の状態に戻せないこともあります。
新時代「令和」でも水のめぐみを受け続けられるように、
一人ひとりができることを一緒に考えてみませんか？

名水シンポジウム

会場／かごしま県民交流センター（県民ホール）鹿児島市山下町14-50
日時／2019年10月5日（土）13:00～17:00（開場 12:00）

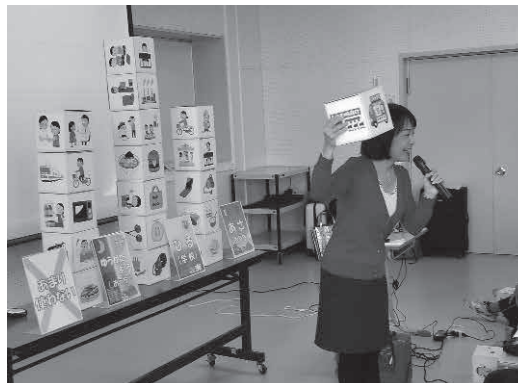
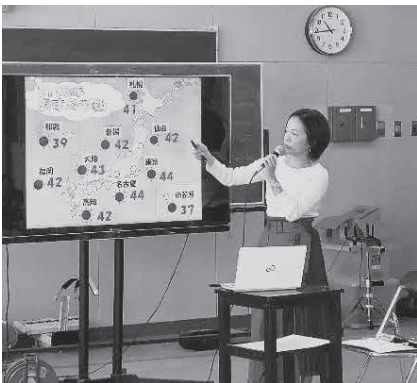
基調講演
「子どもたちの
水環境を守るために」
講演者：宮下 純一
北京オリンピック陸泳部メダリスト/
スポーツキャスター/JOCスポーツ環境アンバサダー

名水紹介
「かごしまをめぐる水」
～甲突池から甲突川、錦江湾まで～
講演者：大木 公彦
鹿児島大学名誉教授



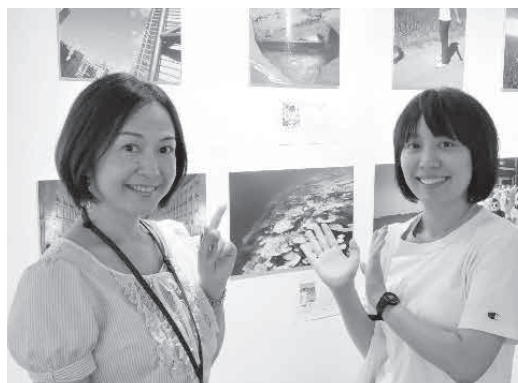
藤森 涼子 部会員

初めまして。2019年からスポーツ環境専門部会の部員を務めさせて頂いています気象キャスター・気象予報士の藤森涼子と申します。私は大学生のころからお天気お姉さんとしてテレビに出演するようになり、長い間気象キャスターという仕事を続けていますが、ここ最近、地球温暖化が原因と考えられる異常気象が多発していることを実感しています。そこで気象災害を少しでも減らすことを目的に、地球温暖化防止の知識普及啓発活動を15年以上続けています。活動の中心は小学校での出前授業や親子向けのイベントで、これまで環境省の地球温暖化防止コミュニケーターとしての活動だけでも220回以上となりました。授業やイベントでは、まず「2100年未来の天気予報」でこのまま温暖化が進むと、最悪の（想定である）未来…『日本の夏の最高気温は軒並み40度を超え、最高気温が30度以上の真夏日が東京でも100日以上、大雨が降ったり干ばつとなったり、スーパー台風が日本列島に襲来する…』というような内容の天気予報を実演します。そして、温暖化の仕組みや原因、CO2を削減する方法、温暖化の適応策である防災についても伝えます。座学だけでなく、イラストが描いてあるサイコロのような箱を使用して、毎日どれだけ生活の中で大量のエネルギーを使い、二酸化炭素を出しているのかを実感してもらいます。



また、去年は、気象キャスターが集まって写真展を開催し、私は沖縄の宮古島でシュノーケリングした際に撮影したサンゴの写真を出展しました。タイトルは「サンゴの悲鳴」です。白化する過程でサンゴはピンクやオレンジの鮮やかな色になります。この年の沖縄は記録的な高温で、大規模な白化現象が起きました。見た目には美しいお花畑のようなサンゴ礁は実は暑さで悲鳴をあげているのです。

温暖化が進むと、猛暑や暖冬でスポーツには深刻な影響が出てきます。スポーツのできる未来のために、私はこれからも温暖化防止の活動を続けていきたいと思っています。





(3) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について

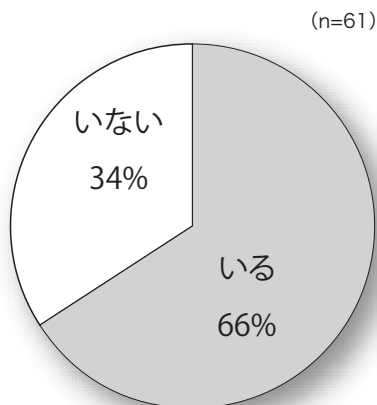
Results of the Questionnaire Regarding Environmental Activities of NFs

令和元年度JOC加盟団体66団体（準加盟団体、承認団体を含む）を対象に、「スポーツと環境」に関するアンケートを実施。本アンケートは、環境活動の現状や浸透状況を把握しつつ、今後の指針づくりにも役立っている。

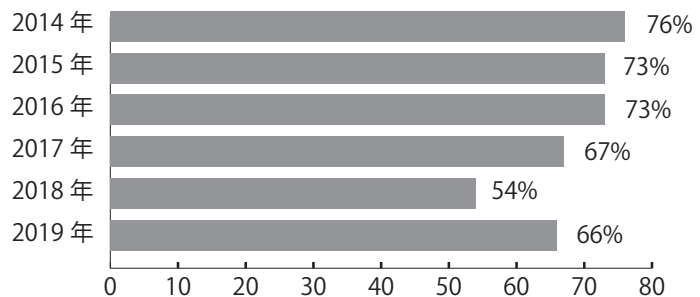
回答が得られた61団体のうち、その半数を超える団体で「スポーツ環境委員会」あるいは「環境保全プロジェクト」が設けられていると回答を得た。また「事務局等での取組みについて」をみると、全体の9割以上の団体が事務局に環境ポスターを掲示し、半数近くの団体が機関紙等発刊物に掲載、さらに選手等への環境啓発を行っている団体数が初めて7割を超える結果となった。

●環境委員・環境保全プロジェクトについて

スポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクトを設置していますか

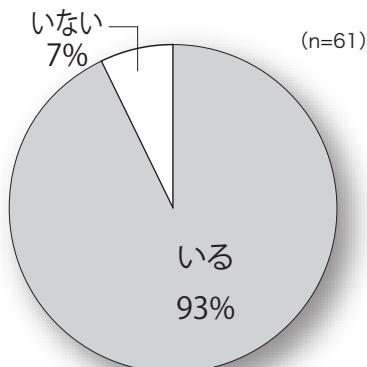


環境担当部門の設置状況（年度ごとの推移）

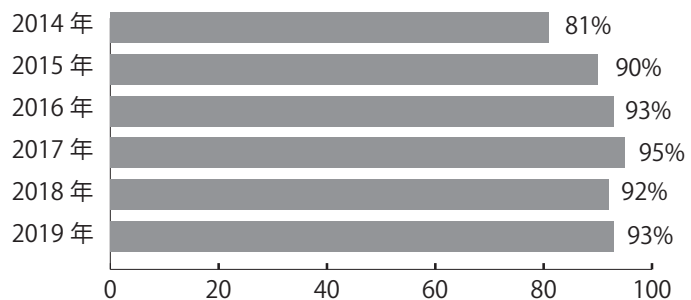


●事務局等での取組みについて

①啓発活動の一環として事務局に環境ポスターを掲示していますか

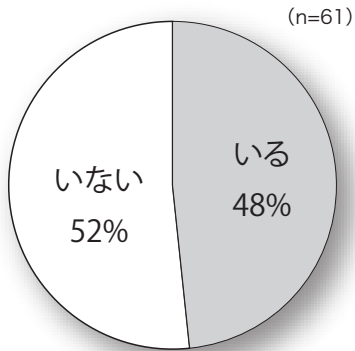


事務局内でのポスター掲示（年度ごとの推移）

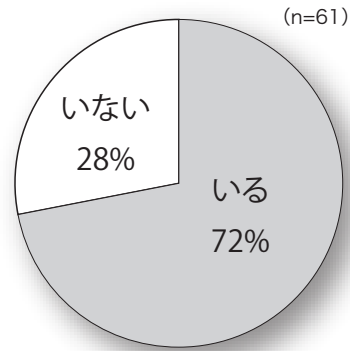




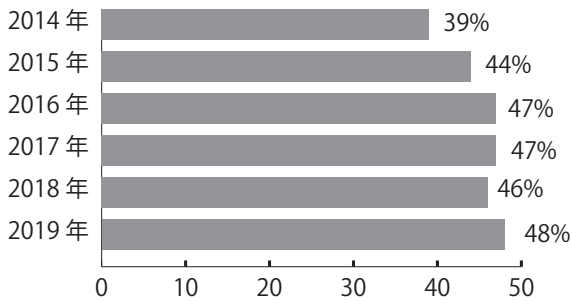
②機関誌等に環境保全に関する内容（環境ポスター等）を掲載していますか



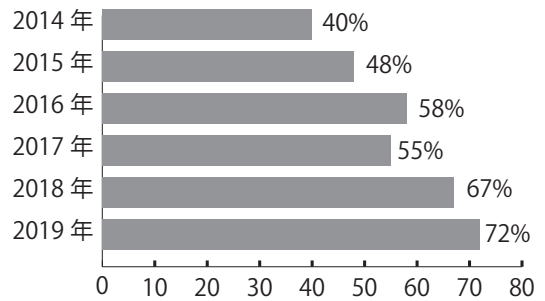
③選手等に環境保全への啓発を依頼していますか



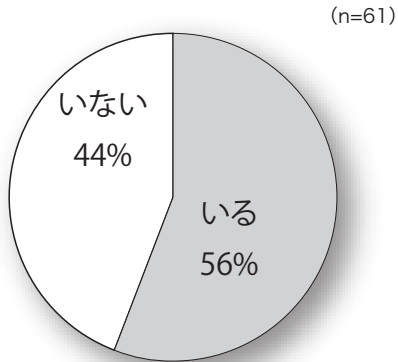
機関誌等での環境啓発（年度ごとの推移）



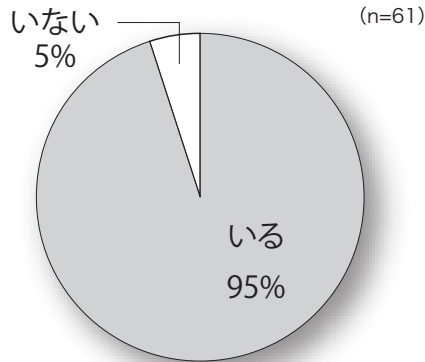
選手等への環境啓発依頼（年度ごとの推移）



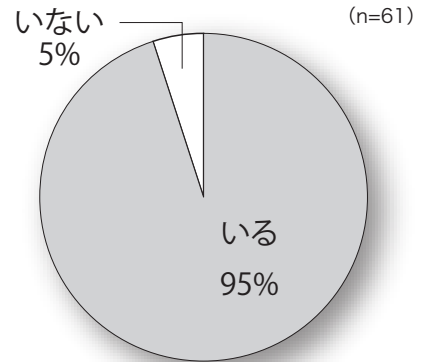
④都道府県協会や加盟団体と連携して環境保全の啓発活動をしていますか



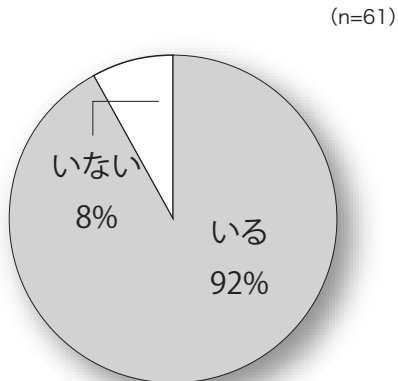
⑤事務局においてコピー用紙使用の削減の取組みをしていますか



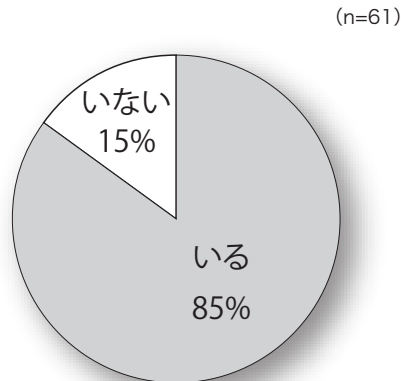
⑥事務局において環境に配慮した印刷の取組みをしていますか



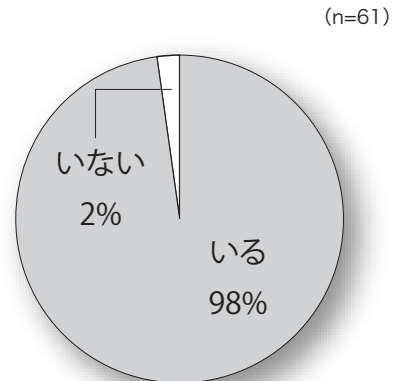
⑦事務局において電気使用量の削減の取組みをしていますか



⑧事務局において環境に配慮した用品・用具の使用をしていますか

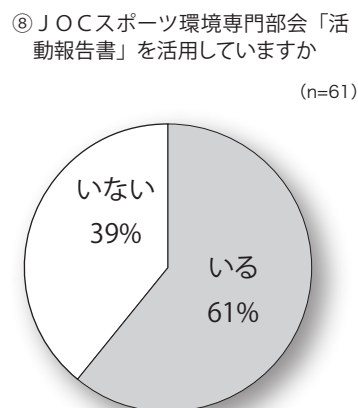
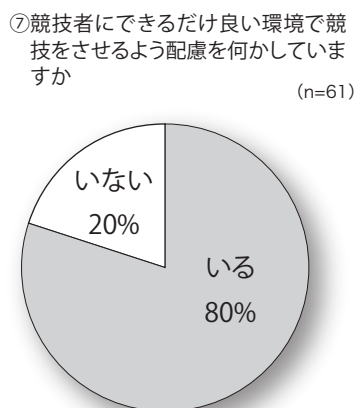
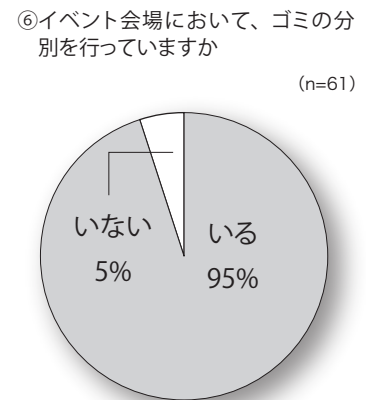
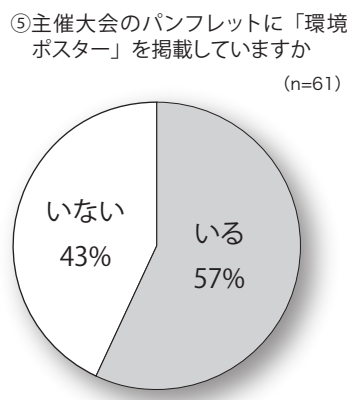
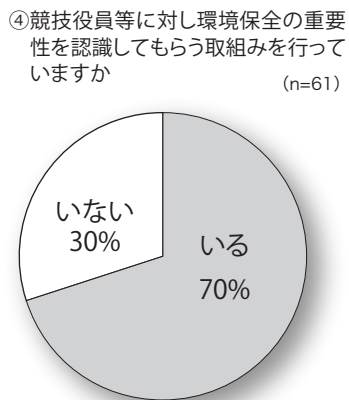
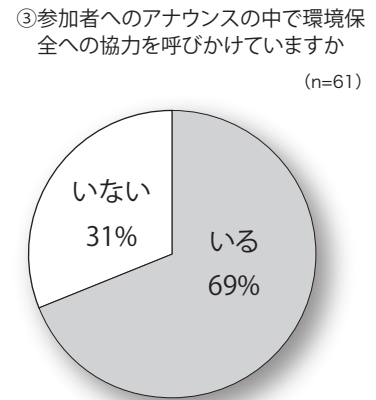
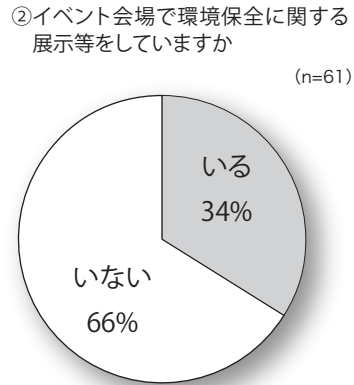
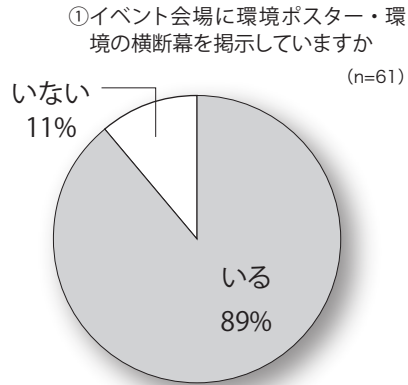


⑨事務局においてゴミの分別を実施していますか





●主催イベント(大会等)の取組みについて





(4) スポーツと環境についてのレクチャー原稿

Lecture draft on Sport and Environment

【スポーツと環境について 競技会挨拶原稿（1 分間）】

ご挨拶の中に1分間をプラスして、下記の『環境保全ポスター』の紹介と協力依頼をお願いします。

さて、最後に皆様はこのポスターをご存知でしょうか？

我々●●協会は、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）と連携して、異常気象や自然災害の原因となっている地球温暖化に危機感をもち、スポーツが楽しめる環境を、50年後、100年後の子供たちに残すために、環境保全の啓発活動に取り組んでいます。

「来たときよりもキレイに！」というこのポスターのフレーズには、単純に「キレイにしましょう！」ということではなく、『スポーツの未来を考え、いまの環境を大切にしていこう！』という、スポーツを通じた持続可能な社会づくりへの大きなメッセージがこめられています。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会まであと●年、東京2020大会は、スポーツを通じて地球環境・地域環境の大切さを発信する大会でもあります。

皆様には、まずは環境に対して興味を持ち、エネルギー・資源の節減やゴミの分別など、できることから実行していただきたいと思います。そして、我々スポーツ（または競技名）を愛するものが、模範的活動を推進し、社会の中で環境保全のリーダーとなることを願っています。





スポーツと環境について レクチャー原稿（10 分間）

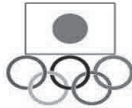
各 NF の環境担当者が NF 所属の指導者・アスリート向けに行うことを想定して開発したレクチャー原稿です。監督会議・アスリート向けの講習会等の場面で活用をお願いいたします。なお、下記のパワーポイントのデータは、JOC オリンピック・ムーブメント推進部より提供いたします。

指導者を通じたアスリートへの啓発

【シンプル編】10分

スポーツと環境

- スポーツの心、環境と未来へ -



(公財) 日本オリンピック委員会
(公財) 日本〇〇〇〇協会

私たち〇〇協会は、スポーツが楽しめる環境を、50年後、100年後の子供たちに残すために、スポーツを通じた環境活動に取り組んでいます。

これから行うレクチャーでは、スポーツ界における環境啓発活動の「基礎知識」として、①スポーツと環境の関係、②スポーツを通じた環境問題の取組み、③スポーツ関係者の役割、の3つのテーマについてお話しします。

「スポーツと環境」の関係

クイズ:2100年の未来の天気?

● 現状と比較して厳しい温暖化対策を取らなかった場合、**2100年3月～11月の東京の真夏日(30.0度以上の日)**は今よりもおおよそ何日位増えるでしょうか？

①13日 ②33日 ③57日



まずはじめのテーマは、「スポーツと環境の関係」です。皆さんもご存知のとおり、地球温暖化がそのまま進むと、スポーツにも大きな影響がでるといわれています。さて、ここで2100年の未来の天気について考えてみましょう。

現状と比較して厳しい温暖化対策を取らなかった場合、2100年3-5月(春)・6-8月(夏)・9-11月(秋)の期間、東京の真夏日、気温が30.0度以上の日は、今よりも何日位増えるでしょうか？次の3つの中から、正解だと思うものに手を上げて下さい。おおよそ①13日増えると思う人、②33日増えると思う人、③57日増えると思う人。

正解は、57日(正確には56.8日)です。このクイズは、環境省・気象庁から発表された「21世紀末における日本の気候」という資料からの出題ですが、2100年というと遠い未来のことのようですが、考えてみると私たちのひ孫たちが大人になる時代。真夏日が今より約2カ月も増える未来、ひ孫たちがスポーツをする環境を想像してみてください。

【参考】21世紀末における日本の気象予測結果 P9 真夏日日数の季節別変化
http://www.env.go.jp/earth/ondanka/pamph_tekiou/2015/

政策的な温室効果ガスの緩和削減を前提として予測されたシナリオ。厳しい温暖化対策を取らなかった場合2.6～4.8℃(平均3.7℃)で③の56.8日。一方、厳しい対策を取った場合、0.3～1.7℃(平均1.0℃)で①の13.1日。

「スポーツと環境」の関係

スポーツが環境から影響を受けること

- 地球環境の変化によってスポーツを行う環境が損なわれる。

スポーツが環境に影響を与えること

- 大規模なスポーツ大会では大量の廃棄物やエネルギーが消費され、環境に負荷をかけている。

「スポーツと環境」の関係を考える際には、相対する2つの側面を考える事が重要です。

まず1つは、いまのクイズに出題したように「スポーツが環境から影響を受けること」、例えると被害者側のようなことです。

環境問題の影響でスポーツの環境が整わなくなり、スポーツを楽しむための要素が縮小されてしまうという点です。代表的なものとしては、雪の減少による冬のスポーツへの影響が挙げられます。また、冬のスポーツや屋外スポーツへの影響ばかりが注目されますが、地球温暖化による気候変動の影響で台風の増加、ゲリラ豪雨などが多発するとスポーツどころではなくなってしまいます。さらに、熱中症や水不足の問題など、どれをとってもスポーツ活動に大きな影響を及ぼす問題です。

そしてもう1つは「スポーツが環境に影響を与えること」、例えると加害者側のようなことです。

過去において、スポーツ施設を建設するため、山を切り開き、海を埋め立てるなどの自然破壊をして



きた、また、現在では、大規模なスポーツ大会において、大量のエネルギーや廃棄物を生み出し環境に大きな負荷をかけているという点です。

このように、スポーツと環境の関係を考える際には、「スポーツが環境から影響を受けている」側面だけでなく、「スポーツが環境に影響を与えている」という事実を認識することが重要になります。

次のテーマは、「スポーツを通じた環境問題の取組み」です。

スポーツを通じた環境問題の取組み

① スポーツの会場における環境活動



写真は平成27年度JOCスポーツ環境専門部会活動報告書より出典

スポーツを通じた環境問題の取組み

② スポーツを通じた環境啓発活動



写真は平成27年度JOCスポーツ環境専門部会活動報告書より出典

スポーツを通じた環境問題の取組みには、大きく分けて「①スポーツの会場における環境活動」と「②スポーツを通じた環境啓発活動」の2つの取組みがあります。

まずひとつめの取組みは、「スポーツの会場における環境活動」です。

オリンピック競技大会に象徴されるように、スポーツイベントの巨大化に伴い、イベント自体が及ぼす自然環境への影響は無視できなくなってきました。そのため、自然保護や環境保全に向けた取り組み



はもはやスポーツ界も例外ではなく、イベントを主催する競技団体として、環境問題に対して最大限の取組みが求められるようになりました。

具体的な「スポーツの会場における環境活動」の事例としては、スポーツ施設の照明や冷暖房の調整による節電、ゴミの分別などがあります。また、環境貢献活動として、日本テニス協会が行っている中古ボールやラケット等のリユース活動、全日本野球協会が行っている植樹活動、また、日本トリアスロン連合が行っている競技場周辺の清掃活動などがあります。

そして、もうひとつの取組みは、「スポーツを通じた環境啓発活動」です。

スポーツ関係者の役割

①スポーツ団体（組織）としての役割

競技やスポーツイベントにおける環境負荷を低減させる。

②スポーツ指導者・アスリートとしての役割

社会的影響力を使って、環境の大切さを伝える。

スポーツ愛好家と呼ばれる人々は世界中に数十億人とおり、社会的影響力を持っています。スポーツ愛好者が周囲の人たちに環境保全の必要性を伝えて行くことは大きな効果を生むことであり、それがスポーツの力で環境保全を推進することになるのです。

具体的な「スポーツを通じた環境問題の啓発」の事例としては、指導者講習会等での「環境とスポーツ」についてのレクチャーがあります。

また、競技大会のパンフレットへの環境ポスターデザインの掲載、競技会場での横断幕の掲示、日本セーリング連盟が行っている不用になったヨットのセールを利用したワークショップを通じた啓発活動などもあります。

スポーツを通じた環境問題の取組みには、この他にも、各NFで色々な活動が工夫されて行われています。毎年発行されるJOCスポーツ環境専門部会活動報告書には、各NFの活動が詳しく報告されていますので、ぜひ参考にしてください。

さて、最後のテーマは、「スポーツ関係者の役割」です。

スポーツ関係者の役割のひとつは、「スポーツ団体としての役割」つまり、組織レベルの役割です。

具体的な役割は、日常の協会運営（会議時にタブレットを使用してペーパーレス化やオフィスの省エネなど）や主催する競技大会、スポーツイベントにおいて環境負荷を低減させることです。競技会場ではゴミの分別や自宅から競技会場までの移動に公共交通機関を使うように促すなど、観客に協力してもらう活動も必要でしょう。

また、指導者研修会や競技会の監督会議の機会に、関係者に対して「スポーツと環境」の意識啓発を行ったり、指導現場での啓発活動への協力依頼を実施することは、スポーツ団体（組織）のとても重要な役割のひとつになります。



そして、もうひとつの役割は、「スポーツ指導者・選手としての役割」つまり個人レベルの役割です。特に社会的影響力がある指導者、アスリートは自らが手本となり周囲の人たちに環境メッセージを発信し、環境の大切さを伝えることが重要です。具体的な実践活動としては、省エネ・低炭素型の製品・サービス・行動など、身近な生活のなかで、未来のために、今選択できるアクションを選ぶこと、「賢い選択」が大切です。環境省が推進する COOL CHOICE のサイトも参考になります。

スポーツの心、環境と未来へ。

**スポーツが楽しめる環境を、50年後、
100年後の子供たちに残すために、
まずは環境に対して興味を持つこと、
そして自分のできる事から行動すること**

以上、①スポーツと環境の関係、②スポーツを通じた環境問題の取組み、③スポーツ関係者の役割、この3つのテーマについて話してきましたが、スポーツが楽しめる環境を、50年後、100年後の子供たちに残すために、今、私たちに問われているのは、スポーツの“持続可能性”の問題。なかでも、環境との関わり方の問題です。

スポーツと環境の関係を考える際に、「スポーツが環境から影響を受ける」こと、そして、「スポーツが環境に影響を与えること」、このふたつの側面を理解することが大切です。環境問題はグローバルですが、その解決の糸口はローカルです。未然に防げる行動を取ることが重要です。

「まずは環境に対して興味を持つこと、そして自分のできる事から行動すること」、この考え方を、指導者がアスリートに伝えること。そしてアスリートが家族や周囲の人に広めていく事が、スポーツが楽しめる環境を、50年後、100年後の子供たちに残すことにつながるのだと思います。「スポーツの心、環境と未来へ。」これが未来に向けての我々のメッセージです。



(参考)「スポーツと環境」指導者研修会用原稿事例 (90 分間)

指導者研修会としてレクチャーを実施をする場合の原稿の事例です。「スポーツと環境」についての研修を計画する場合は、JOC スポーツ環境専門部会にご相談下さい。

参考資料

指導者を通じたアスリートへの啓発

【発展編】

スポーツと環境

- スポーツの心、環境と未来へ -

(公財) 日本オリンピック委員会
(公財) 日本○○○○協会

「スポーツと環境」の関係

クイズ: 2100年の未来の天気?

● 現状と比較して厳しい温暖化対策を取らなかった場合、
2100年3月～11月の東京の真夏日(30.0度以上の日)は今よりもおおよそ何日位増えるでしょうか?

① 13日 ② 33日 ③ 57日

1. 題材の目標

現代社会では、スポーツは環境にさまざまな形で大きな影響を与えている。例えば、巨大になったオリンピックや国際的なスポーツ大会では、環境に大きな負荷を与える。また、スポーツ参加者の増大は、環境破壊や自然破壊を起こしたりするようになった。ここでは、個々人の環境への配慮とともに、持続可能な開発や環境保護の観点から十分に検討、配慮されることが求められていることを理解できるようにすることを目標として、次の内容を取り扱う。

2. ねらい

- ・スポーツが環境に与える影響を理解する
- ・スポーツが環境破壊による影響を受けることを理解する
- ・環境に配慮した行動に求められることを理解し、行動ができる

3. お願い

指導者→アスリートへ伝えましょう。さらにマナーアップの一環として子供達にも話しましょう。そして自身がロールモデルの役割として、関係者への環境アクションを促しましょう。

なぜ地球環境問題は解決しない?

各地で異常気象などが起こり、
環境問題が深刻化していることは知っていても...

- ① 未来のことなので切迫感がない...
- ② 省エネ・リサイクルが大切なのは知っているが...
- ③ 自動車の排気ガスが有害なのは分かるが...

環境問題は、公害や健康の問題と違って
自分の事として捉え難い!

Q. 環境問題を列記してみよう

- * 地球温暖化
- * 大気汚染
- * 海洋汚染
- * オゾン層の破壊
- * 酸性雨
- * 野生生物種の減少
- * 森林の減少
- * 地球規模の砂漠化...

地球環境問題に敏感なグループは?

スポーツ愛好家やアスリート

本来、アスリートやスポーツ愛好家こそ
地球環境問題には敏感であるはず。
なぜならば、フレイする環境として
きれいな空気や水を求めるから。
すなわち地球環境の大切さを知っている!!

地球環境の危機

1. 自然破壊：森林伐採、砂漠化 など
2. 環境汚染：大気、土壌、海洋汚染 など
3. 資源枯渇：水、食糧、エネルギー源 など

原因は、急激な人口増加とモノとエネルギーを
大量に消費する現代文明が地球の自然循環を乱したこと

空気がきれいだとスポーツが楽しい!

豊かな自然環境はスポーツにとって不可欠

アスリートやスポーツ愛好家は、
自然環境をより自分の問題として捉えることができる

スポーツを通じて、
持続可能な社会づくりが可能



スポーツと環境「2つの側面」

- 地球環境の変化によってスポーツを行う環境が損なわれてしまう？
- スポーツは「健康」にとってよい！もの“だった”・・・。
しかし、悪化した環境はスポーツ参加者の健康を害してしまう。

スポーツが環境から影響を受けること

- スポーツ施設等の開発に伴う自然破壊
- 大規模なスポーツ大会では大量の廃棄物やエネルギーが消費され、環境に負荷をかけているという点。

スポーツが環境に影響を与えること

JOC スポーツ環境専門部会の活動



1. 「スポーツと環境」ポスターの作成
2. JOCスポーツと環境・地域セミナーの開催
3. スポーツと環境担当者会議の実施
4. スポーツ環境専門部会活動報告書の出版

スポーツを通じた環境問題の取り組み

スポーツなどの人間活動は、基本的に
自然破壊や環境汚染をともなう。だから・・・

① スポーツの各現場における環境保全

- 1) スポーツ選手として 2) スポーツ団体のCSRとして 3) スポーツ業界のCSRとして
スポーツイベントの前 施設、商品メーカー

スポーツ愛好家は、「スポーツマンシップ」という
倫理観を持ち、社会的影響力も持っている。だから・・・

② スポーツを通じた環境問題の啓発

各競技団体の実践例は

「JOCスポーツ環境専門部会活動報告書」を参照してください。



スポーツ関係者の役割

健康な環境はスポーツにとって不可欠。
また、スポーツは地球環境を改善する際に
重要な役割を果たすことができる。
持続可能な社会づくりに向けてスポーツ関係者が
果たす役割は・・・

- ① スポーツ選手として・・・
技術的、商業的成功がもたらす社会的影響力を
使って、ファンの人たちに環境の大切さを伝える。

来たときよりもキレイに！

ディスカッションタイム

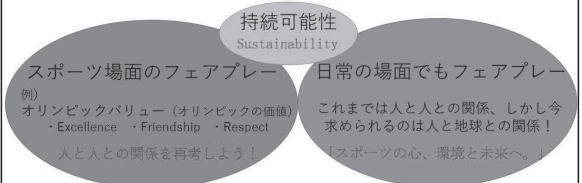
- Q.
先ほどの映像の中のことが現実となったら、
スポーツ（あなたの競技種目）にどのような影響が
でると思いますか？
- Q.
あなたのスポーツでの環境活動は？

スポーツ関係者の役割

- ② スポーツ団体のCSRとして・・・
商業的成功だけでなく、スポーツの社会的価値を高めるためにも、
競技やスポーツイベントにおける環境負荷を低減させる。

- ③ スポーツ業界のCSRとして・・・
スポーツ施設の建設と運営、スポーツ用品の製造と販売に
おける環境の保全・改善を徹底する。

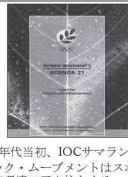
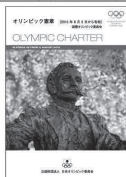
スポーツと環境の新たな関係



他人だけでなく、地球に対しても
責任ある社会人として行動しよう！

事例：国際オリンピック委員会の活動

自然の保全、環境保全がある。それはスポーツ界も例外ではない。



1990年代当初、IOCサマランチ元会長が
「オリンピック・ムーブメントはスポーツ・文化に
加えて環境の三本柱とする。」と提唱

～IOCの使命と役割～

環境問題に関心を持ち、啓発・実践を通してその責任を果たすとともに、スポーツ界
において、特にオリンピック競技大会開催について持続可能な開発を促進すること。
(オリンピック憲章)

スポーツの心、環境と未来へ。

スポーツが楽しめる環境を、50年後、
100年後の子供たちに残すために、
まずは環境に対して興味を持つこと、
そして自分のできる事から行動すること



4 IOC持続可能性とレガシー委員会について

IOC Sustainability and Legacy Commission

■ IOC 持続可能性とレガシー委員会

IOC 持続可能性とレガシー委員会は 2015 年に発足（IOC 環境委員会を改組）。通常年 1 回、例年 11 月に開催されるが、2019 年分は 2020 年 1 月に開催され、IOC 側から取組状況の報告がされるとともに、各組織委員会の説明とともに委員によるグループディスカッションがなされた。

■ 2019 年の主な取組状況

取組 1 IOC 持続可能性進捗状況アップデート（IOC Sustainability Progress Update）

「IOC 持続可能性戦略」（2016）に対する 2 度目の報告書。2019 年 11 月に発表。

- ・「IOC 持続可能性戦略」に掲げられた 18 の目標についての取組状況について報告
- ・ほぼ順調だが、2 つの目標が未達（①持続可能性に配慮した物品・サービスの調達、②持続可能性大使の設置）
- ・2019 年の主な取組

→① IOC 本部オフィス建築で最大限持続可能性に配慮

→② TOP スポンサーによる東京大会での持続可能性取組

→③ 組織委員会向けに「CO2 排出量算定方法」や「持続可能性に配慮した調達」のガイドラインを作成公表

→④ 国連気候変動枠組条約事務局と連携し、スポーツを通じた気候行動枠組み（Sports for Climate Action Framework）にスポーツ団体が参加するよう働きかけ（現在 100 団体以上参加）



取組 2 2019 年の取組状況に関する外部団体等との意見交換

- ・外部ステークホルダー（TOP パートナーや NGO 含む）、IOC 内部から半数ずつで構成される 52 名と意見交換を行った。進捗状況をアップデートする（取組 1）にあたり、具体的な記述をするよう求められた。

取組 3 HCC（開催都市契約）の強化

2024 年（パリ大会）から適用する HCC（開催都市契約）を強化した。（飲食、資源、人権）

※ IOC の持続可能性の取組はウェブサイトでも公開（英語のみ）<https://www.olympic.org/sustainability>

■ グループディスカッション

- ・ローザンヌユース 2020、東京 2020、北京 2022、パリ 2024 のテーマで、それぞれの組織委員会からのプレゼンテーションと議論
- ・オリンピックアジェンダ 2020 の最終年を迎えるにあたり、アジェンダ 2020 後の在り方を議論



（写真）中央に IOC バッハ会長。その向かって左隣に IOC 持続可能性とレガシー委員会議長アルベール 2 世（モナコ大公）

（注）IOC 持続可能性とレガシー委員会においてはレガシーも議論の対象だが本稿では割愛した。

（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
総務局 持続可能性部長 荒田有紀



5

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた持続可能性の取り組み Initiatives for Sustainable Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games

(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
総務局持続可能性部長 **荒田有紀**

新型コロナウイルスの世界的感染拡大を受け、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を延期することが2020年3月24日に決定された。そして、2020年3月30日に、大会の新たな開催期間を、オリンピック競技大会について2021年7月23日から8月8日、パラリンピック競技大会について2021年8月24日から9月5日とすることが発表された。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、当初2020年3月に公表予定だった「持続可能性大会前報告書」を4月に発表した。その時点では、会場計画をはじめとする多くの事項の詳細は未確定の状況だったが、それらの事項の確定を待たず、これまで積み上げてきた取り組みを迅速にお知らせすることが重要と考えた。

持続可能性大会前報告書の特徴

- ・「持続可能性に配慮した東京2020大会はこのように開催される」という姿を示す
- ・メインレポートに加え、概要レポートを作成し、持続可能性の成果や意義を分かりやすく紹介

以降のスライドは概要レポートからの抜粋である。



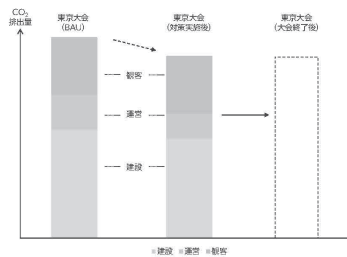


**気候変動
主な取り組み**

**約280,000t-CO₂削減
東京2020大会のカーボンフットプリント**

東京大会のカーボンフットプリント (CO₂等の排出量) は、対策を実施しない場合 (BAU) は、3,010,000t-CO₂程度となりますが、レンタル・リースの活用、既存会場の活用、再エネの活用や省エネ設備の導入などの回避・削減対策の実施により、約280,000t-CO₂削減されました。

東京2020大会のカーボンフットプリント



**様々な取り組みにより
再エネ100%を目指す**

大会の運営に使用する電気は、再エネ電気の調達やグリーン電力証書の活用などにより、再エネ100%とすることを目標としています。

利用する再エネ電気には、復興五輪の拠点から、東北等で発電された電気を活用することも目指しています。



**「水素社会」の実現に向け、
水素エネルギーを活用**

大会で使用する車両に、燃料電池自動車 (FCV) を導入する外、聖火台の燃料及び聖火リレーテーチの燃料の一部に水素を使用します。また東京都の取組として、選手村内でも、一部の施設の水素エネルギーとして水素エネルギーを利用します。東京大会を通じて「水素社会」の実現に貢献していきます。

**資源管理
主な取り組み**

**大会を象徴する物品に
再生材を活用**

再生材活用の取り組みを積極的に行いました。持続可能な循環型社会に向けた東京2020大会のレガシーとします。

- ・聖火リレーのトーチ:
東日本大震災の復興仮設住宅のアルミ建築廃材
- ・オリンピック聖火ランナーのユニフォーム:
ペットボトルのリサイクル素材
- ・入賞メダル:
日本全国から集められた小売家電等からのリサイクル金属
- ・表彰台:
市民の協力により回収された日用品の使用済みプラスチック容器からのリサイクル原料



TOKYO 2020

**世界的課題、
使い捨てプラスチックを削減**

海洋汚染が懸念される使い捨てのプラスチック容器包装・製品について、世界的に対策が進んでいます。東京2020大会でも3R (リデュース・リユース・リサイクル) に取り組みます。

観客への食事提供におけるリサイクル可能な紙製容器の使用や、選手村の飲食提供におけるリユース食器もしくはリサイクル可能な紙製等の食器の導入に向けて取り組みを進めています。

**調達物品は
リユース・リサイクルを追求**

調達物品の再使用 (レンタル・リース含む)
再生利用率: 目標99%

大会で使用する物品は、まず、レンタル・リースを最大限活用して調達しています。そして、それぞれの物品について、組織委員会で構築したシステムを用いて調達から処分までを一貫して管理します。後利用・再資源化ガイドラインを策定して、関係組織等との連携により再販先やリユース先の確保を図り、リユース・リサイクルを追求しています。



大気・水・緑・生物多様性等 主な取り組み

暑さ対策を推進

国、東京都と連携しながら、観客向け・大会スタッフ向け・アスリート向け・メディア向けに、暑さ対策の取り組みを進めています。

2019年夏のテストイベントにおいて、これまで検討してきた暑さ対策を試行し、効果と課題を確認しました。

大会本番における、より効果的な暑さ対策の実施に向けて、引き続き準備を進めています。

大会における水循環への配慮

2019年夏に、マラソンスイミングとトライアスロンの競技会場となるお台場海浜公園で行った水質水温調査では、降雨の影響により、水中スクリーン（一重）の内部で、基準を超過する日が発生しました。

大会時には、より効果の高い三重スクリーンの設置を予定しています。

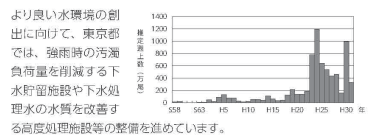
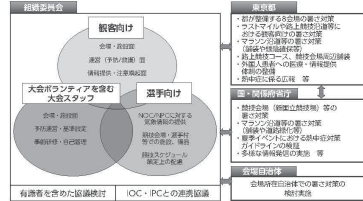
都市における水環境機能の向上

より良い水環境の創出に向けて、東京都では、強雨時の汚濁負荷量を削減する下水貯留施設や下水処理水の水質を改善する高度処理施設等の整備を進めています。

かつて、水質が悪化した多摩川ですが、下水道の整備により水質が向上しアユの遡上数が増加しています。

今後も引き続き、幅広い関係者とともに、都市における水環境機能の向上に取り組んでいきます。

暑さ対策の役割分担



人権・労働、公正な事業慣行等 主な取り組み

大会運営におけるD&Iの実現

医療、食事、セキュリティ、選手サポート等、大会期間中のあらゆる場面で、D&Iの視点を反映した大会運営・サービスの提供を行います。

【東京2020大会におけるD&Iに配慮した計画例】

- ・多様性に配慮した料理（ハラールメニュー、ベジタリアンメニュー等）
- ・礼拝スペース、多機能トイレ、補助犬用トイレ（観客、選手、大会スタッフ）
- ・女性アスリート（選手村総合事務所）
- ・東京オリンピック・パラリンピック競技大会で初めて設置
- ・観客入場時のセキュリティチェック（車いす利用者エリア、両性対応等）
- ・ユニフォームデザイン（大会スタッフ・大会関係者）

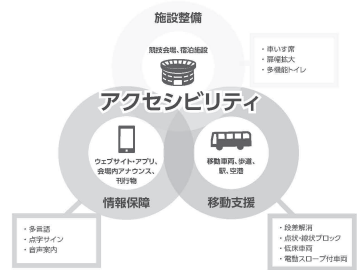


人権対応体制

大会期間中、特に競技会場等における差別的言動やハラスメント等に対して毅然とした対応を取るため、問題を適宜把握し対応する体制づくりや、初動対応に係るガイドラインの作成、そして実践的な研修の実施等を進めます。また、D&Iにあふれた会場の雰囲気づくりに観客の方々の参画を促していきます。

アクセシビリティの確保

「Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドライン」を基に、移動支援、情報保障、大会会場等の施設整備の取り組みを推進しています。国や東京都、関係自治体、公共交通機関、空港や宿泊施設等と連携していきます。



- 1 持続可能性大会前報告書は、組織委員会ウェブサイトに掲載
<https://tokyo2020.org/ja/games/sustainability/>
- 2 組織委員会は大会の持続可能性を実現していくために、以下も引き続き取り組んでいく。
 - (1) ISO20121（イベントの持続可能性に関するマネジメントシステム）に則した準備・運営
 - (2) 物品・サービス及びライセンス商品を対象とする「持続可能性に配慮した調達コード」及びその不遵守に関する通報受付窓口の運用



6 関連資料

Reference

(1) JOCスポーツ環境活動者一覧

JOC Activities Person of Sport and Environment

JOCスポーツ環境専門部会
<i>JOC Sport and Environment Commission</i>

役職名	氏名	NF
		所属
部会長 Chairman	野 端 啓 夫 NOBATA Hiroo	(公財) 日本野球連盟 Baseball Federation of Japan
副部会長 Vice Chairman	大 津 克 哉 OTSU Katsuya	(公財) 日本テニス協会 Japan Tennis Association
部会員 Member	荒 田 有 紀 ARATA Yuki	(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 The Tokyo Organising Committee of the Olympic and Paralympic Games
"	上 田 藍 UEDA Ai	(公社) 日本トライアスロン連合 Japan Triathlon Union
"	岡 田 良 平 OKADA Ryohei	(公財) 全日本スキー連盟 Ski Association of Japan
"	風 間 明 KAZAMA Akira	(公財) 日本陸上競技連盟 Japan Association of Athletics Federations
"	鎌 賀 秀 夫 KAMAGA Hideo	(公財) 日本レスリング協会 Japan Wrestling Federation
"	高 野 和 弘 TAKANO Kazuhiro	(公財) 日本バレーボール協会 Japan Volleyball Association
"	小 塚 崇 彦 KOZUKA Takahiko	(有) セブンファクトリー FORM JAPAN ENTERTAINMENT
"	齋 藤 由 紀 SAITO Yuki	(公財) 日本水泳連盟 Japan Swimming Federation
"	玉 利 聡 一 TAMARI Toshikazu	(公財) 日本サッカー協会 Japan Football Association
"	永 井 真 美 NAGAI Mami	(公財) 日本セーリング連盟 Japan Sailing Federation+D7
"	西 山 雄 二 NISHIYAMA Yuji	横浜市 市民局 Yokohama Civic Affairs Bureau
"	藤 森 涼 子 FUJIMORI Ryoko	(特非) 気象キャスターネットワーク WEATHERCASTER NETWORK
"	松 岡 修 造 MATSUOKA Shuzo	I M G International Management Group LLC,
"	宮 下 純 一 MIYASHITA Junichi	(株) ホリプロ Horipro Inc.



本会加盟団体(スポーツ環境担当者)

National Federation

競技団体	委員会名/役職/氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(公財) 日本陸上競技連盟	—	—	風間 明 中村 仁
(公財) 日本水泳連盟	スポーツ環境委員会 委員長/齋藤 由紀	副委員長/— 委 員/岩崎 恭子、山口 善久、守谷 雅之、原田 由梨、 長谷川 雪恵、丸笹 浩一郎、鈴木 尊久、後藤 福寿、有久 暢、 林 正洋、久米 直子	小川 知伸
(公財) 日本サッカー協会	社会貢献委員会 委員長/日比野 克彦	副委員長/— 委員/赤羽 真紀子、黒田かをり、高橋 陽子、村松 邦子	玉利 聡一
(公財) 全日本スキー連盟	スポーツ環境委員会 委員長/宮沢 賢一	—	宮沢 賢一
(公財) 日本テニス協会	総務委員会 スポーツ環境担当 委員長/高橋 甫	副委員長/浅井 良樹 委 員/大津 克哉、千葉 輝夫	大石 英代
(公社) 日本ボート協会	安全・環境委員会 委員長/竹内 浩	副委員長/— 委 員/飯田 毅 (委員)、小澤 哲史 (アドバイザー)、 栗林 健太郎 (スタッフ)、赤津 杏奈 (スタッフ)、興梠 裕一 (スタッフ)、尾崎 英夫 (スタッフ)、堀 晃浩 (スタッ フ)、久保田 芳晴 (スタッフ)	野口 紀子
(公社) 日本ホッケー協会	総務委員会 委員長/瀧上 正志	コンプライアンス推進部会部長/一谷 徹 副部長/大久保 文義	織井 隆司
(一社) 日本ボクシング連盟	環境委員会 委員長/内田 貞信	副委員長/梅下 新介 委 員/—	及川 雄太
(公財) 日本バレーボール協会	環境委員会 委員長/高野 和弘	副委員長/— 委 員/灰西克博、中野 淳子	灰西 克博
(公財) 日本体操協会	総務委員会 委員長/遠藤 幸一	—	八木沢 則子
(公財) 日本バスケットボール協会	—	—	平田 成美
(公財) 日本スケート連盟	スポーツ環境委員会 委員長/濱野 勉	副委員長/阿部 鉄雄 委 員/榎 稔、高村 高夫、机 博文、本間 康彦、麻本 智幸、 鍋木 美千好、山本 泰司、東 悦子、平井 隆史	森村 直樹
(公財) 日本アイスホッケー連盟	環境委員会 委員長/末吉 直樹	副委員長/— 委 員/足立 功一、高橋 昇士、長南 哲生、細谷 康次、 服部 昌樹、佐々木 史郎、芳野 俊	建部 彰弘
(公財) 日本レスリング協会	スポーツ環境委員会 委員長/鎌賀 秀夫	副委員長/桑田 信明 委 員/真田 栄作、本田原 明、丹下 一、森山 加世子、 吉澤 昌	鎌賀 秀夫
(公財) 日本セーリング連盟	環境委員会 委員長/芝田 崇行	副委員長/長嶋 匡之 委 員/菊地 透、三浦 多満枝、永井 真美	大村 雅一
(公社) 日本ウエイトリフティング協会	スポーツ環境委員会 委員長/守 昌宏	副委員長/青木 延明、平良 朝順 委 員/伊東 智人、米田 迪、多小田 一則、後藤 節哉、 牧野 吉伸、嶽 圭輔	加納 修
(公財) 日本ハンドボール協会	環境委員会 委員長/工藤 雄三	副委員長/高野 修 委 員/家永 昌樹、松藤 奈緒子、清水 茂樹、長澤 純平	兼子 真
(公財) 日本自転車競技連盟	総務委員会 委員長/飯坂 紳治	副委員長/渡辺 俊太郎 委 員/小野口 裕朗、松倉 信裕、黒江 祐平	佐藤 勝喜
(公財) 日本ソフトテニス連盟	環境・教育プロジェクト 委員長/川島 登	副委員長/丹崎 健一 委 員/岡村 勝幸、白水 厚二、新保 俊彦、林 研一、 和歌浦 京子	戸田 健太郎



競技団体	委員会名/役職/氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(公財) 日本卓球協会	環境委員会 委員長/小畑 幸生	副委員長/多賀 康之 委員/石田 則子、宗片 信一 担当理事/佐藤 重喜	伊藤 大博
(公財) 全日本軟式野球連盟	環境担当委員会 委員長/宮川 良輔	副委員長/小林 三郎 委員/—	北村 悠平
(公財) 日本相撲連盟	総務委員会 委員長/勝田 晃三	副委員長/櫛原 利明 委員/—	吉村 登
(公社) 日本馬術連盟	JOC スポーツ環境委員会 委員長/—	副委員長/— 委員/長友 満則	小塩 陽子
(公社) 日本フェンシング協会	環境委員会 委員長/中田 玲子	副委員長/河原塚 淳 委員/加藤 晴英	中田 玲子
(公財) 全日本柔道連盟	—	—	高橋 秀明
(公財) 日本ソフトボール協会	スポーツ環境委員会 委員長/福崎 紀夫	—	久下 知宏
(公財) 日本バドミントン協会	総務本部 環境委員会 委員長/丹藤 勇一	副委員長/— 委員/新木 恵一	橋口 俊彦
(公財) 全日本弓道連盟	—	—	清水 政範
(公社) 日本ライフル射撃協会	総務委員会 横山 幸子	副委員長/佐橋 朋木 委員/—	塚越 ゆかり
(一財) 全日本剣道連盟	総務委員会 委員長/—	—	松原 徹
(公社) 日本近代五種協会	環境委員会 委員長/内田 正二	副委員長/長江 洋一 委員/—	富安 一朗
(公財) 日本ラグビーフットボール協会	総務委員会環境部門 委員長/高野 敬一郎	副委員長/— 委員/児玉 隆一郎、岩上 教行、中嶋 一義、 大山 高行、小宮山 弘	斎藤 守弘
(公社) 日本山岳・ スポーツクライミング協会	自然保護委員会 委員長/松隈 豊	副委員長/堀江 伸子、西山 常芳 委員/小林 貞幸、田上 正敏、手塚 福寿、岩崎 繁夫、 濱田 伸、小高 令子、猪狩 ノブ、廣田 博、岡田 博之、 小島 和徳、増田 修、千葉 弓子、湯浅 達男、伊藤 篤子	松隈 豊
(公社) 日本カーヌー連盟	環境対策委員会 委員長/北川 浩正	副委員長/鈴木 利一 委員/—	柳澤 恵子
(公社) 全日本アーチェリー連盟	安全対策検討・環境委員会 委員長/溝井 利和	副委員長/笹尾 茂寿 委員/津田 正弘、工藤 潤一	笹尾 茂寿
(公財) 全日本空手道連盟	環境委員会 委員長/有竹 隆佐	副委員長/日下 修次 委員/三村 由紀、石田 航	石田 航
(公社) 全日本銃剣道連盟	環境委員会 委員長/鈴木 健	副委員長/片山 幸太郎 委員/片山 幸太郎、市野 保己、石井 実、渡邊 清吉、 松岡 裕子、今村 辰義、中村 真彦、佐藤 亨、御山 昇、 高柳 陽一、矢野 満、津田 昌泰、瀬尾 憲次、井澤 継男、 松田 健治、松本 栄一郎	平本 梯子
(一社) 日本クレイ射撃協会	総務委員会 環境G 委員長/増田 正起	副委員長/— 委員/山田 春美	坂本 強
(公財) 全日本なぎなた連盟	環境委員会 委員長/松井 亮子	副委員長/— 委員/池上 佐保子、山根 園子	清水 真由美
(公財) 全日本ボウリング協会	総務委員会 普及・広報部会 部会長/松下 秀雄	副委員長/— 部会員/富山 幸美	宮内 久美子
(公社) 日本ボブスレー・ リュージュ・スケルトン連盟	—	—	—
(一財) 全日本野球協会	普及振興委員会 スポーツ環 境部会 部会長/長久保 由治	—	長久保 由治



競技団体	委員会名/役職/氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(特非) 日本スポーツ芸術協会	—	—	相原 茂明
(公社) 日本武術太極拳連盟	—	—	—
(公社) 日本カーリング協会	環境特別委員会 委員長/平間 初恵	副委員長/小池 純義 委 員/小野 丘、宮越 武志、小島 樹里、両角 公佑	小高 正嗣
(公社) 日本トライアスロン連合	事業企画委員会(環境部会) 委員長/西沢 潤	副委員長/関根 明子 委 員/篠田 雅司、沼田 英之、松山 文人、朝岡 大輔、 新井 康史、徳舛 孝志、清本 直、横山 美紀子、滝川 満弘、 中西 真知子、原田 佐希、磯村 諒、宮本 宏史、渡邊 享子、 小池 賢、山本 悟志、田山 寛豪、山本 雅一、浦山 大智、 佐々木 順	児玉 健太
(公財) 日本ゴルフ協会	—	—	—
(公社) 日本スカッシュ協会	環境委員会 委員長/宮城島 眞知子	副委員長/神谷 典子 委 員/日向 孝知、潮木 仁、大根田 芳浩、小幡 博	神谷 典子
(公社) 日本ビリヤード協会	—	—	松平 照康
(公社) 日本ボディビル・ フィットネス連盟	環境委員会 委員長/岩崎 靖	副委員長/— 委 員/元木 俊博	岩崎 靖
(一社) 全日本テコンドー協会	総務委員会 委員長/牧野 文彦	副委員長/— 委 員/川津 博、斉藤 和広	土屋 茂夫
(公社) 日本ダンススポーツ連盟	環境委員会 委員長/永井 彰	副委員長/— 委 員/岸尾 政弘	岸尾 政弘
(一社) 日本バイアスロン連盟	競技運営・環境委員会 委員長/未定 (令和2年5～6月選任予定)	副委員長/滝澤 健 委 員/小野 健治、三浦 富男、佐藤 裕英、関 貴之、 阿部 正昭、宮崎 秀樹、井口 長治、柴田 税	山村 明
(一社) 日本サーフィン連盟	事業委員会 委員長/津田 俊一	—	清水 裕雅
(一社) ワールドスケートジャパン	—	—	松本 昌子
(一社) 日本カバディ協会	環境委員会 委員長/河合 陽児	副委員長/林 佳子 委 員/高野 一裕、新田 晃千、高岡 真由子、金子 裕美	河合 陽児
(一社) 日本セパタクロウ協会	環境委員会 委員長/菅野 瑞穂	副委員長/寺本 進 委 員/赤石 量也、中塚 智之	菅野 瑞穂
(公社) 日本アメリカンフットボール協会	総務委員会 委員長/清水 裕司	副委員長/— 委 員/渡邊 宏行	武居 和彦
(公社) 日本チアリーディング協会	環境委員会 委員長/久保田 友代	—	下地 隆
(公社) 日本オリエンテーリング協会	—	—	—
(公社) 日本パワーリフティング協会	—	—	澤 千代美
(公社) 日本ペタンク・ブル連盟	—	—	—
(一社) 日本フライングディスク協会	環境委員会 委員長/角田 信彦	—	梅原 貴正
(一社) 日本クリケット協会	環境委員会 委員長/宮地 直樹	副委員長/本島 由起子 委 員/大鳥居 悠貴、宮地 直実	本島 由起子
(公社) 日本コントラクトブリッジ連盟	環境委員会 委員長/山田 和彦	副委員長/浅越 ことみ 委員/堀口 和義、清水 映樹、高野 英樹	高野 英樹
(一財) 日本航空協会	—	—	—



(2) IOC持続可能性とレガシー委員会

IOC Sustainability and Legacy Commission

Chair

Le Prince Souverain ALBERT II

Members

Beatrice ALLEN

Prince Jigyel Ugyen WANGCHUCK

Sari ESSAYAH

Ivo FERRIANI

The Crown Prince FREDERIK OF DENMARK

Kristin KLOSTER AASEN

Auvita RAPILLA

Jean-Christophe ROLLAND

Sarah WALKER

Aziza AKHMOUCH

Camilo AMADO

Inger ANDERSEN

Yuki ARATA

Michel BARNIER

Marie BARSAQ

Felipe CALDERON

Brence CULP

Ole DAHLIN

Muffy DAVIS

Mélanie DUPARC

Christina FIGUERES

Stéphane GARELLI

Nicoletta PICCOLROVAZZI

Stefan KANNEWISCHER

Michel LABRECQUE

Xinghua (Tony) LIU

Matlohang MOILOA-RAMOQOPO

Miriam MOYO

Holger PREUSS

Sunil SABHARWAL

Gideon SAM

Luzeng SONG

Marion SCHONE

Sarah SPRINGMAN

Director in charge

Director of Corporate Development, Brand and Sustainability

2020年3月31日現在

(3) OCAスポーツと環境委員会

OCA Sports and Environment Committee

Chairman

Mr Kyung-Sun YU

Korea

Members

Mr Khin Maung LWIN

Myanmar

Mr Abdullozoda Muhamadsho

Tajikistan

Mr Raja Wasim Ahmed

Pakistan

Mr Hussain RASHEED

Maldives

Mr Jeevan Ram SHRESTHA

Nepal

Mr Yasuhiro Nakamori

Japan

Mr Tran Van MANH

Vietnam

Dr Mehrafza Manouchehri

Islamic Republic of Iran

Mr Adil Sumariwala

India

Mr Dampath Fernando

Sri Lanka

2020年3月31日現在



(4) IOC持続可能性とレガシー委員会小史

Brief History of the IOC Sustainability and Legacy Commission

1972年	札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林
1976年	デンバーオリンピック冬季大会開催返上(経済・環境問題) 1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた 1990年代当初、オリンピック・ムーブメントに環境保全を加えた(スポーツ・文化・環境)
1992年	バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加NOC署名
1994年	第12回オリンピック・コンGRESS (IOC創立100周年)でスポーツと環境分科会開催・パリ
1995年	IOCにスポーツと環境委員会設置 委員長 パル・シュミット 第1回IOCスポーツと環境世界会議開催・ローザンヌ
1996年	委員に就任 岡野俊一郎(1996-2001)、水野正人(1996-現在)
1997年	第2回IOCスポーツと環境世界会議開催・クウェート
1999年	第3回IOCスポーツと環境世界会議開催・リオデジャネイロ オリンピックムーブメントアジェンダ21採択
2001年	第4回IOCスポーツと環境世界会議開催・長野市 "GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE"
2002年	極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・北京
2003年	第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ "PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT"
2004年	IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ハバナ
2005年	極東及び東アジア、第2回IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ドバイ 第6回IOCスポーツと環境世界会議開催・ナイロビ "SPORT, PEACE AND ENVIRONMENT"
2006年	IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・クアラルンプール IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・キングストン
2007年	第7回IOCスポーツと環境世界会議開催・北京 "FROM PLAN TO ACTION"
2008年	IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー開催・インチョン IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・コロンビア
2009年	第8回IOCスポーツと環境世界会議開催・バンクーバー "INNOVATION AND INSPIRATION : HARNESSING THE POWER OF SPORT FOR CHANGE" IOCスポーツと環境賞制定 IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・サモア
2010年	IOCスポーツと環境委員会開催
2011年	第9回IOCスポーツと環境世界会議開催・ドーハ "PLAYING FOR A GREENER FUTURE" 第2回IOCスポーツと環境賞授賞式 (公財)日本水泳連盟「IOCスポーツと環境賞」を受賞
2012年	IOCスポーツと環境委員会開催
2013年	第10回IOCスポーツと環境世界会議開催・ソチ 第3回IOCスポーツと環境賞授賞式
2014年	「オリンピック・アジェンダ2020」第127次IOC総会で採択・モナコ
2015年	「IOCスポーツと環境委員会」を「IOC持続可能性とレガシー委員会」に名称変更 IOC持続可能性とレガシー委員会(Sustainability and Legacy Commission)開催・ローザンヌ
2016年	IOC持続可能性戦略の策定
2018年	IOC持続可能性報告書 (IOC持続可能性戦略についての経過報告)の発表 国連気候変動枠組条約の気候変動対策行動枠組(スポーツ分野)への参加 国連環境計画のClean Seas Campaignに参加、海洋プラスチック対策を開始
2019年	IOC持続可能性進捗状況アップデート (IOC持続可能性戦略について2度目の報告書)の発表



(5) JOCスポーツ環境専門部会小史

Brief history of the JOC sport and Environment Commission

平成13年度 (2001年)	JOCスポーツ環境委員会設置 委員長 水野正人、委員 石川徹男、櫻井孝次、佐野和夫、瀬尾洋、早田卓次、平松純子、松岡修造、森健兒 第4回IOCスポーツと環境世界会議主催・長野市 “GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE”
平成14年度 (2002年)	ファーストポスター、パンフレット作成 極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー・北京 参加
平成15年度 (2003年)	セカンドポスター作成 平成14年度スポーツ環境委員会調査研究報告書作成 7月にISO14001認証登録、IOC加盟202NOCの中で初めて 第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ 佐野和夫スポーツ環境委員からJOCの活動を報告 “PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT”
平成16年度 (2004年)	サードポスター作成 平成15年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第1回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター (本会関係者、加盟団体、パートナー)
平成17年度 (2005年)	ジョイントポスター・パンフレット(第2版)作成 平成16年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 環境省の「チーム・マイナス6%」のメンバーとなる 第1回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・大阪市 第2回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第6回IOCスポーツと環境世界会議・ナイロビ 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告
平成18年度 (2006年)	イラストポスター・横(5th)作成 平成17年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 ISO14001認証を更新登録 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・クアラルンプール 遠藤スポーツ環境専門委員からJOCの活動を報告 第2回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・長野市 第3回スポーツと環境担当者会議開催・国立オリンピック記念青少年総合センター
平成19年度 (2007年)	イラストポスター・縦(6th)作成 平成18年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第3回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・東京都 第4回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第7回IOCスポーツと環境世界会議・北京 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・インチョン 鎌賀スポーツ環境専門委員からJOC及びNFの活動を報告
平成20年度 (2008年)	ポスター(7th)作成 平成19年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 IOCスポーツと環境競技別ガイドブック翻訳本作成・同マニュアル・CD-ROM 第4回JOCスポーツと環境・地域セミナー・広島市
平成20年度 (2008年)	第5回スポーツと環境担当者会議・ナショナルトレーニングセンター 第1回OCAコンgres・クウェート 板橋一太スポーツ環境専門委員長からJOCの活動を報告 第8回IOCスポーツと環境世界会議・バンクーバー 板橋一太スポーツ環境専門委員長出席



平成21年度 (2009年)	ポスター(8th)作成 平成20年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第5回JOCスポーツと環境・地域セミナー・福岡市 第6回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成22年度 (2010年)	ポスター(9th)作成 平成21年度スポーツ環境専門委員会活動報告書作成 第6回JOCスポーツと環境・地域セミナー・横浜市 第7回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成23年度 (2011年)	ポスター(10th)作成 平成22年度スポーツ環境専門委員会活動報告書作成 第7回JOCスポーツと環境・地域セミナー・神戸市 第8回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター (公財)日本水泳連盟が「JOCスポーツと環境賞」を受賞
平成24年度 (2012年)	ポスター(11th)作成 平成23年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第8回JOCスポーツと環境・地球セミナー・札幌市 第9回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成25年度 (2013年)	ポスター(12th)作成 平成24年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第9回JOCスポーツと環境・地域セミナー・熊本市 第10回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成26年度 (2014年)	平成25年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第10回JOCスポーツと環境・地域セミナー・秋田市 第11回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成27年度 (2015年)	ポスター(13th)作成 平成26年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第11回JOCスポーツと環境・地球セミナー・帯広市 第12回スポーツと環境担当者会議(総務委員会 フォーラム)・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成28年度 (2016年)	平成27年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第12回JOCスポーツと環境・地域セミナー・東京都 第13回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成29年度 (2017年)	ポスター(14th)作成 平成28年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第13回JOCスポーツと環境・地域セミナー・川崎市 第14回スポーツと環境担当者会議・ 味の素ナショナルトレーニングセンター
平成30年度 (2018年)	平成29年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第14回JOCスポーツと環境・地域セミナー・高崎市 第15回スポーツと環境担当者会議(総務本部フォーラム)・味の素ナショナルトレーニングセンター
令和元年度 (2019年)	ポスター(15th)作成 平成30年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第15回JOCスポーツと環境・地域セミナー・千葉県
令和2年度 (2020年)	令和元年度スポーツ環境専門部会報告書作成 JOC環境パンフレット作成

令和元年度 JOC スポーツ環境専門部会 活動報告書

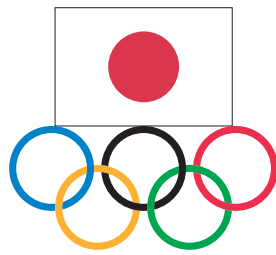
発行日：令和2年6月30日

編集・発行：公益財団法人日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門部会
〒160-0013 新宿区霞ヶ丘4-2 Japan Sport Olympic Square 13階

URL：<http://www.joc.or.jp/eco/>

印刷：広研印刷株式会社

問い合わせ：公益財団法人日本オリンピック委員会 オリンピック・ムーブメント推進部
TEL：03-6910-5950（代表） FAX：03-6910-5960



公益財団法人 日本オリンピック委員会